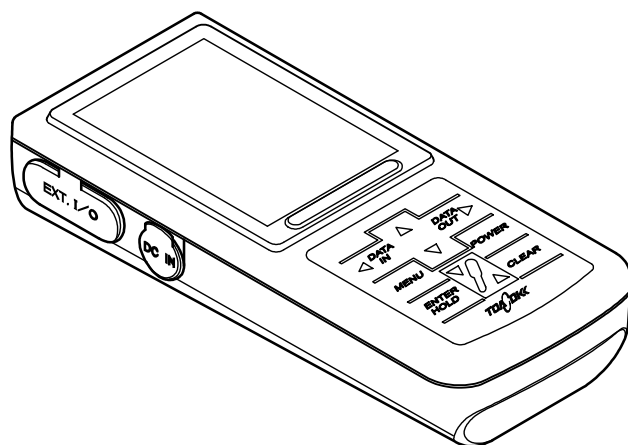


# ポータブル電気伝導率・pH計

## WM-32EP 型



- ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いください。
- この取扱説明書は、製品を実際に操作される方にお渡しください。

## はじめに

---

- (a) 当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この「ポータブル電気伝導率・pH 計 WM-32EP 型」(以下「計器」または「製品」といいます)は、現場測定に適した防水構造及びデータ管理に欠かせない時計機能やデータメモリー機能を搭載しています。また、消費電力は従来製品に比べて 1/15 に低減しています。
- (b) オプション機器として AC アダプター、外部プリンター、アナログ出力ケーブル及び RS-232C 接続ケーブルを計器本体に接続することができます。外部プリンターの印字機能では、測定値及び校正値のデータを印字することができます。
- (c) 「安全のために」は、大切なことが記載してありますので、特によくお読みください。また、後でわからないことや困ったことが起きた場合などに、この取扱説明書と電極に添付された「取扱説明書」が必要となりますので、お読みになった後も大切に保管してください。

# 安全のために

## (1) マーク類の意味

取扱説明書の警告に関するシグナル用語と記号類の意味は、次のとおりです。なお、製品のラベルなどにあるアラートシンボルマーク(△：一般注意図記号)は、危害・損害発生の可能性を知らせると同時に、「取扱説明書を参照してください」との意味を持っています。

**△警告** : 製品の取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度を表します。  
重傷とは、失明、やけど(高温、低温)、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るもの及び治療に入院、長期の通院を要する場合をいいます。

**△注意** : 製品の取り扱いを誤った場合、傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度を表します。  
傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが、やけど、感電をいいます。  
物的損害とは、家屋・家財及び家畜・ペット、設備・機材等に関わる拡大損害(製品自体以外に発生した損害)を指します。

**【重要】** : △警告及び△注意以外に関する重要事項であることを表します。製品本体の破損防止、データの破損防止、時間の浪費防止、性能の維持、法令順守などの事項です。

〔備考〕 : 理解を深めるための解説、理由、背景、特例などであることを表します。

▷ : 参照項目を表します。

①②③… : 操作などの項目番号を表します。

## (2) 安全のための順守事項

**△警告** 爆発・発火・ ●爆発性ガス、可燃性ガスなどがある所では使用しないでください。  
感電・液漏れ ●製品を火の中に入れたり、燃焼させたりしないでください。製品内部で爆発や発火の恐れがあります。  
●電極プラグ、AC アダプターカバー及び入出力カバーを脱着するときには、必ず、電源がオフであることを確認してから行ってください。製品内部に水や薬品が入ると、回路がショートし、感電や発火の恐れがあります。  
●長期間ご使用にならない場合、必ず、単3形アルカリ乾電池または単3形充電式ニッケル水素電池を製品から取り外してください。まれに

電池より液漏れする場合があります。

- |       |  |
|-------|--|
| 危険有害物 | ●電極洗浄用の塩酸は有害物です。保護具を着けて取り扱ってください。なお、必ず、製品安全データシート(MSDS)を確認してください。              |
| 転落    | ●測定ポイントで作業するときは、安全帯などの転落防止処置をしてください。また、けが防止のために、ヘルメット、ライフジャケット、安全靴などを着用してください。 |

## ⚠注意

- |         |   |
|---------|---|
| けが      | ●pH電極の一部はガラス製です。破損しないように注意して取り扱ってください。誤って破損した場合、ガラスの破片でけがをする可能性があります。   |
| 防水      | ●製品は、pH電極や電気伝導率セル、電池カバー、ACアダプターカバー及び入出力カバーを正しく取り付けられた状態ではじめて防水構造(IP67)となります。<br>●pH電極や電気伝導率セルを外したり、電池カバー、ACアダプターカバー及び入出力カバーを開けた状態で、濡れた手で触れたり、水で洗ったりしないでください。また、水や薬品などが入る恐れのある場所に、設置または保管しないでください。 |
| 混入      | ●測定槽へ計器本体などを落とさないでください。損害発生の原因になることがあります。   |
| 分解・改造   | ●取扱説明書で説明していない部分の分解・改造はしないでください。損害発生の原因になることがあります。  |
| 注意ラベル紛失 | ●製品に張り付けてある注意ラベルが読めなくなったときは、販売店または当社営業所へご注文のうえ取り寄せ、元の位置に張り付けてください。  |

### (3) 取扱説明書の取り扱い

この取扱説明書には「安全のための順守事項」など大切なことが記載してあります。次のように取り扱ってください。

- (a) 取扱説明書は、運転開始時だけでなく、その後の操作、保守、及び故障時にも必要です。実際に製品を操作される方がいつでも見られるように、製品のそばに置いてください。
- (b) 取扱説明書が紛失または汚損して使えなくなったときは、販売店などへ取扱説明書をご注文ください。
- (c) 取扱説明書、製品のラベルなどにある図には、より理解しやすくするために形状や画面の一部を省略または抽象化したものがあります。なお、画面例の数字などは一例です。
- (d) 期間の経過に伴って、同一製品であっても、品質向上などのためにその取扱説明書の内容を予告なしに変更することがあります。
- (e) 取扱説明書の知的所有権は当社に帰属します。当社に無断で、全部または一部を転載しないでください。

# 製品の保証

## (1) 本保証の適用対象

東亜ディーケーケー株式会社(以下「当社」という)は、当該製品が当社所定の仕様(以下「仕様」という)どおり良好に稼働することを保証します。保証期間内に発生した故障は、無償で修理いたします。

- (a) 本製品の保証期間は、納入日から2年間です。
- (b) 個別に契約された保証が存在するときは、個別契約を優先します。
- (c) 保証対象とならない故障・損傷が当社の責に帰する場合は、保証期間にかかわらず法律上の権利を制限するものではありません。

## (2) 本保証の適用除外

本保証は、以下のものには適用されません。有償での修理対応となります。

- (a) 当該製品の仕様及び取扱説明書に記載された範囲を超える目的や使用方法によって生じた、直接または間接的な故障・損傷など。
- (b) 地震・風水害・落雷等の天災地変、事故、火災、異常電圧、塩害、ガス害などの災害によって生じた、直接または間接的な故障・損傷など。
- (c) お客様の責に帰する誤った修理・改造による故障・損傷など。
- (d) ご購入後におけるお客様の責に帰する輸送、移動、落下などによる故障・損傷など。
- (e) 電気伝導率セル及び消耗品。
- (f) 当社製以外の消耗品、部品、ソフトウェアなどが使用されたことに起因する故障・損傷など。
- (g) 当社製以外の接続機器に起因して発生した故障・損傷など。
- (h) 製品に保存されたお客様のデータ、設定情報、プログラム、及びソフトウェアなどのお客様の責に帰する消失。
- (i) お客様との契約仕様書等に基づいて、お客様指定の他社製品を当社製品と組み合わせた製品(当社製品への組み込み製品を含む)の保証については、当社製品に限って当社が保証し、他社製品は他社の保証(\*1)に帰属する。
- (j) 当社が取扱説明書で指定する保守期間を過ぎた保守項目の不履行に起因する故障・損傷。
- (k) 日本国外での使用(日本国外での使用に関しては個別の契約が必要)。
- (l) 製品銘板の無い製品(ただし当社から納品された証拠がある場合を除く)。

## (3) その他

- (a) 本保証は日本国内に限って有効です。
- (b) 当該製品の保守部品(\*2)のお客様への通常供給期間は、製造販売中止後5年間(\*3)です。
- (c) 故障・損傷などの原因は当社技術員が判定いたします。
- (d) 修理は、当社営業窓口までご用命ください。

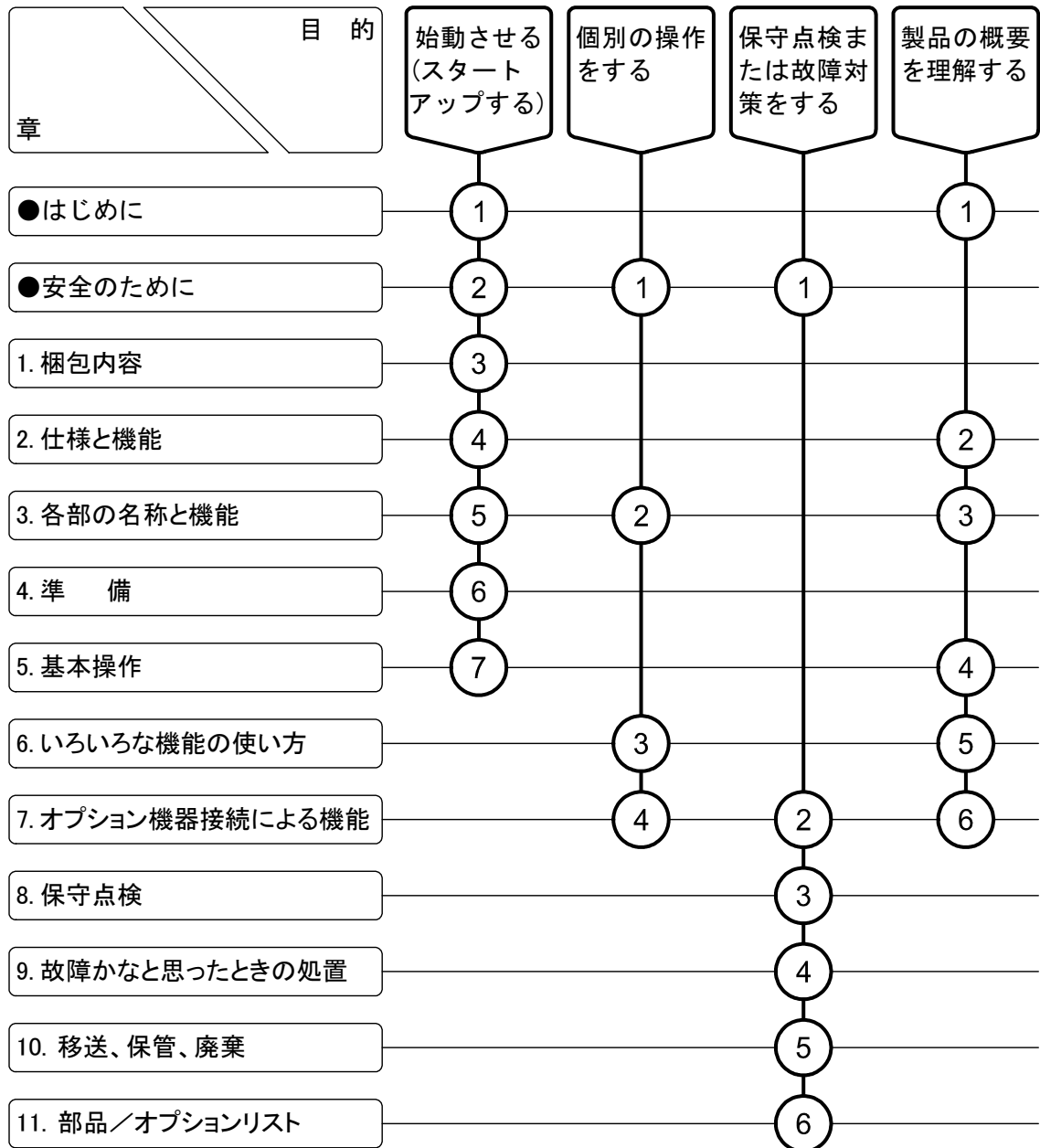
\*1：他社製品の保証書は、お客様のお手元で管理をお願い申し上げます。

\*2：保守部品とは、製品の稼働を維持するために必要な補用品です。

\*3：調達不可能で代替品がないときは、5年未満となる場合もあります。

# 読み方ガイド

製品の概要を理解する、始動させるなどの目的によって、この取扱説明書の必要な項目を参照してください。図中の丸数字が主として参照する項目と順序です。



# 目 次

---

●はじめに	1
●安全のために	2
(1) マーク類の意味	2
(2) 安全のための順守事項	2
(3) 取扱説明書の取り扱い	3
●製品の保証	4
●読み方ガイド	5
1. 梱包内容	10
2. 仕様と機能	11
(1) 仕様	11
(2) 機能	13
3. 各部の名称と機能	15
(1) 本体と操作パネル	15
(2) 表示部	16
(3) 電気伝導率セル	19
(4) pH 電極	20
4. 準備	21
4.1 ハンドストラップの取り付け	21
4.2 電池の取り付け	21
4.3 pH 電極及び電気伝導率セルの接続	24
4.4 電気伝導率セルの確認	25
4.5 pH 電極の準備	26
5. 基本操作	27
5.1 操作画面マップ	27
(1) 電気伝導率(CH1)の操作画面マップ	27

(2) pH/ORP (CH2)の操作画面マップ …	28
5.2 電源の投入 ……	29
5.3 時刻合わせ ……	30
5.4 有効チャンネルの選択 ……	31
5.5 pH 校正 ……	32
(1) 校正の実行(二点校正) …	32
(2) 校正の実行(一点校正、三点校正) …	34
(3) 校正の中止 …	35
(4) 校正データの消去 …	35
(5) 最新の校正データ表示 …	35
5.6 電気伝導率の測定 ……	36
(1) ビーカーワークでの測定 …	36
(2) 浸漬測定 …	38
5.7 電気抵抗率の測定 ……	40
5.8 塩分換算値の測定 ……	41
5.9 pH 測定 ……	41
(1) ビーカーワークでの測定 …	41
(2) 浸漬測定 …	43
5.10 酸化還元電位(ORP)の測定 ……	45
(1) ビーカーワークでの測定 …	46
(2) 浸漬測定 …	47
(3) ORP チェック液によるチェック …	49
5.11 電気伝導率の測定終了 ……	50
5.12 pH/ORP 電極の測定終了 ……	51
(1) 短期間の電極保管 …	51
(2) 長期間の電極保管 …	52
<b>6. いろいろな機能の使い方 ……</b>	<b>53</b>
6.1 モード切り替えの設定 ……	53
(1) 電気伝導率(CH1)のモード設定 …	53
(2) pH/ORP (CH2)のモード設定 …	54
6.2 オートホールド機能 ……	55
(1) オートホールドによるメモリー実行 …	55
6.3 データメモリー機能 ……	56
(1) データナンバーの設定 …	56
(2) 手動キーによるメモリー実行 …	57
(3) メモリーデータの呼び出し …	58

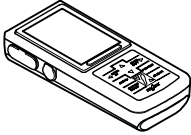
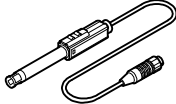
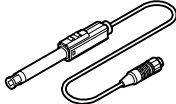




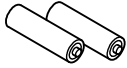

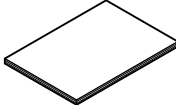


6.4	インターバル機能	60
	(1) インターバル機能と時間の設定	60
	(2) インターバルによるメモリー実行	61
6.5	mV シフト機能	64
	(1) Eh 換算モードの実行	64
	(2) ゼロシフトモードの実行	65
6.6	電気伝導率の温度補償・温度係数の設定	66
6.7	pH の手動温度補償の設定	68
6.8	電気伝導率のレンジ切り替えの設定	70
6.9	電気伝導率のセル定数の設定	72
6.10	校正履歴機能	73
	(1) 電気伝導率(CH1)の校正履歴表示	73
	(2) pH (CH2)の校正履歴表示	74
	(3) 最新の pH 校正データの履歴保存	75
	(4) 校正履歴の印字	76
6.11	温度校正機能	77
	(1) 温度校正の実行	77
6.12	メモリー上書きオンオフの設定	79
6.13	ブザーオンオフの設定	80
6.14	オートパワーオフの設定	81
6.15	表示チャンネルの設定	82
6.16	セル定数の校正	83
	(1) 塩化カリウム校正液の調整	83
	(2) セル定数の校正手順	84
6.17	新旧単位の設定	86
6.18	pH 標準液種類の設定	87
6.19	pH 校正間隔管理の設定	89
7.	オプション機器接続による機能	90
7.1	オプション機器の接続	90
	(1) AC アダプターの接続	90
	(2) アナログ出力ケーブルの接続	91
	(3) 外部プリンター用接続ケーブルの接続	91
	(4) RS-232C 接続ケーブルの接続	92
7.2	外部プリンターによる印字機能	93
	(1) 校正値／校正履歴の印字	93
	(2) 測定値の印字	95

7.3	RS-232C 通信機能	98
	(1) RS-232C 通信フォーマット	98
	(2) データ収録ソフト	106
7.4	記録計との接続	107
	(1) アナログ出力ケーブルの接続	107
	(2) アナログ出力の仕様	108
	(3) アナログ出力ケーブル端子結線	108
8.	保守点検	109
8.1	本体のお手入れ	109
8.2	電気伝導率セルのお手入れ	110
	(1) 通常のお手入れ	110
	(2) 電気伝導率セルが汚れているときのお手入れ	110
8.3	pH 電極のお手入れ	111
	(1) 通常のお手入れ	111
	(2) 電極が汚れているときのお手入れ	112
8.4	ORP 電極のお手入れ	113
8.5	電池の交換時期	113
9.	故障かなと思ったときの処置	114
9.1	異常が発生したときの安全上の注意	114
9.2	エラー表示	114
9.3	その他のトラブルと対策	117
9.4	システムリセットの方法	119
	(1) 全データ、パラメーターを工場出荷値に戻す場合	119
	(2) 時計データと測定データ以外を工場出荷値に戻す場合	119
10.	移送、保管、廃棄	120
10.1	移 送	120
10.2	保 管	121
10.3	廃 棄	121
11.	部品／オプションリスト	122
	(最終ページ	125)

# 1. 梱包内容

梱包内容一覧リスト

分類	名称	型名	数量	外観
本体	ポータブル電気伝導率・pH計	WM-32EP	1	
付属品	電気伝導率セル(メモリー内蔵タイプ)*1	CT-27112B	1	
	pH複合電極 *1	GST-2729C	1	
	標準液 pH6.86 100mL pH4.01 100mL	—	各1	
	比較電極内部液 50mL	—	1	
	ポリビーカー(50mL)	—	3	
	ハンドストラップ	0TZ00006	1	
	単3形電池(サンプル提供品)*2	—	2	
	コネクター保護キャップ	0TD00001	1	
	取扱説明書	—	1	

〔備考〕 \*1：本体のみご購入の場合は添付されません。

\*2：本電池は、サンプル提供品です。電池寿命が極端に短い場合がありますので、市販の単3形アルカリ乾電池、または単3形充電式ニッケル水素電池をご購入の上、交換してください。

## 2. 仕様と機能

### (1) 仕様

製品名	ポータブル電気伝導率計・pH計				
型名	WM-32EP				
測定チャンネル	チャンネル1	チャンネル2			
測定項目	電気伝導率／電気抵抗率／塩分(電気抵抗率換算)／温度	pH/ORP (mV)／温度			
形式	—		JIS形式I (pH)		
測定方式	交流2電極法	pH：ガラス電極法 ORP：白金電極法			
表示	デジタル(2チャンネル同時表示) ----- 電気伝導率／電気抵抗率／塩分(電気抵抗率換算)、温度 ----- 時刻(月日、時分)同時表示				
測定範囲	電気伝導率	範囲	CT-27112B (250m <sup>-1</sup> ) 0.1mS/m～10S/m CT-57101B (100m <sup>-1</sup> ) 0.1mS/m～10S/m CT-57101C (10m <sup>-1</sup> ) 5μS/m～1S/m CT-57101A (1000m <sup>-1</sup> ) 1mS/m～100S/m	—	
		分解能	0.05%(F.S.)	—	
		電気抵抗率	範囲	CT-27112B (250m <sup>-1</sup> ) 0.1Ω・m～10kΩ・m CT-57101B (100m <sup>-1</sup> ) 0.1Ω・m～10kΩ・m CT-57101C (10m <sup>-1</sup> ) 1Ω・m～200kΩ・m CT-57101A (1000m <sup>-1</sup> ) 0.01Ω・m～1kΩ・m	—
			分解能	0.05%(F.S.)	—
	塩分		範囲	0.00～4.00%	—
			分解能	0.01%	—
	pH	範囲	—	pH0.00～pH14.00	
		分解能	—	0.01pH	
	ORP (mV)	範囲	—	-2000～2000mV	
		分解能	—	1mV	
	温度	範囲	0.0～100.0℃(電気伝導率セルによる)	0.0～100.0℃	
		分解能	0.1℃	0.1℃	

(続く)

(続き)

表示範囲	電気伝導率／電気抵抗率		▷ 次表「セル型名と表示範囲一覧表」	—
	塩分		0.0～4.04%	—
	pH	範囲	—	pH-2.00～pH16.00
		分解能	—	0.01pH
	mV	範囲	—	-2200～2200mV
		分解能	—	1mV
温度	範囲	-5.0～110.0℃	-5.0～110.0℃	
繰り返し性(本体)	電気伝導率／電気抵抗率 ／塩分		±0.5%(F.S.)	—
	pH		—	±0.02pH
	mV		—	±2mV
	温度		±0.2℃	±0.2℃
温度補償範囲	ATC (自動温度補償)		0.0～100.0℃	0.0～100.0℃
	MTC (手動温度補償)		0.0～100.0℃	0.0～100.0℃
温度係数			0～9.99%/℃(任意設定可)	—
基準温度			25℃(固定)	—
pH 校正			—	pH1、4、7、9、(10)、12 の 1～3 点校正
防水構造			IP67 *1	
印字機能 *2			インターフェース標準装備 プリンターはオプション	
RS-232C インターフェース *2			標準装備(非絶縁)	
アナログ出力			標準装備(非絶縁)	
電源			単 3 形アルカリ乾電池(2 本)、単 3 形充電式ニッケル水素電池(2 本) または AC アダプター(オプション)	
本体寸法			約 35(高)×68(幅)×173(奥) mm	
本体質量			約 300g	
性能保証温度範囲			0～45℃ *3	

\*1：電極非接続時、外部入出力(オプション)使用時無効。

\*2：同時に使用することはできません。

\*3：オプションの AC アダプター、外部プリンターを使用の場合は、0～40℃。

セル型名と表示範囲一覧表

セル型名	CT-57101C	CT-57101B CT-27112B	CT-57101A
電気伝導率 表示レンジ	0.0~200.0 $\mu$ S/m	—	—
	0.000~2.000mS/m	0.000~2.000mS/m	—
	0.00~20.00mS/m	0.00~20.00mS/m	0.00~20.00mS/m
	0.0~200.0mS/m	0.0~200.0mS/m	0.0~200.0mS/m
	0.000~2.000S/m	0.000~2.000S/m	0.000~2.000S/m
	—	0.00~20.00S/m	0.00~20.00S/m
	—	—	0.0~200.0S/m
電気抵抗率 表示レンジ	0.500~2.000 $\Omega \cdot m$	0.050~2.000 $\Omega \cdot m$	0.005~2.000 $\Omega \cdot m$
	0.50~20.00 $\Omega \cdot m$	0.05~20.00 $\Omega \cdot m$	0.00~20.00 $\Omega \cdot m$
	0.5~200.0 $\Omega \cdot m$	0.0~200.0 $\Omega \cdot m$	0.0~200.0 $\Omega \cdot m$
	0.000~2.000k $\Omega \cdot m$	0.000~2.000k $\Omega \cdot m$	0.000~2.000k $\Omega \cdot m$
	0.00~20.00 k $\Omega \cdot m$	0.00~20.00 k $\Omega \cdot m$	0.00~20.00 k $\Omega \cdot m$
	0.0~200.0 k $\Omega \cdot m$	0.0~200.0 k $\Omega \cdot m$	0.0~200.0 k $\Omega \cdot m$
	0.000~2.000M $\Omega \cdot m$	0.000~2.000M $\Omega \cdot m$	—
	—	—	—

## (2) 機能

時計機能	内蔵	
データメモリー	1000 データ (測定時刻、測定値、温度)	
インターバル機能	ショートインターバル(1 秒~99 分 59 秒)ごとのデータメモリー ※1 ロングインターバル(2 分~99 時 59 分)ごとのデータメモリー	
校正履歴	最新の校正データ	
	電気伝導率セル“キャル・メモ” (CT-27112B 型など)を組み合わせた場合は、電気伝導率セル側で最新含め 10 校正データ分を保存可能。	pH 複合電極“キャル・メモ”(GST-2729C 型など)を組み合わせた場合は、電極側で最新含め 3 校正データ分を保存可能。
単位切り替え	電気伝導率/電気抵抗率の SI 単位、旧単位(cm)切り替え表示可。	
セル定数自動読み込み	メモリー内蔵センサー使用時のみ有効。 電気伝導率セル個別のセル定数を自動読み込み。	
オートパワーオフ	オンオフの設定が可能。 ON 時 : 10 分/20 分/30 分/60 分間キー操作をしない場合、電源オフ。	
pH 標準液の選択	JIS 規格、US 規格のいずれかの標準液を選択(設定)可能。	
温度校正機能	1 点校正(各チャンネル独立)	

(続く)

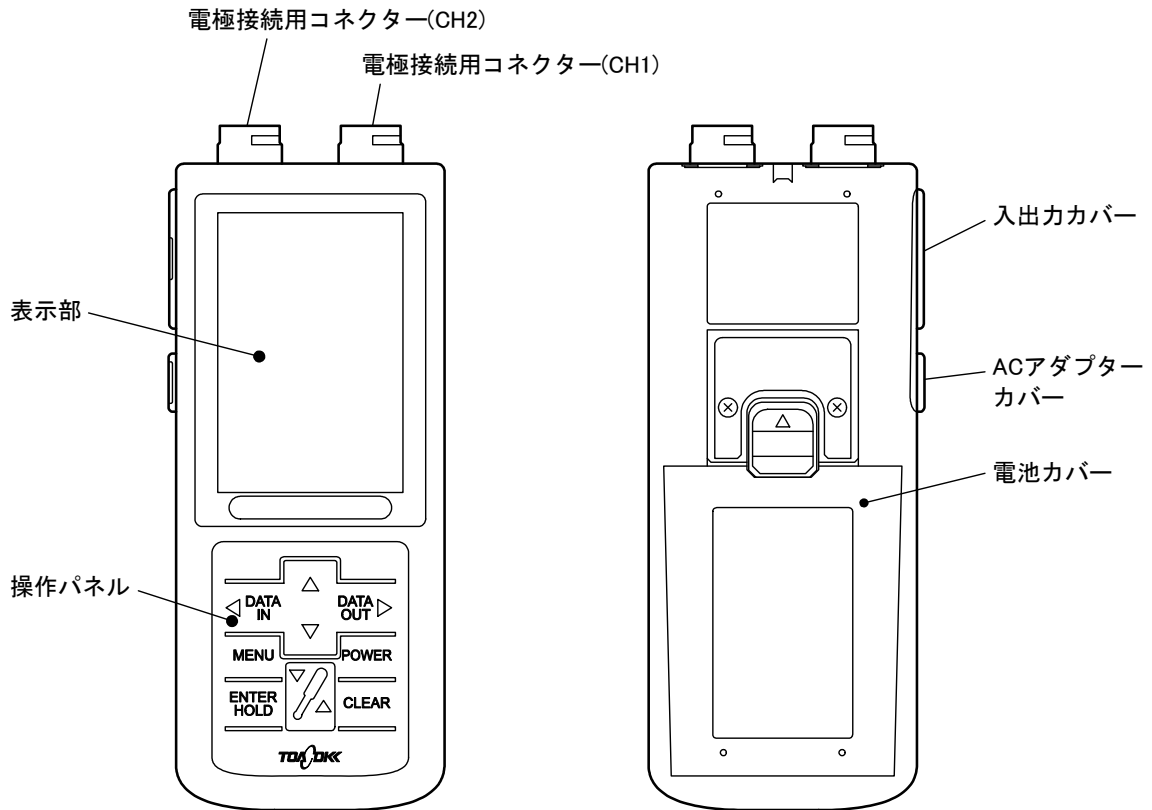
(続き)

オートホールド機能	有
印字機能	外部プリンター接続時 1. 測定値の印字 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マニュアル印字</li> <li>・ オートホールド機能による印字</li> <li>・ インターバル機能による印字</li> <li>・ メモリーデータの印字</li> </ul> 2. 校正データ／履歴(スロープ、起電力等)の印字
RS-232C インターフェース	標準装備(2チャンネル測定値同時出力)(非絶縁)
アナログ出力	標準装備(2チャンネル同時出力)(非絶縁) <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 電気伝導率／電気抵抗率／塩分(電気抵抗率換算)(フルスケール 1V)、測定レンジ(100mV／レンジ、温度出力(0～100℃→0～1V)   pH(pH0～14→±700mV)または mV (±2000mV→0～±1V)、温度出力(0～100℃→0～1V)

※1 外部プリンター接続時、最小インターバルは5秒となります。




## 3. 各部の名称と機能

### (1) 本体と操作パネル



本体の名称

#### 操作パネルのキー種類と機能

キーの種類(本文中の表記)	機 能
電源スイッチ ( <b>POWER</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 秒以上押すと、電源のオンオフ(ON/OFF)を行う。</li> <li>・ 2 秒未満で押すと、いずれの画面においても、直接、[測定画面]に戻る。</li> </ul>
セルまたは電極キー (  )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有効チャンネル 1 のとき： 2 秒未満で押すと、マニュアルレンジに切り替わる。</li> <li>・ 有効チャンネル 1 のとき： 2 秒以上押すと、オートレンジに切り替わる。</li> <li>・ 有効チャンネル 2 のとき： 2 秒以上押すと、校正の開始/中止を行う。</li> </ul>
メニューキー( <b>MENU</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [メニュー画面]に切り替える。</li> </ul>
アップキー、ダウンキー (  )、  )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数値変更(増減)、機能選択を切り替える。</li> <li>・ 有効チャンネルを切り替える。</li> </ul>

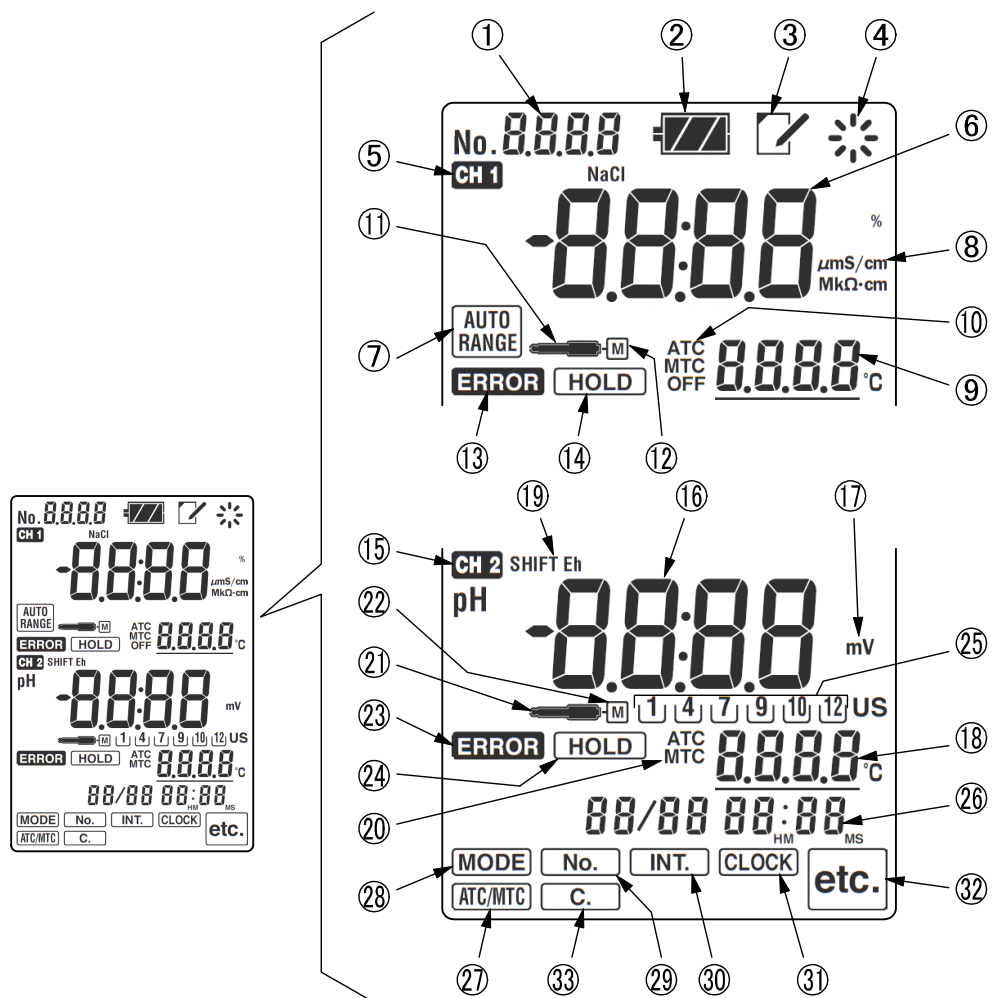
(続く)










(続き)

キーの種類(本文中の表記)	機 能
エンター/ホールドキー ( <b>ENTER/HOLD</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 数値決定、オートホールド機能を実行する。</li> <li>• 1つ先の画面へ切り替える。</li> </ul>
クリアキー ( <b>CLEAR</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 校正値の削除などを行う。</li> <li>• 1つ前の画面へ戻る。</li> </ul>
データイン/左矢印キー ( <b>←/DATA IN</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 測定値を保存する。</li> <li>• [メニュー画面]で[MODE]、[No.]、[INT.]、[CLOCK]、[ATC/MTC]、[C.] 及び [etc.] の各マークを選択する。</li> </ul>
データアウト/右矢印キー ( <b>DATA OUT/→</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保存した測定値を表示する。</li> <li>• [メニュー画面]で[MODE]、[No.]、[INT.]、[CLOCK]、[ATC/MTC]、[C.] 及び [etc.] の各マークを選択する。</li> </ul>

## (2) 表示部



## 表示部の名称と機能

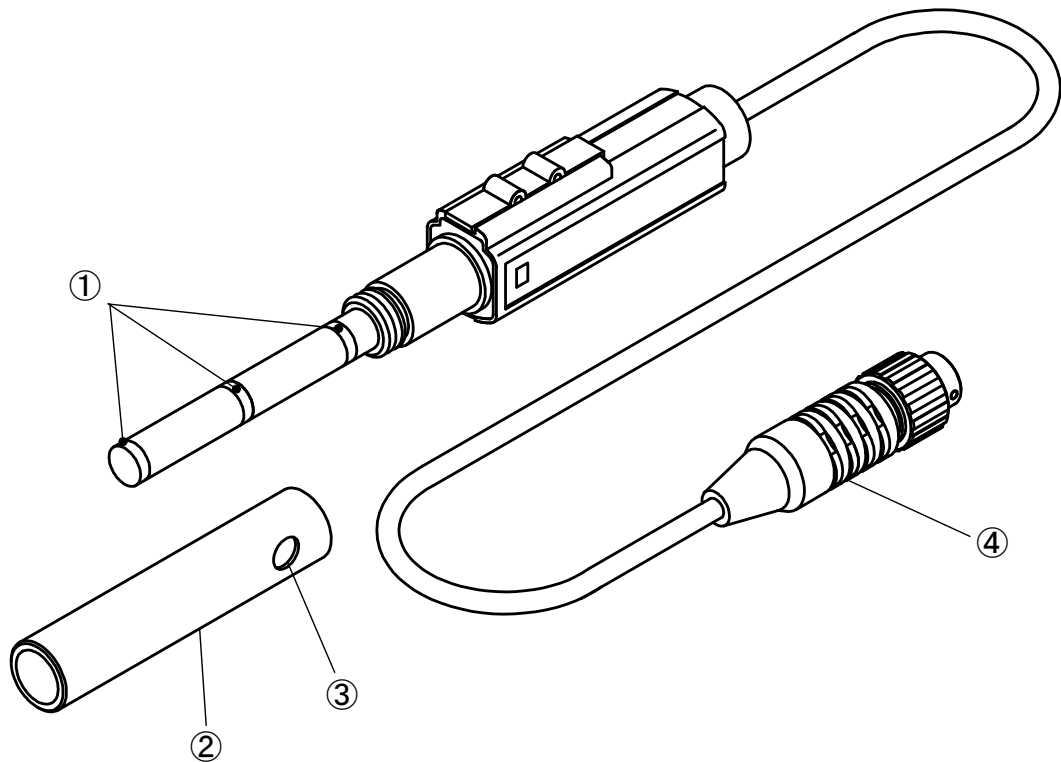
番号	名 称 (本文中の表記)	機 能
①	データナンバー表示部	・ データナンバーを表示。
②	電池マーク 	・ 電池の残量を表示(4段階表示)。
③	メモマーク 	・ メモリーデータを表示している時に点灯。
④	動作表示マーク 	・ 動作状態を表示。
⑤	チャンネル1表示 マーク( <b>CH1</b> )	・ このマークが点灯しているときは、電気伝導率の校正または設定ができる。
⑥	CH1 主表示部	・ 電気伝導率または電気抵抗率、塩分測定値を表示。
⑦	AUTO RANGE マーク	・ オートレンジ時に点灯。
⑧	CH1 単位表示部	・ 電気伝導率または電気抵抗率、塩分測定値を表示。
⑨	CH1 温度表示部	・ CH1 の温度測定値を表示。 ・ 温度校正の実行後は、アンダーラインを表示。
⑩	CH1 温度補償マーク ATC MTC OFF	・ 温度補償方法を表示(ATC/MTC/OFF)。 (「ATC」：自動温度補償、「MTC」：手動温度補償、「OFF」：温度補償なし)
⑪	CH1 セルマーク 	・ 電気伝導率セル接続時に点灯。
⑫	CH1 M マーク 	・ メモリー内蔵センサーを組み合わせた場合に点灯。
⑬	CH1 エラーマーク 	・ CH1 のエラー発生時に点滅。
⑭	CH1 ホールドマーク 	・ CH1 の測定値がホールドされている場合(ホールド待機状態)に点灯。 ・ オートホールド実行中に点滅。
⑮	チャンネル2表示 マーク( <b>CH2</b> )	・ このマークが点灯しているときは、pH の校正または設定ができる。
⑯	CH2 主表示部	・ pH または ORP 測定値を表示。
⑰	CH2 単位表示部	・ pH または ORP の単位を表示。
⑱	CH2 温度表示部	・ CH2 の温度測定値を表示。 ・ 温度校正の実行後は、アンダーラインを表示。
⑲	ORP 換算マーク	・ ORP 測定時に mV シフト機能の換算モードを表示する(「SHIFT」 ／「Eh」／通常(消灯))。

(続く)

(続き)

番号	名 称 (本文中の表記)	機 能
⑳	CH2 温度補償マーク ( <b>ATC</b> <b>MTC</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• pH の温度補償方法(「ATC」、「MTC」)を表示。 (「ATC」: 自動温度補償、「MTC」: 手動温度補償)</li> </ul>
㉑	CH2 電極マーク ( <b>●</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• pH 電極接続時に点灯。</li> <li>• 校正スタート後、安定判別及び校正実行中に点滅し、校正終了時に点灯。</li> <li>• pH 校正管理期限になると点滅。</li> </ul>
㉒	CH2 M マーク ( <b>M</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• pH 複合電極“キャル・メモ”(GST-2729C 型)を組み合わせた場合に点灯。</li> </ul>
㉓	CH2 エラーマーク ( <b>ERROR</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CH2 のエラー発生時に点滅。</li> </ul>
㉔	CH2 ホールドマーク ( <b>HOLD</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CH2 の測定値がホールドされている場合(ホールド待機状態)に点灯。</li> <li>• オートホールドによるメモリー実行中に点滅。</li> </ul>
㉕	標準液ボトルマーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>• pH 校正されている標準液マークが点灯。</li> </ul>
㉖	日時表示部	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現在の日時を表示(月/日 時:分)。</li> </ul>
㉗	ATC/MTC マーク ( <b>ATC/MTC</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 温度補償方法(「ATC」、「MTC」)の設定時に点灯。</li> </ul>
㉘	MODE マーク ( <b>MODE</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 有効チャンネル1 のとき: 電気伝導率/電気抵抗率/塩分換算値の各モードを切り替えるときに点灯。</li> <li>• 有効チャンネル2 のとき: pH モードと ORP モードを切り替えるときに点灯。</li> </ul>
㉙	No. マーク ( <b>No.</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• データナンバーを設定する場合に点灯。</li> </ul>
㉚	INT. マーク ( <b>INT.</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• インターバル機能/時間設定時、インターバル実行時に点灯。</li> <li>• インターバル待機状態のときに点滅。</li> </ul>
㉛	CLOCK マーク ( <b>CLOCK</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 時計合わせ設定時に点灯。</li> </ul>
㉜	etc. マーク ( <b>etc.</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• オートパワーオフ解除などの各設定時に点灯。</li> </ul>
㉝	C. マーク ( <b>C.</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 電気伝導率セルのセル定数の確認及び設定時に点滅。</li> </ul>

## (3) 電気伝導率セル

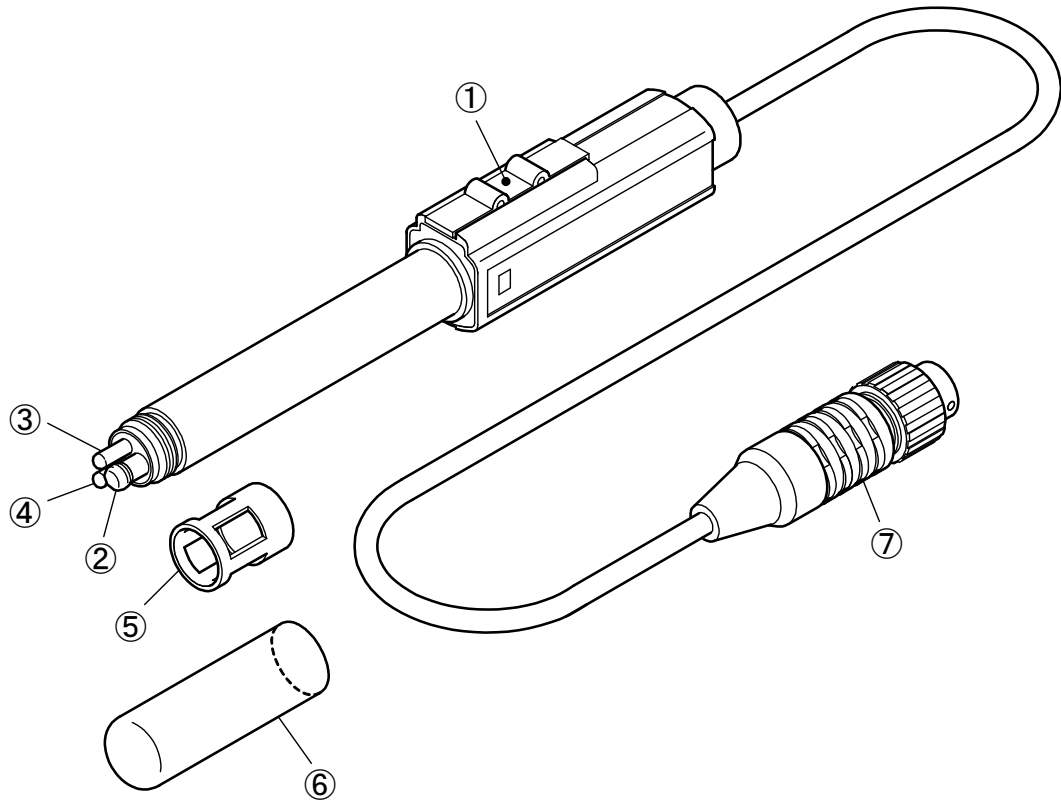


電気伝導率セル

電気伝導率セルの名称と内容

番号	名称	内容
①	極	—
②	外筒	・ 測定時は電気伝導率セル部分に装着する。
③	気泡排出部	—
④	セルプラグ	・ 計器本体に電気伝導率セルを接続するためのプラグ。

## (4) pH 電極



pH 電極

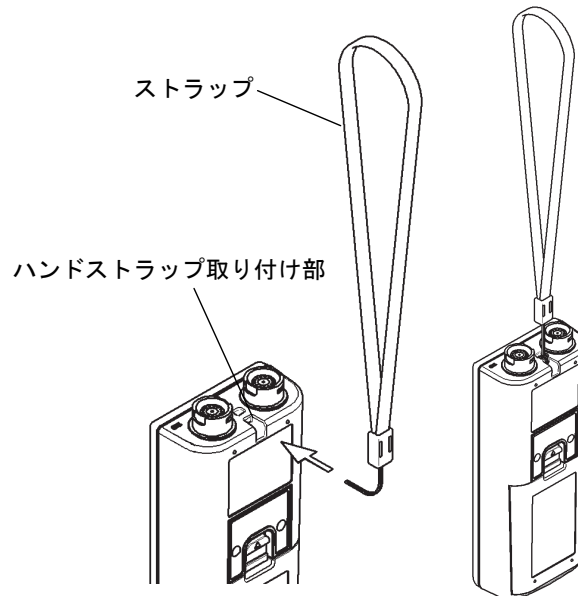
pH 電極の名称と内容

番号	名称	内容
①	内部液補充口	・ 比較電極内部液を入れるときに使用。
②	ガラス膜	・ pH 感応部
③	液絡部	・ 測定溶液と比較電極の接点。
④	温度センサー	・ 温度検知部
⑤	保護カバー	・ 電極使用時の不慮の事故からガラス膜を保護する。 (出荷時は電極に装着済みのため、通常はそのまま使用してください。)
⑥	保護キャップ	・ 電極を保管する際にガラス膜を保護する。
⑦	電極プラグ	・ 計器本体に電極を接続するためのプラグ。

## 4. 準備

### 4.1 ハンドストラップの取り付け

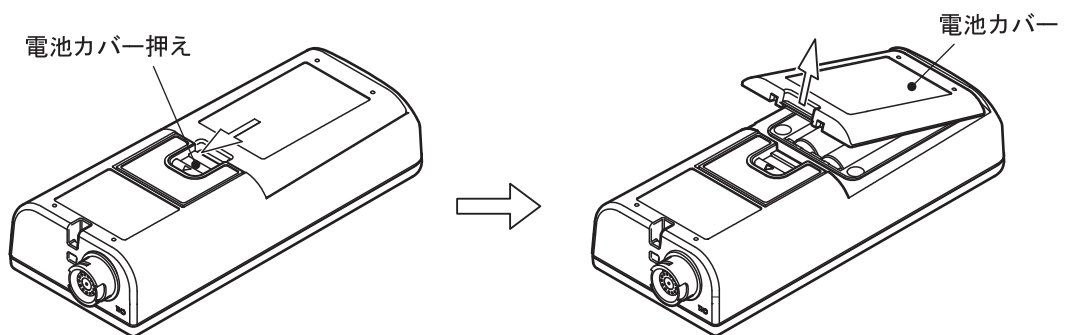
添付のハンドストラップを次図のように取り付けてください(取り付け方法は、携帯電話のハンドストラップと同様です)。



ハンドストラップの取り付け

### 4.2 電池の取り付け

- ① 電池カバーを外す……電池カバー押さえを指で矢印方向へスライドさせたのち、電池カバーの両端を指で引っ張りながら、電池カバーを外してください。



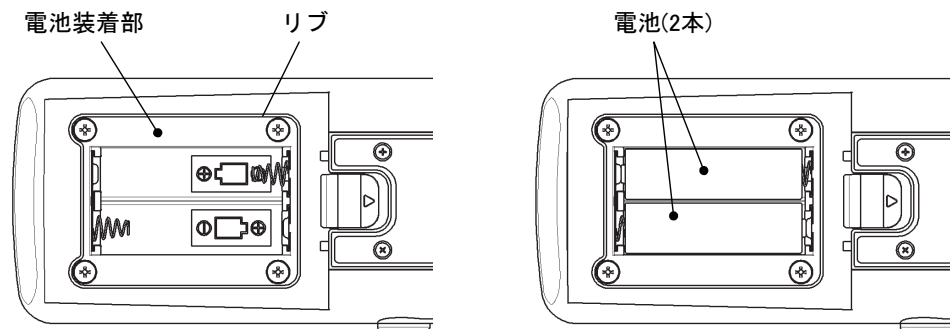
電池カバーを外す

- ② 電池を装着する……電池装着部の電池の装着方向を確認したのち、単3形アルカリ乾電池(2本)または単3形充電式ニッケル水素電池(2本)を装着してください。

・電池による駆動時間はアルカリ乾電池を使用した場合、約600時間です(駆動時間は、電池性能、使用環境などにより異なる場合があります)。

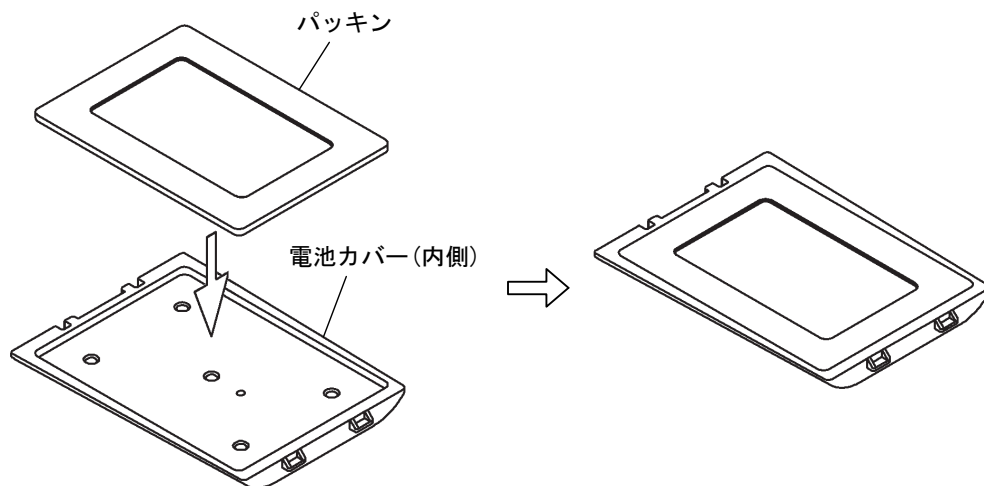
- ・ 電池の交換時期は、「8.5 電池の交換時期」を参照してください。

**【重要】** ・ 電池の装着時には、「+、-」を間違えないように気をつけてください。



電池を装着する

- ③ **パッキンを確認する**……パッキンが電池カバー(内側)に正しく装着されていることを確認してください。

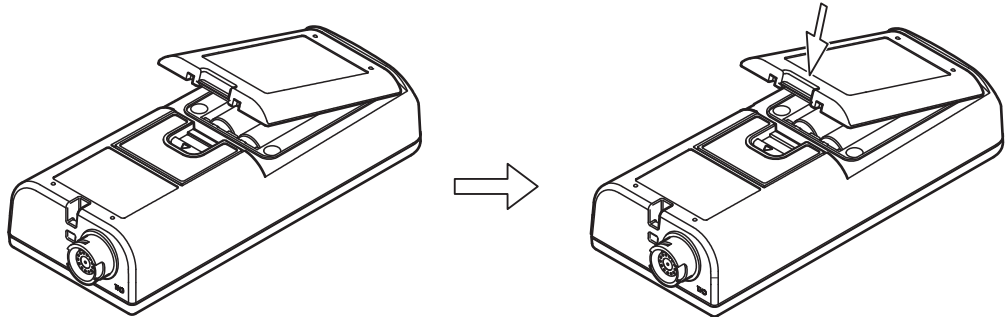


<交換する場合>

パッキンの装着を確認する

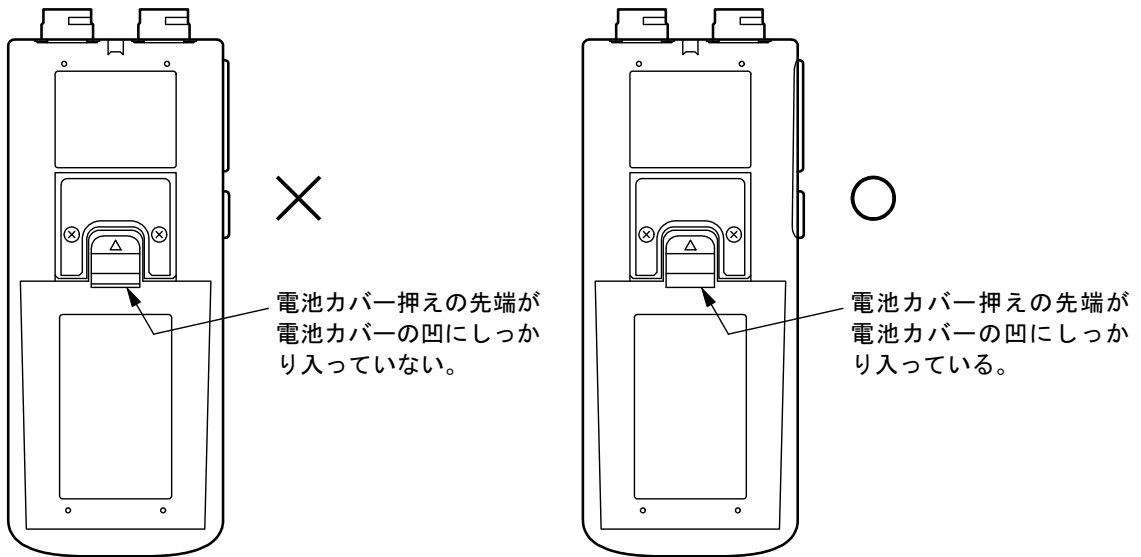
- 【重要】** ・ 電池カバーを取り付けるときは、パッキン及びリブ(パッキンをシールする部分)に傷などの劣化やゴミなどの付着がないことを確認してください。
- ・ もし、パッキンに傷や亀裂などの劣化がある場合は、必ず、新しいものと交換してください(▷ 「11. 部品/オプションリスト」)。また、パッキン及びリブにゴミが付着している場合は、きれいに取り除いてください。いずれの場合もそのまま使用すると、防水機能を保証できません。
  - ・ パッキンを交換する場合は、上図を参照して正しく装着されていることを確認してください。もし、パッキンが電池カバーから外れている場合は、正しく装着し直してください。

- ④ **電池カバーを取り付ける**……電池カバーのツメを本体に引っかけ、矢印の方向に押しつけてカバーを本体に取り付けてください。このとき、電池カバー押えの先端が電池カバーの凹にしっかり入っていることを確認してください。もし、しっかり入っていない場合は電池カバーを本体にしっかり押し付けてください。



電池カバーのツメを引っかける

電池カバーを取り付ける



×  
電池カバー押えの先端が電池カバーの凹にしっかり入っていない。

○  
電池カバー押えの先端が電池カバーの凹にしっかり入っている。

電池カバー押えの先端を確認



## 4.3 pH 電極及び電気伝導率セルの接続

- (a) 電極接続用コネクタ(CH1)には、電気伝導率セルを接続してください。表示部はチャンネル 1(上側)になります。
- (b) 電極接続用コネクタ(CH2)には、pH 電極を接続してください。表示部はチャンネル 2(下側)になります。

### ⚠ 警告

発火・感電

- 電極プラグ、AC アダプターカバー及び入出力カバーを脱着するときには、必ず、電源がオフであることを確認してから行ってください。製品内部に水や薬品が入ると、回路がショートし、感電や発火の恐れがあります。

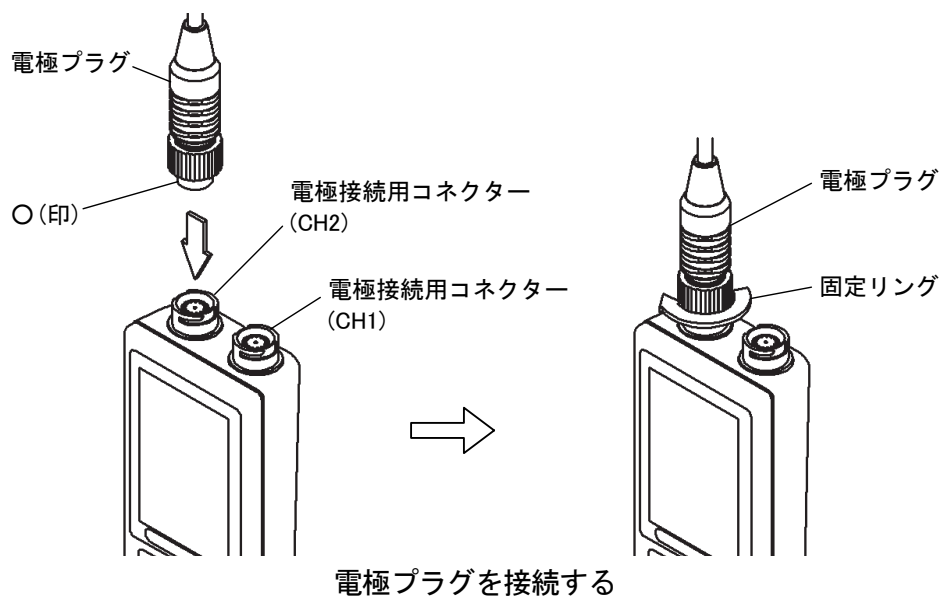
### ⚠ 注意

防 水

- 製品は、pH 電極や電気伝導率セル、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを正しく取り付けられた状態ではじめて防水構造(IP67)となります。
- pH 電極や電気伝導率セルを外したり、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを開けた状態で、濡れた手で触れたり、水で洗ったりしないでください。また、水や薬品などが入る恐れのある場所に、設置または保管しないでください。

- ① 電源オフを確認する……計器本体の電源がオフであることを確認してください。
- ② 電極プラグを差し込む……電気伝導率セルまたは pH 電極の電極プラグ先端の“○”印が本体の表面側になるようにして、電極接続用コネクタにまっすぐ差し込んでください。

**【重要】** ・ pH 電極または電気伝導セルと電極接続用コネクタ(CH1、CH2)の組み合わせは固定です。逆に接続すると、エラー表示「01」になります。



- ③ **電極プラグを固定する**……固定リングだけを回し、電極プラグを固定してください。  
このとき、プラグ本体は回さないでください。

---

**【重要】** ・ 電極プラグを脱着するときにプラグ本体を回したり、左右に動かすと、端子及びコネクタ一部を破損させる可能性があります。まっすぐに抜き差ししてください。

---

## 4.4 電気伝導率セルの確認

校正や測定前の電気伝導率セルの準備は、特にありませんが、極(金属部分)の表面が汚れていないか、または、外筒が緩んでいないかを確認してください。▷ 「8.2 電気伝導率セルのお手入れ」

## 4.5 pH 電極の準備

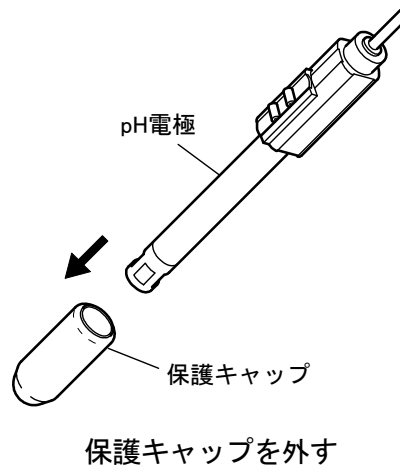
校正や測定を行う前に、pH 電極を点検してください。詳細は、「8.3 pH 電極のお手入れ」または pH 電極に添付された「取扱説明書」を参照してください。

---

**△注意** けが ●pH 電極の一部はガラス製です。破損しないように気をつけて取り扱い  
てください。誤って破損した場合、ガラスの破片でけがをする可  
能性があります。

---

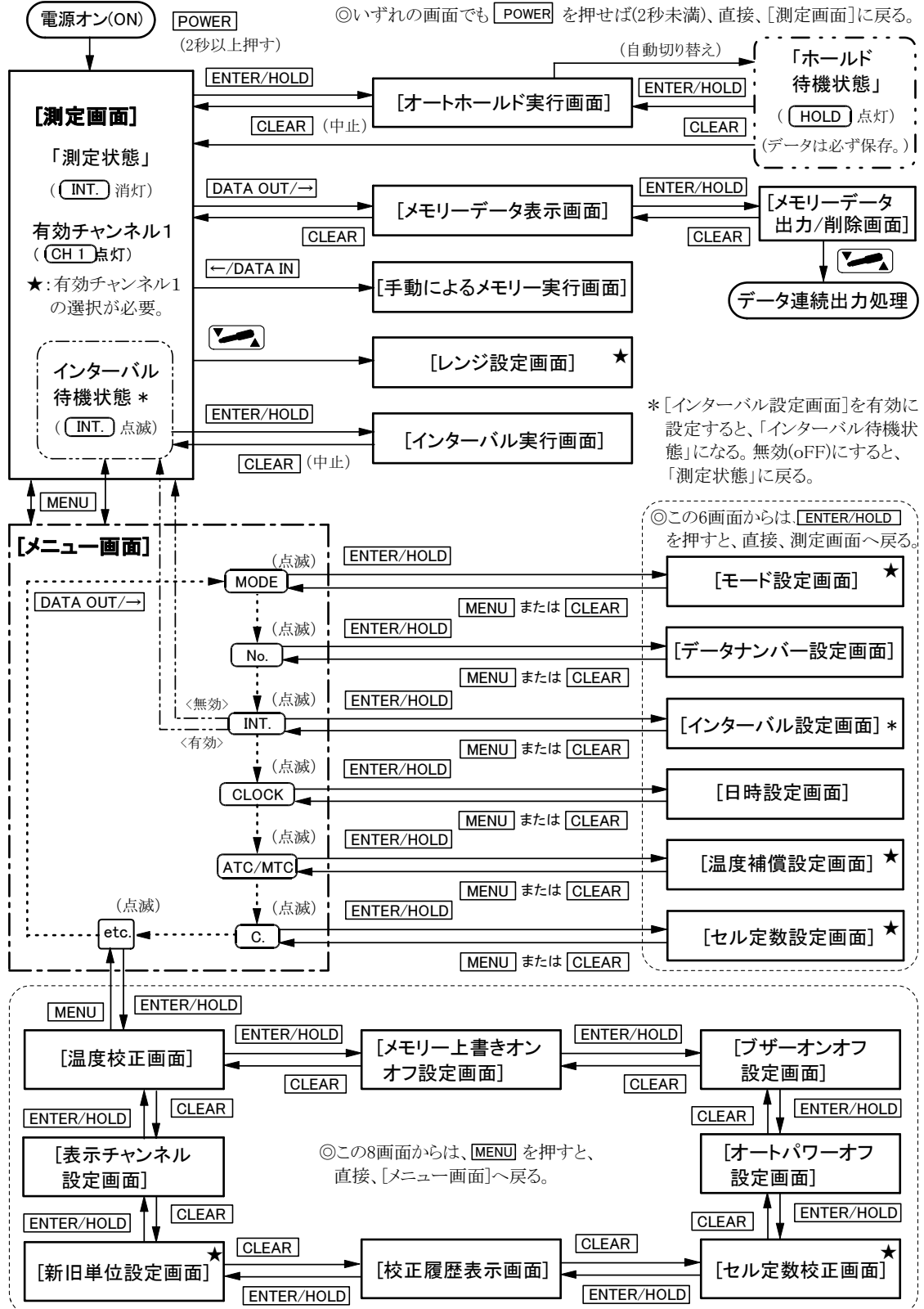
- ① 内部液を点検する……pH 電極の内部液が、内部液レベル以上であることを確認してください。
- ② 内部液を補充する……「①」で内部液が内部液レベル以下のときは、pH 電極に添付された「取扱説明書」を参照して、スポイトなどで内部液を補充してください。
- ③ 保護キャップを外す……電極先端に保護キャップが付いている場合は、保護キャップを外してください。



# 5. 基本操作

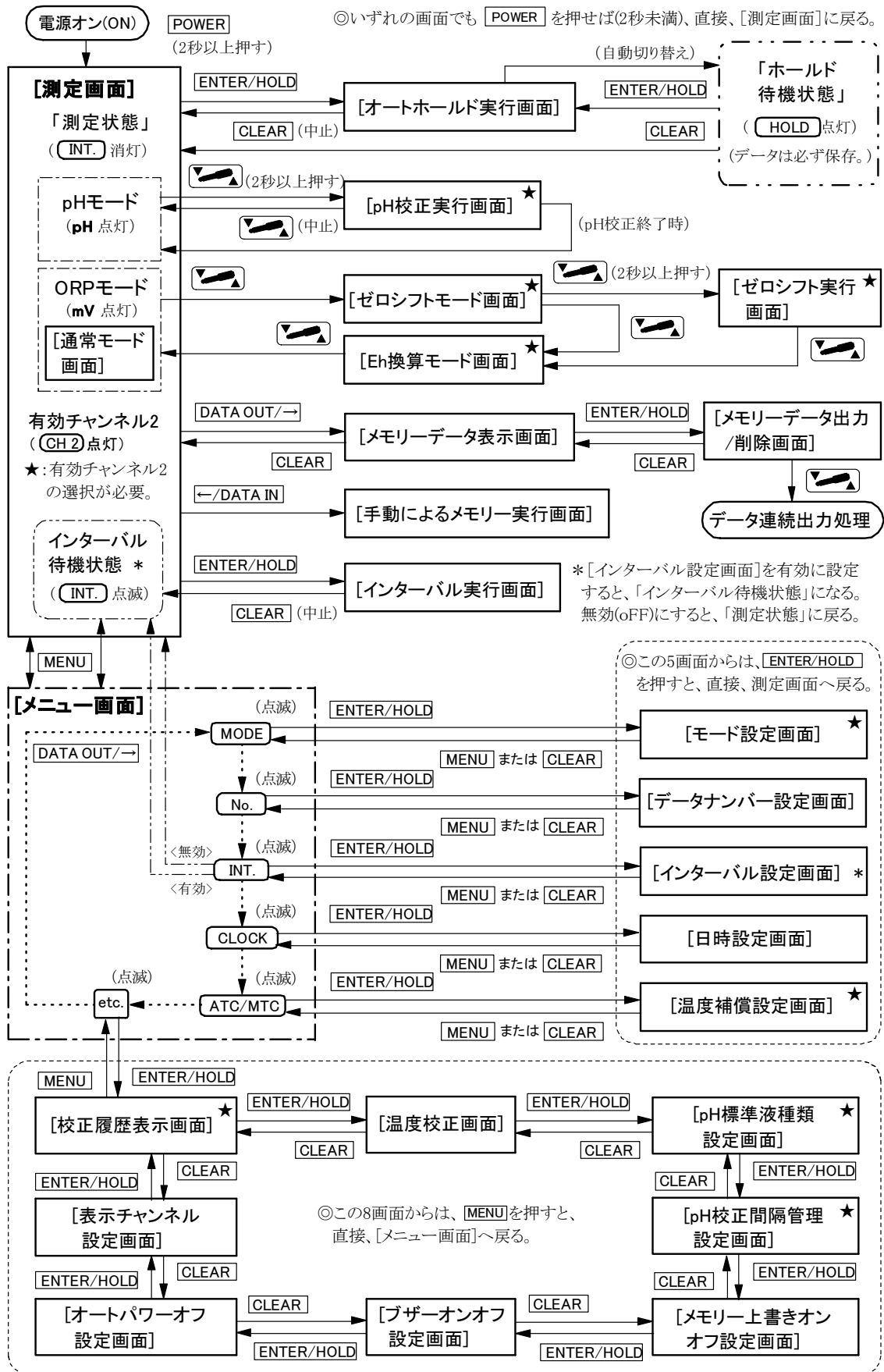
## 5.1 操作画面マップ

### (1) 電気伝導率(CH1)の操作画面マップ



電気伝導率(CH1)の操作画面マップ

### (2) pH/ORP (CH2)の操作画面マップ

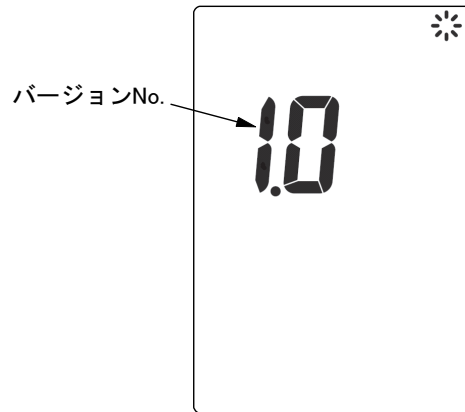


pH/ORP (CH2)の操作画面マップ

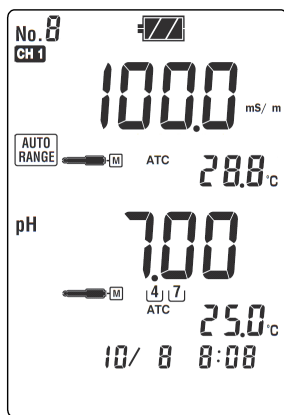
## 5.2 電源の投入

**POWER** を 2 秒以上(ピッという音がするまで)押ししてください。

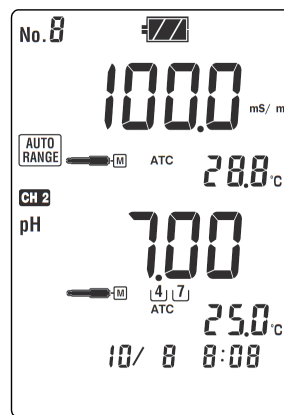
- 計器の電源がオン(ON)になり、[測定画面]が表示され、「測定状態」(**INT.** 消灯)になります。



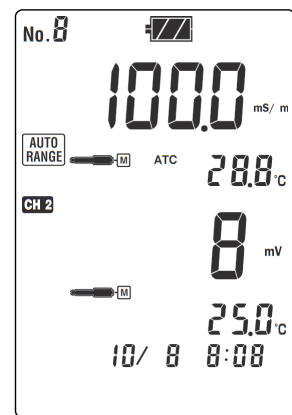
バージョン No. 表示画面(例)



(電気伝導率モードのとき)



(pHモードのとき)



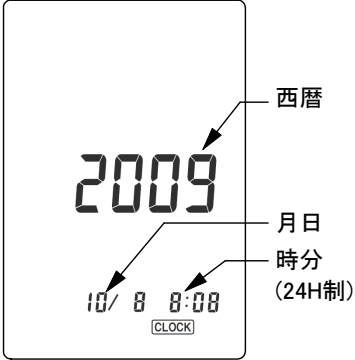
(ORPモードのとき)

電源オン画面(例)

## 5.3 時刻合わせ

- (a) 次の手順に従って、現在の日時を設定してください。  
 (b) この操作では、あらかじめ有効チャンネルを選択する必要はありません。

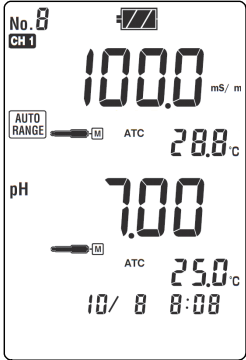
### 時刻合わせの手順

操 作	画面例
<p>① [メニュー画面]へ…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で <b>MENU</b> を押す。</p> <p>② <b>CLOCK</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で <b>CLOCK</b> 以外のマークが点滅中のときは、<b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を数回押して、<b>CLOCK</b> を点滅させる。</p> <p>③ [日時設定画面]へ… <b>ENTER/HOLD</b> を押す。</p> <p>④ 日時を設定… <b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を押して、点滅個所を移動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>↑</b> <b>↓</b> を押して、点滅数値を変更する。</li> <li>・ 設定範囲：西暦…2009～2050 年          月日…1 月 1 日～12 月 31 日          時刻…00:00～23:59</li> </ul> <p>⑤ 確 定…設定値を確認後、<b>ENTER/HOLD</b> を押す。確定後、[測定画面]へ戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [メニュー画面]へ戻るときは、<b>MENU</b> または <b>CLEAR</b> を押す。</li> </ul>	 <p>[日時設定画面]</p>

## 5.4 有効チャンネルの選択

- (a) 計器本体の電極接続用コネクタ(CH1、CH2)に、電気伝導率セル、pH 電極または ORP 電極を接続することで、それぞれの測定値を 2 チャンネル同時に表示することができます。
- (b) ただし、校正操作、校正データの消去及び校正履歴の確認、または個別設定などを行う場合は、あらかじめ、測定項目に合わせたチャンネルを有効にしておく必要があります。

### 有効チャンネルの選択手順

操 作	画面例
<p>① 電極を準備…電極が正しく試料に浸された状態であることを確認する。</p> <p>② 「測定状態」に…「測定状態」(INT. 消灯)での[測定画面]であることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電源オフ(OFF)のときは、POWER を 2 秒以上押しと、[測定画面]が表示される。</li> </ul> <p>③ 有効チャンネルを選択…↑ ↓ を押して、チャンネル 1(CH1)とチャンネル 2(CH2)の表示マークの点灯を切り替える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>設定範囲：CH1…チャンネル 1：電気伝導率セル CH2…チャンネル 2：pH 電極または ORP 電極</li> </ul>	 <p>[測定画面]</p>



## 5.5 pH 校正

### (1) 校正の実行(二点校正)

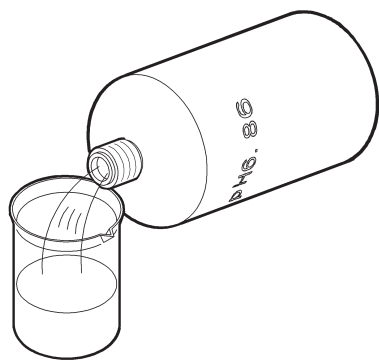
- (a) 測定をする前に、必ず校正をしてください。ここでは、標準付属品の pH6.86 と pH4.01 の調製標準液を使用した二点校正の操作を説明します。

**【重要】** ・ 二点校正の場合、pH6.86 標準液とその他の標準液(pH1.68、pH4.01、pH9.18)の二点で行ってください。なお、pH6.86 標準液の校正は、必ず実行してください。

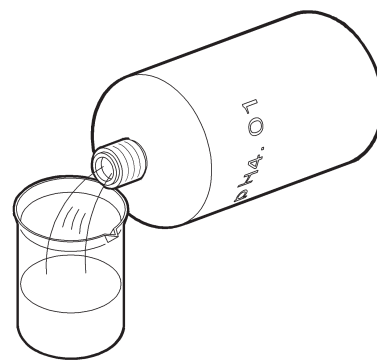
- (b) 校正実行前に、あらかじめチャンネル2を有効にしてください。  
 (c) 通常の校正では、温度補償方法を「ATC」(自動温度補償)に設定してください。

▷ 「6.7 pH 手動温度補償の設定」

- ① **標準液をビーカーに準備する**……付属品の pH6.86 標準液と pH4.01 標準液を別々のビーカーに入れてください。  
 ・ 標準液は、pH 電極が十分に浸る量をビーカーに入れてください。

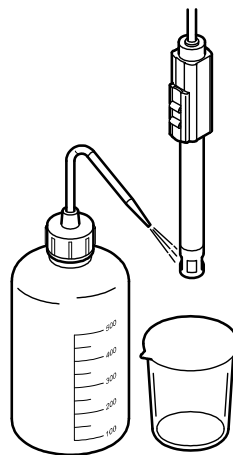


pH6.86 標準液



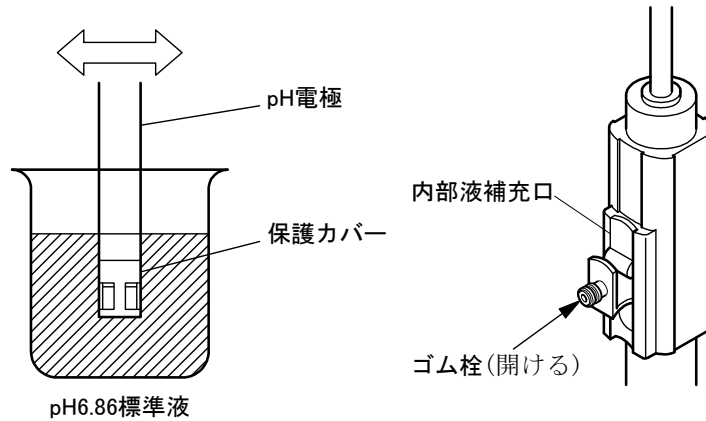
pH4.01 標準液

- ② **電極先端を洗浄する**……電極の先端を純水で洗浄し、ティッシュペーパーなどで軽くふき取ってください。



電極先端を洗浄する

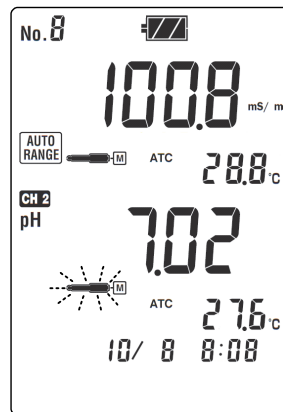
- ③ **電極を一点目の標準液に浸す**……電極を pH6.86 標準液のビーカーに浸して、2、3 度、ゆり動かしてください。
- このとき、電極の保護カバーが十分に標準液に浸るようにしてください。また、電極の内部液補充口のゴム栓は、必ず開けてください。



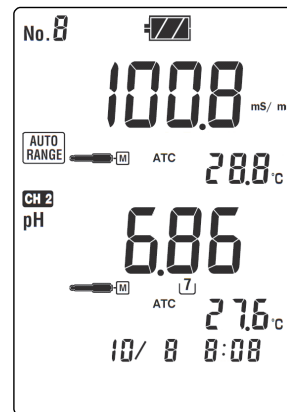
電極を pH6.86 標準液に浸す

内部液補充口のゴム栓を開ける

- ④ **チャンネル 2 を有効にする**……チャンネル表示を確認してください。もし、チャンネル 1(**CH1** 点灯)のときは、**↑** **↓** を押して、チャンネル 2(**CH2** 点灯)を有効にしてください。▷ 「5.4 有効チャンネルの選択」
- ⑤ **pH モードにする**……pH モード(pH 点灯)に設定してください。▷ 「6.1 モード切り替えの設定」
- ⑥ **校正データを消去する**……校正前に、最新の校正データを消去してください。
- 「測定状態」(**INT.** 消灯)での[測定画面]で、**▼▲** を 2 秒以上(ピッという音が 2 回するまで)押してください。[pH 校正実行画面]になります。
  - が点滅中に、**CLEAR** を押してください。最新の校正データが削除され、[測定画面]に戻ります。
- 〔備考〕・開梱後、初めてご使用になる場合は、この操作は必要ありません。
- が点灯になると、校正データの消去はできません。再度、[測定画面]に戻ってから、操作をやり直してください。
- ⑦ **一点目の校正実行**……再度、[測定画面]で **▼▲** を 2 秒以上押してください。[pH 校正実行画面]になります。
- が点滅し、校正が開始されます。校正が終了すると、**■** が点灯になり、[7] が点灯します。



[pH 校正実行画面]

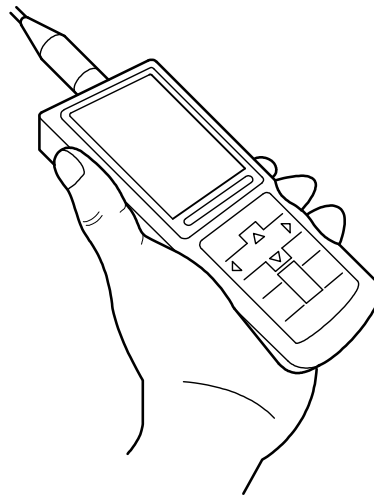


[pH 校正終了画面]

- ⑧ 二点目の校正実行……pH4.01 標準液を使用して、同様に「②、③、⑦」の操作を繰り返し、二点目の校正をしてください。

**【重要】** ・ 校正中は計器本体を安定した場所に置くか、手でしっかり持ち、動かさないでください。

もし、校正中に計器本体を振ったりすると、校正エラーになることがあります。





## (2) 校正の実行(一点校正、三点校正)

一点校正または三点校正を行う場合も、操作方法は、上記内容と同様です。ただし、以下の点に注意して実施してください。

- 一点校正は、ラフな測定で良い場合に適しています。pH6.86 標準液だけで校正をしてください。
- 三点校正は、広範囲の pH 測定をより精密に測定する場合に適しています。pH6.86 標準液とその他の標準液(pH1.68、pH4.01、pH9.18、pH12.45 標準液)の 2 種類を使用して校正をしてください。

### (3) 校正の中止

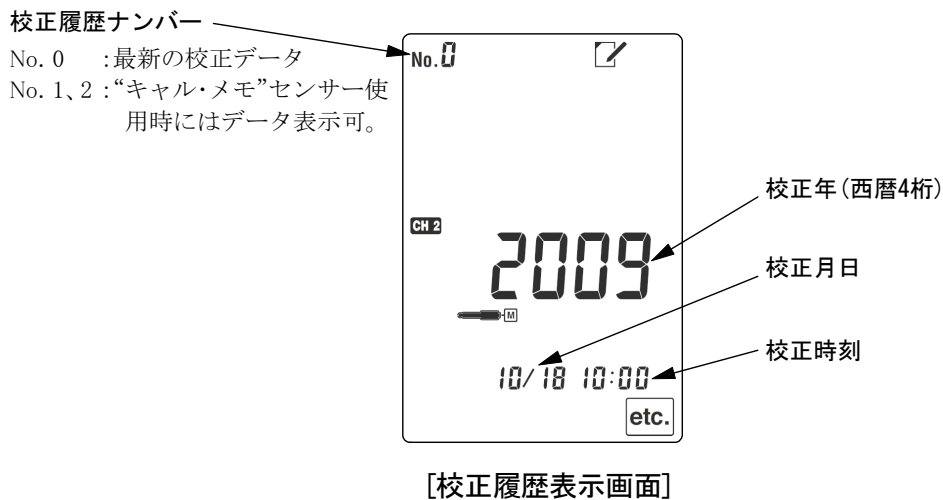
校正中に校正を中止したい場合は、[pH 校正実行画面]で  が点滅中に、再度、 を押してください。[測定画面]に戻ります。

### (4) 校正データの消去

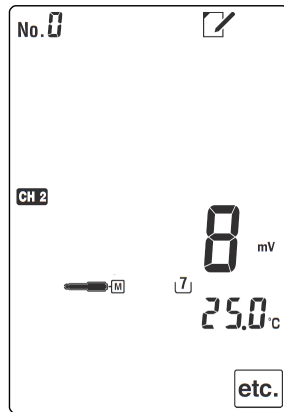
最新の校正データを消去したい場合は、「5.5(1) 校正の実行(二点校正)」の「⑥校正データを消去する」を参照して行ってください。

### (5) 最新の校正データ表示

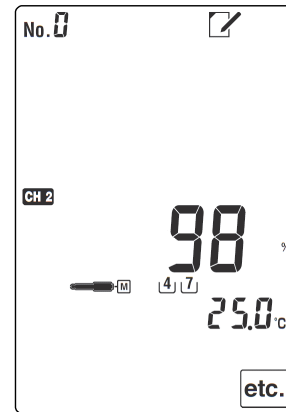
- ① [メニュー画面]にする……チャンネル2を有効(CH2点灯)にしたのち、「測定状態」(INT.消灯)での[測定画面]で MENU を押してください。
- ② [校正履歴表示画面]にする…… DATA OUT/→ を押して etc. (点滅)を選択し、ENTER/HOLD を押してください。
  - ・ [校正履歴表示画面]が表示され、最新の校正日時が表示されます(最新の校正データ初期画面)。



- ③ 最新の校正データを確認する…… DATA OUT/→ または ←/DATA IN を押すごとに、「校正日時」→「標準液電位 1」→「標準液電位 2」→「スロープ 1(%)」が表示されます。
  - ・ 起電力、スロープ表示値がどの標準液のものかは、表示部の標準液ボトルマークが点滅することによって判断できます。



[pH7 標準液における起電力表示画面] (例)



[pH4、7 標準液間のスロープ表示画面] (例)

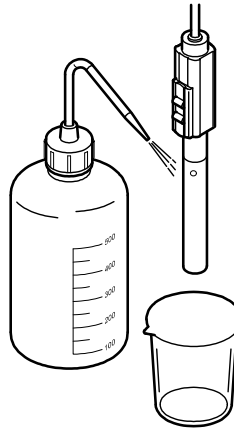
- ④ [測定画面]に戻す…… [POWER] を押ししてください(2秒未満)。「測定状態」( [INT.] 消灯)での[測定画面]に戻ります。  
 [備考] ・ [CLEAR] キーを押して[メニュー画面]へ戻ったのち、 [MENU] キーを押し、[測定画面]に戻することもできます。

## 5.6 電気伝導率の測定

- (a) この計器に組み合わせる電気伝導率セルは、メモリー内蔵タイプですので、計器本体に接続した際に、自動的にセル定数が読み込まれます。
- (b) 通常の測定では、温度補償を「ATC」(自動温度補償)に、温度係数を「2.00%/°C」に設定してください。▶ 「6.6 電気伝導率の温度補償・温度係数の設定」(ただし、はじめてご使用になる場合は、初期値としてこの設定値になっていますので、変更の必要はありません。)

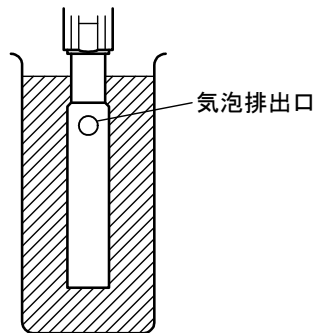
### (1) ビーカーワークでの測定

- ① セルを洗浄する……電気伝導率セルを純水で洗浄し、ティッシュペーパーなどで軽くふき取ってください。



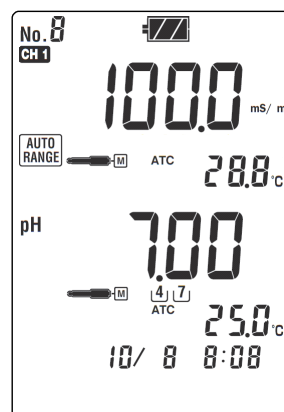
電気伝導率セル先端を洗浄する

- ② セルを試料に浸す……ビーカーに試料を入れたのち、セル外筒の気泡排出口の上までセルを浸漬させて、2、3度、上下に動かしてください。



セルを試料に浸す

- ③ 電気伝導率モードにする……「測定状態」(INT. 消灯)での「測定画面」で、チャンネル1 (CH1 点灯)を有効にしたのち、電気伝導率モード(S/m 点灯)に設定してください。  
 ▷ 「5.4 有効チャンネルの選択」、「6.1 モード切り替えの設定」



電気伝導率モードの測定画面

- ④ **測定値を確認する**……「測定状態」(INT. 消灯)での「測定画面」で表示値が安定したら、その表示を読んでください。

---

**【重要】** ・ 測定中は計器本体を安定した場所に置くか、手でしっかり持ち、動かさないでください。

もし、測定中に計器本体を振ったりすると、測定値が不安定になることがあります。

---



## (2) 浸漬測定

防水タイプの場合は、直接、測定ポイントに浸漬させて測定することができます。

---

**⚠警告** 転落 ●測定ポイントで作業するときは、安全带などの転落防止処置をしてください。また、けが防止のために、ヘルメット、ライフジャケット、安全靴などを着用してください。

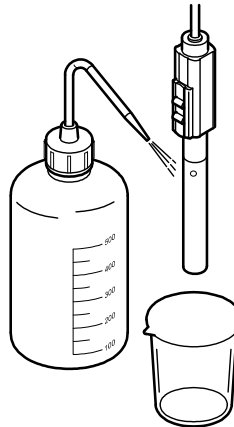
---

---

**⚠注意** 混入 ●測定槽へ計器本体などを落とさないでください。損害発生の原因になることがあります。

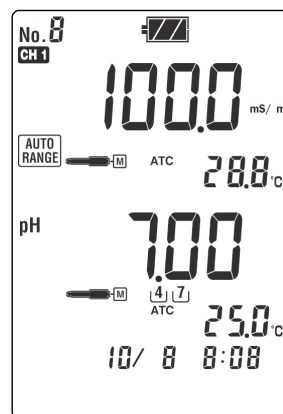
---

- ① **セルを洗淨する**……電気伝導率セルを純水で洗淨し、ティッシュペーパーなどで軽くふき取ってください。



電気伝導率セル先端を洗浄する

- ② セルを試料に浸す……セルを測定ポイントの試料に浸漬してください。
- ③ 電気伝導率モードにする……「測定状態」(INT. 消灯)での「測定画面」で、チャンネル1(CH1)点灯を有効にしたのち、電気伝導率モード(S/m 点灯)に設定してください。
- ▷ 「5.4 有効チャンネルの選択」、「6.1 モード切り替えの設定」



電気伝導率モードの測定画面

- ④ 測定値を確認する……「測定状態」(INT. 消灯)での「測定画面」で表示値が安定したら、その表示を読んでください。

- 
- 【重要】** ・ 測定中は計器本体を安定した場所に置くか、手でしっかり持ち、動かさないでください。
- ・ もし、測定中に計器本体を振ったりすると、測定値が不安定になることがあります。
-





- ⑤ **洗浄する**……電気伝導率セル及びケーブルなど浸漬した部分を純水でよく洗浄し、ティッシュペーパーなどで軽くふき取ってください。

## 5.7 電気抵抗率の測定

- (a) この計器に組み合わせる電気伝導率セルは、メモリー内蔵タイプですので、計器本体に接続した際に、自動的にセル定数が読み込まれます。
- (b) 通常の測定では、温度補償を「ATC」(自動温度補償)に、温度係数を「2.00%/°C」に設定してください。▷ 「6.6 電気伝導率の温度補償・温度係数の設定」(ただし、はじめてご使用になる場合は、初期値としてこの設定値になっていますので、変更の必要はありません)。
- (c) 電気抵抗率の測定は、「5.6 電気伝導率の測定」を参照して行ってください。あらかじめ測定前に、単位を電気抵抗率モード( $\Omega \cdot m$ 点灯)に設定してください(▷ 「6.1 モード切り替えの設定」)。

## 5.8 塩分換算値の測定

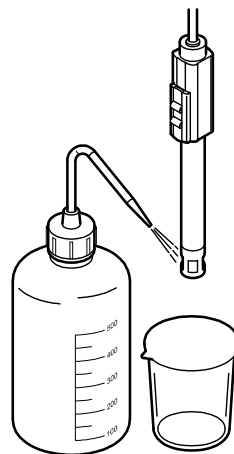
- (a) この計器に組み合わせる電気伝導率セルは、メモリー内蔵タイプですので、計器本体に接続した際に、自動的にセル定数が読み込まれます。
- (b) 通常の測定では、温度補償を「ATC」(自動温度補償)に、温度係数を「2.00%/°C」に設定してください。▷ 「6.6 pH 温度補償・温度係数の設定」(ただし、はじめてご使用になる場合は、初期値としてこの設定値になっていますので、変更の必要はありません。)
- (c) 塩分換算値の測定は、「5.6 電気伝導率の測定」を参照して行ってください。あらかじめ測定前に、単位を塩分換算値モード(%点灯)に設定してください(▷ 「6.1 モード切り替えの設定」)。

## 5.9 pH 測定

通常の測定では、温度補償を「ATC」(自動温度補償)に設定してください。▷ 「6.7 pH の手動温度補償の設定」

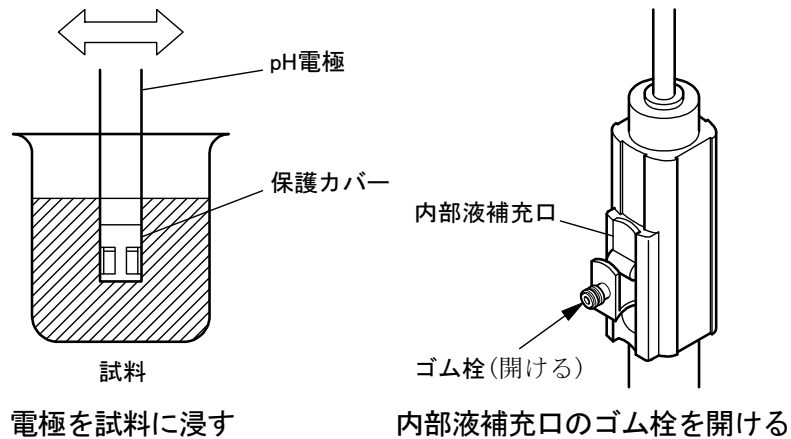
### (1) ビーカーワークでの測定

- ① **電極先端を洗浄する**……電極の先端を純水で洗浄し、ティッシュペーパーなどで軽くふき取ってください。

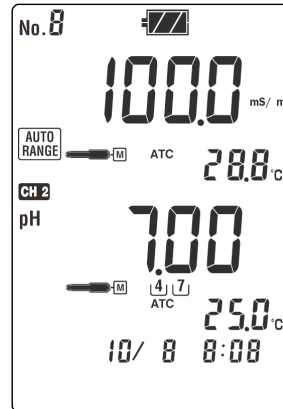


電極先端を洗浄する

- ② **電極を試料に浸す**……ビーカーに試料を入れたのち、電極を浸して、2、3 度、ゆり動かしてください。
- このとき、電極の保護カバーが十分試料に浸るようにしてください。また、電極の内部液補充口のゴム栓は、必ず開けてください。



- ③ **pH モードにする**……「測定状態」(INT. 消灯)での [測定画面] でチャンネル 2 (CH 2) を有効にしたのち、pH モード(pH 点灯)に設定してください。▷ 「5.4 有効チャンネルの選択」、「6.1 モード切り替えの設定」



pH モードの測定画面

- ④ **測定値を確認する**……「測定状態」(INT. 消灯)での [測定画面] で表示値が安定したら、その表示を読んでください。

**【重要】** ・ 測定中は計器本体を安定した場所に置くか、手でしっかり持ち、動かさないでください。  
もし、測定中に計器本体を振ったりすると、測定値が不安定になることがあります。



## (2) 浸漬測定

防水電極の場合は、直接、測定ポイントに浸漬させて測定することができます。

---

**⚠ 警告**    転 落            ●測定ポイントで作業するときは、安全帯などの転落防止処置をしてください。また、けが防止のために、ヘルメット、ライフジャケット、安全靴などを着用してください。

---

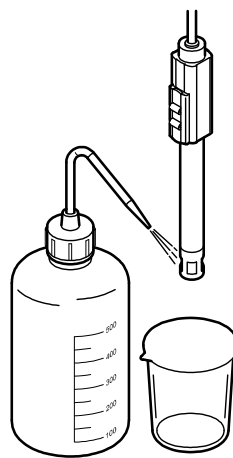


---

**⚠ 注意**    混 入            ●測定槽へ計器本体などを落とさないでください。損害発生の原因になることがあります。

---

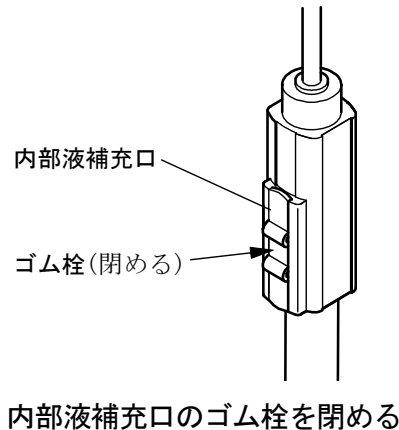
- ① 電極先端を洗浄する……電極の先端を純水で洗浄し、ティッシュペーパーなどで軽くふき取ってください。



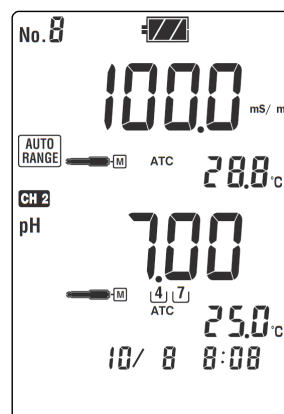
電極先端を洗浄する

- ② **電極を試料に浸す**……電極の内部液補充口のゴム栓を閉めたのち、測定ポイントの試料に浸漬してください。

- 【重要】** ・ 浸漬測定の場合は、電極の内部液補充口のゴム栓を必ず閉めてから、測定を行ってください。  
 ・ 測定中は計器本体を安定した場所に置くか、手でしっかり持ち、動かさないでください。もし、測定中に計器本体を振ったりすると、測定値が不安定になることがあります。



- ③ **pH モードにする**……「測定状態」( **INT.** 消灯)での [測定画面] でチャンネル 2 ( **CH 2** ) を有効にしたのち、pH モード(pH 点灯)に設定してください。▶ 「5.4 有効チャンネルの選択」、 「6.1 モード切り替えの設定」



pH モードの測定画面

- ④ **測定値を確認する**……「測定状態」( **INT.** 消灯)での [測定画面] で表示値が安定したら、その表示を読んでください。  
 ⑤ **洗浄する**……電極及びケーブルなど浸漬した部分を純水でよく洗浄し、ティッシュペーパーなどで軽くふき取ってください。

## 5.10 酸化還元電位(ORP)の測定

- (a) 酸化還元電位(ORP)は、理論的には参照電極(比較電極)として標準水素電極を使用した場合の起電力値を表します。しかし、水素電極は複雑な装置化が必要なため、実用的には使用できません。そこで、実用上の参照電極(比較電極)としては、水素電極の代わりに銀-塩化銀電極などが使用されます。
- (b) このPシリーズ用 ORP 電極は、白金電極と参照電極(比較電極)が一体化された構造ですが、参照電極(比較電極)として塩化銀電極(3.3mol/L KCl 溶液)を使用しています。そのため、塩化銀電極(3.3mol/L KCl 溶液)を使用した際の起電力値を ORP 測定値(mV)として表示します。
- (c) この計器によって厳密な意味での酸化還元電位(ORP)を求めたいときは、電極起電力に対し、各温度における水素電極に相対した塩化銀電極(3.3mol/L KCl 溶液)の電位(次表参照)を自動的に加算する「Eh 換算モード」に切り替えて測定してください。▷ 「6.5 mV シフト機能」

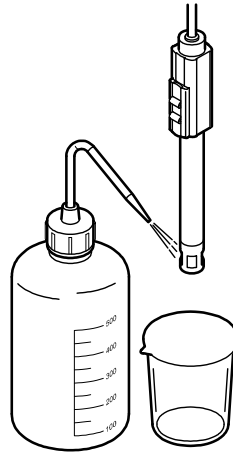
水素電極に相対する参照電極(比較電極)の電位(P シリーズ用 ORP 電極の場合)

温度 (°C)	電位 (mV)	温度 (°C)	電位 (mV)	温度 (°C)	電位 (mV)	温度 (°C)	電位 (mV)
0	224	20	210	40	196	60	181
5	221	25	206	45	192		
10	217	30	203	50	188		
15	214	35	199	55	185		

- (d) ORP 測定の場合は、別売りの酸化還元電極をお買い求めください。
- (e) ORP 測定を実行するときは、あらかじめ、ORP モードに設定してください。▷ 「6.1 モード切り替えの設定」
- (f) 通常の測定では、温度補償を「ATC」(自動温度補償)に設定してください。▷ 「6.7 pH の手動温度補償の設定」

## (1) ビーカーワークでの測定

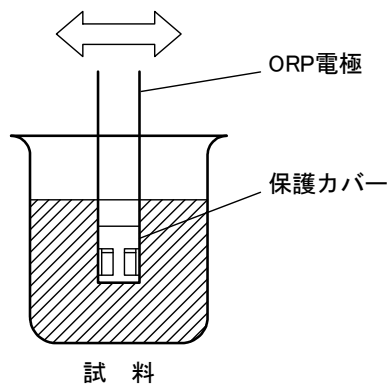
- ① 電極先端を洗浄する……電極の先端を純水で洗浄し、ティッシュペーパーなどで軽くふき取ってください。



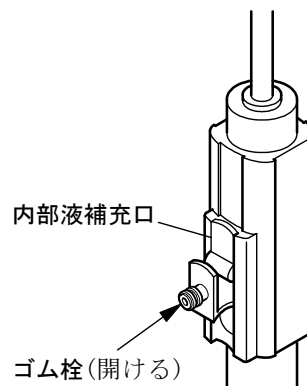
電極先端を洗浄する

- ② 電極を試料に浸す……ビーカーに試料を入れたのち、電極を浸して、2、3 度、ゆり動かしてください。

- このとき、電極の保護カバーが十分試料に浸るようにしてください。また、電極の内部液補充口のゴム栓は、必ず開けてください。

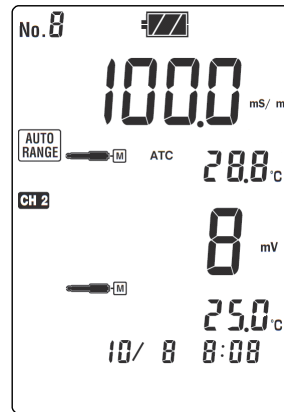


電極を試料に浸す



内部液補充口のゴム栓を開ける

- ③ ORP モードにする……「測定状態」(INT. 消灯)での「測定画面」で、チャンネル2 (CH1 点灯) を有効にしたのち、ORP モード(mV 点灯)に設定してください。▷ 「5.4 有効チャンネルの選択」、「6.1 モード切り替えの設定」



ORP モードの測定画面

- ④ 測定値を確認する……「測定状態」( **INT.** 消灯)での [測定画面]で表示値が安定したら、その表示を読んでください。

**【重要】** ・ 測定中は計器本体を安定した場所に置くか、手でしっかり持ち、動かさないでください。  
もし、測定中に計器本体を振ったりすると、測定値が不安定になることがあります。



## (2) 浸漬測定

防水電極の場合は、直接、測定ポイントに浸漬させて測定することができます。

### ⚠ 警告 転落

- 測定ポイントで作業するときは、安全帯などの転落防止処置をしてください。また、けが防止のために、ヘルメット、ライフジャケット、安全靴などを着用してください。

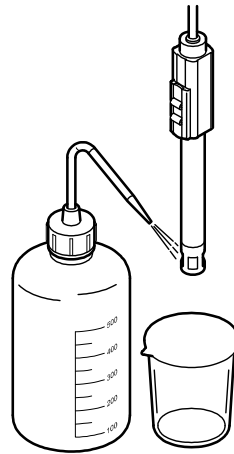


**⚠注意**

混入

●測定槽へ計器本体などを落とさないでください。損害発生の原因になることがあります。

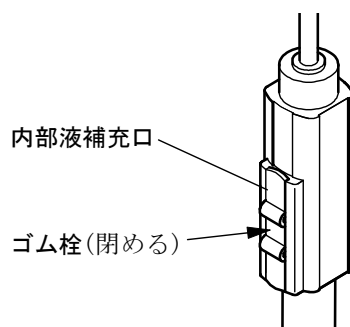
- ① **電極先端を洗浄する**……電極の先端を純水で洗浄し、ティッシュペーパーなどで軽くふき取ってください。



電極先端を洗浄する

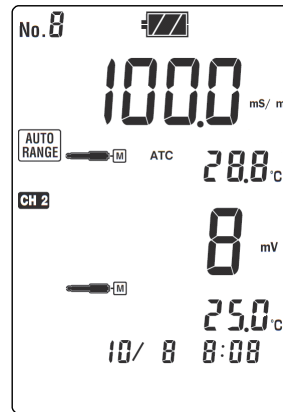
- ② **電極を試料に浸す**……電極の内部液補充口のゴム栓を閉めたのち、測定ポイントの試料に浸漬してください。

- 【重要】**
- ・浸漬測定の場合は、電極の内部液補充口のゴム栓を必ず閉めてから、校正を行ってください。
  - ・測定中は計器本体を安定した場所に置くか、手でしっかり持ち、動かさないでください。もし、測定中に計器本体を振ったりすると、測定値が不安定になることがあります。



内部液補充口のゴム栓を閉める

- ③ **ORP モードにする**……「測定状態」(INT. 消灯)での [測定画面] で、チャンネル2 (CH1 点灯) を有効にしたのち、ORP モード(mV 点灯)に設定してください。▷ 「5.4 有効チャンネルの選択」、 「6.1 モード切り替えの設定」



ORP モードの測定画面

- ④ 測定値を確認する……「測定状態」(INT. 消灯)での「測定画面」で表示値が安定したら、その表示を読んでください。
- ⑤ 洗浄する……電極及びケーブルなど浸漬した部分を純水でよく洗浄し、ティッシュペーパーなどで軽くふき取ってください。

### (3) ORP チェック液によるチェック

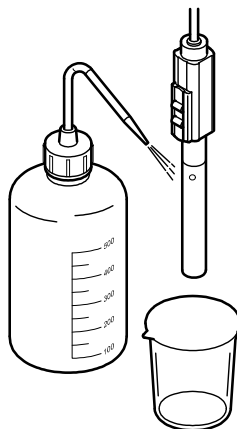
- (a) ORP 電極が正常に働いているかどうかを確認する場合は、ORP チェック液(143F196)を使用して ORP 電極をチェックしてください。なお、このときの電位は、mV シフト機能を「通常モード」にして確認してください(▷ 「6.5 mV シフト機能」)。指示値が、次表の値の±10mV 以内であれば、正常であると判断します。
- (b) ORP チェック液は不安定なので、その都度、調製し直し、常に新しい液を使用する必要があります。チェック液の使用方法は、液に付属された取扱説明書を参照してください。

P シリーズ用 ORP 電極を使用した場合の ORP チェック液の正常値

温度 (°C)	電位 (mV)	温度 (°C)	電位 (mV)	温度 (°C)	電位 (mV)
0	277	20	260	40	242
5	272	25	256	45	237
10	269	30	251	50	232
15	264	35	247	55	227

## 5.11 電気伝導率の測定終了

- ① 電源オフにする…… **POWER** を 2 秒以上(ピッという音がするまで)押ししてください。計器の電源がオフ(OFF)になります。
- ② 電気伝導率セル先端を洗浄する……電気伝導率セルの先端を純水で洗浄し、ティッシュペーパーなどで軽くふき取ってください。

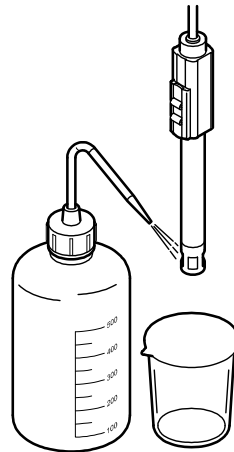


電気伝導率セル先端を洗浄する

- ③ セルを保管する……標準セルの場合は、洗浄後、乾燥状態で保管してください。

## 5.12 pH/ORP 電極の測定終了

- ① 電源オフにする…… **POWER** を 2 秒以上(ピッという音がするまで)押ししてください。計器の電源がオフ(OFF)になります。
- ② 電極先端を洗浄する……電極の先端を純水で洗浄し、ティッシュペーパーなどで軽くふき取ってください。

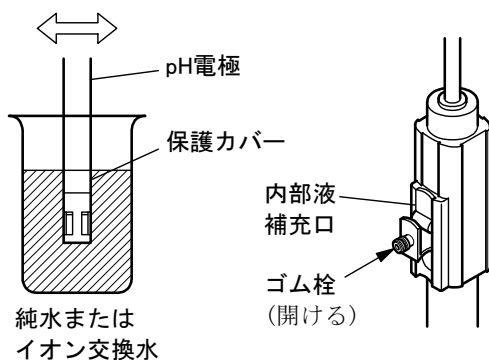


電極先端を洗浄する

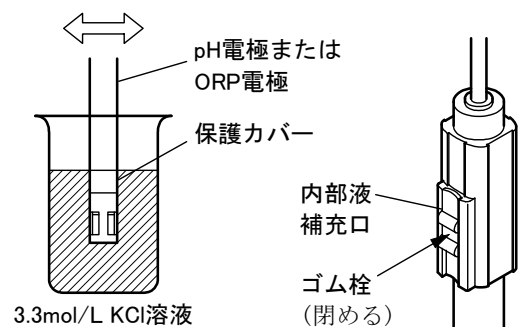
### (1) 短期間の電極保管

短期間の測定停止では、以下の通り、pH 電極または ORP 電極をビーカーに入れて一時保管してください。

- (a) pH 電極では、通常の場合、ビーカーにイオン交換水または蒸留水などの純水を入れ、電極を浸してください。この場合は、電極の内部液補充口のゴム栓を開けたままにしてください。
- (b) pH 電極では、目安として 0.05pH 以下の再現性を必要とするような精密測定にご使用の場合は、ビーカーに 3.3mol/L 塩化カリウム溶液を入れ、電極を浸してください。この場合は、電極の内部液補充口のゴム栓を必ず閉めてください。
- (c) ORP 電極では、通常の場合も、「(b)」の方法で一時保管してください。



pH 電極の通常の電極保管



pH 電極の精密測定時及び ORP 電極の電極保管

## (2) 長期間の電極保管

長期間(目安として一週間以上)の測定停止では、計器本体から電極プラグをまっすぐに抜き取ったのち、電極に添付された「取扱説明書」を参照して、電極を保管してください。

---

**【重要】** ・ 電極プラグを脱着するときにプラグ本体を回したり、左右に動かすと、端子及びコネクタ一部を破損させる可能性があります。まっすぐに抜き差ししてください。

---

## 6. いろいろな機能の使い方

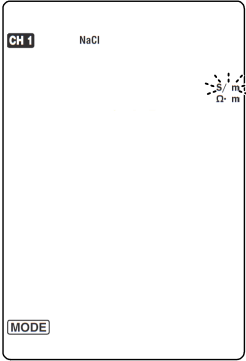
### 6.1 モード切り替えの設定

- (a) 電気伝導率(有効チャンネル 1)では、測定単位によって電気伝導率(S/m)モード、電気抵抗率( $\Omega \cdot m$ )モード及び塩分換算値(%)モードのいずれかに切り替えることができます。
- (b) pH(有効チャンネル 2)では、測定対象によって pH モードと ORP モードに切り替えることができます。

#### (1) 電気伝導率(CH1)のモード設定

この操作は、あらかじめチャンネル 1 を有効にしてください。

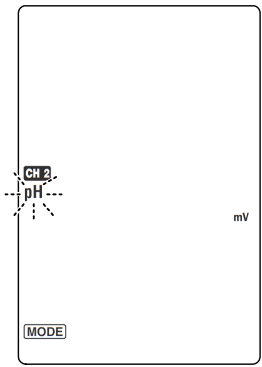
##### 電気伝導率(CH1)のモード設定手順

操 作	画面例
<p>① CH1 を有効に…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で<b>CH1</b>の点灯を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>CH2</b> が点灯しているときは、<b>↑</b> <b>↓</b> を押して、<b>CH1</b> を点灯させる。</li> </ul> <p>② [メニュー画面]へ…<b>MENU</b> を押す。</p> <p>③ <b>MODE</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で<b>MODE</b> 以外のマークが点滅中のときは、<b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を数回押して、<b>MODE</b> を点滅させる。</p> <p>④ [モード設定画面]へ…<b>ENTER/HOLD</b> を押す。</p> <p>⑤ モードを選択…<b>↑</b> <b>↓</b> を押して、S/m、<math>\Omega \cdot m</math> 及び NaCl の表示マークの点滅を切り替える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設定範囲 : S/m…電気伝導率モード(工場出荷値 : S/m)</li> <li><math>\Omega \cdot m</math>…電気抵抗率モード</li> <li>NaCl…塩分換算値モード</li> </ul> <p>⑥ 元に戻す…切り替えたいモードの表示マークが点滅していることを確認後、<b>ENTER/HOLD</b> を押す。確定後、元の[測定画面]へ戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [メニュー画面]へ戻すときは、<b>MENU</b> または <b>CLEAR</b> を押す。</li> </ul>	 <p>[モード設定画面]</p>

## (2) pH/ORP(CH2)のモード設定

この操作は、あらかじめチャンネル2を有効にしてください。

### pH (CH2)のモード設定手順

操 作	画面例
<p>① CH2 を有効に…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で<b>CH2</b>の点灯を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>CH1</b> が点灯しているときは、<b>↑</b> <b>↓</b> を押して、<b>CH2</b> を点灯させる。</li> </ul> <p>② [メニュー画面]へ… <b>MENU</b> を押す。</p> <p>③ <b>MODE</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で<b>MODE</b> 以外のマークが点滅中のときは、<b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を数回押して、<b>MODE</b> を点滅させる。</p> <p>④ [モード設定画面]へ… <b>ENTER/HOLD</b> を押す。</p> <p>⑤ モードを選択… <b>↑</b> <b>↓</b> を押して、pH と mV の表示マークの点滅を切り替える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設定範囲：pH…pH モード(工場出荷値：pH) mV…ORP モード</li> </ul> <p>⑥ 元に戻す…切り替えたいモードの表示マークが点滅していることを確認後、<b>ENTER/HOLD</b> を押す。確定後、元の[測定画面]へ戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [メニュー画面]へ戻すときは、<b>MENU</b> または <b>CLEAR</b> を押す。</li> </ul>	 <p>[モード設定画面]</p>

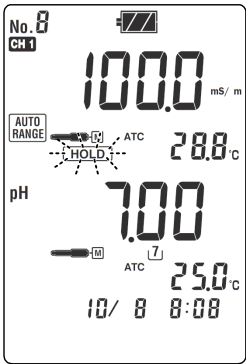
## 6.2 オートホールド機能

- (a) オートホールド機能では、有効チャンネルの測定が安定したことを自動的に判断して、測定値をホールドし、「ホールド待機状態」に切り替わります。なお、このとき、測定値は自動的に保存されます。
- (b) 安定判断するチャンネルを選択してください。

### (1) オートホールドによるメモリー実行

- (a) オートホールド機能によって電気伝導率測定、電気抵抗率測定または塩分換算値測定、pH測定またはORP測定を行うことで、安定判断後、自動的に測定値が保存されます。
- (b) 安定判断するチャンネルを選択してください。

#### オートホールドによるメモリー実行手順

操 作	画面例
<p>① 電極を準備…電極が正しく試料に浸された状態であることを確認する。</p> <p>② 「測定状態」に…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]であることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電源オフ(OFF)のときは、<b>POWER</b> を 2 秒以上押しと、[測定画面]が表示される。</li> </ul> <p>③ 安定判断を開始…<b>ENTER/HOLD</b> を押す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>HOLD</b> が点滅し、[オートホールド実行画面]になる。</li> <li>安定判断を中止させたいときは、<b>HOLD</b> 点滅中に <b>CLEAR</b> を押す。このとき、測定値は保存されずに、元の[測定画面]に戻る。</li> </ul> <p>④ 安定判断終了…測定値が安定するとブザーが鳴り、<b>HOLD</b> が点灯する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>測定値がホールドされ、「ホールド待機状態」へ自動的に切り替わる。</li> <li>このとき、測定値は自動的に保存され、データナンバーが1つ増加する。</li> </ul> <p><b>【重要】</b> ・数分以上時間が経過しても <b>HOLD</b> が点灯しない場合には、測定値が不安定ですので <b>CLEAR</b> を押してホールド待機状態を解除し、電極や計器を点検してください。</p>	 <p>The screenshot shows the instrument's display in hold mode. At the top, it displays 'No. 8' and 'CH 1'. The main display shows '1000 mS/m' for conductivity, with '28.8 °C' for temperature. Below that, it shows 'pH 7.00' and '25.0 °C'. At the bottom, it displays '10/ 8 8:08'. The 'HOLD' indicator is lit, and the 'ATC' (Auto Temperature Compensation) indicator is also lit.</p> <p>[オートホールド実行画面] (電気伝導率モードのとき)</p>

(続く)



(続き)

操 作	画 面 例
<p>〔備考〕・安定判別基準：</p> <p>電気伝導率の場合…±5digit/10 秒</p> <p>pH の場合…±0.05pH/10 秒</p> <p>ORP 場合…±5mV/10 秒</p> <p>⑤ 繰り返すとき…このオートホールド機能によって別の試料を連続測定したいときは、<b>ENTER/HOLD</b> を押し、[オートホールド実行画面]に戻したのち、「①、③、④」の操作を繰り返す。</p> <p>⑥ 元に戻す…「ホールド待機状態」(<b>HOLD</b> 点灯中) <b>CLEAR</b> を押す。</p> <p>・「ホールド待機状態」が解除され、元の[測定画面]へ戻る。</p>	

## 6.3 データメモリー機能

- (a) データメモリー機能では、測定値を最大 1000 個まで保存するためのデータナンバーを設定できます。また、保存したデータを個別に呼び出すことができます。
- (b) 測定開始前に、測定値の保存先となるデータナンバーを設定してください。
- (c) 保存データが「No. 1000」を超えた場合は、データ上書きの有無について設定が必要です。  
▷ 「6.12 メモリー上書きオンオフの設定」

### (1) データナンバーの設定

- (a) データメモリー機能によって、測定値の保存先となる開始データナンバーを設定してください。  
〔備考〕・データナンバーは、データを格納するためのセルナンバーを意味します。
- (b) この操作では、あらかじめ有効チャンネルを選択する必要はありません

## データナンバーの設定手順

操 作	画面例
<p>① [メニュー画面]へ…「測定状態」(INT. 消灯)での[測定画面]で <b>MENU</b> を押す。</p> <p>② <b>No.</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で <b>No.</b> 以外のマークが点滅中のときは、<b>DATA OUT/→</b>・<b>←/DATA IN</b> を数回押して、<b>No.</b> を点滅させる。</p> <p>③ [データナンバー設定画面]へ… <b>ENTER/HOLD</b> を押す。</p> <p>④ データナンバーを設定…現在のデータナンバーの 1 桁目の数値が点滅する。保存先の開始データナンバーを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>DATA OUT/→</b>・<b>←/DATA IN</b> を押して、点滅桁を移動する。</li> <li>・ <b>↑</b> <b>↓</b> を押して、点滅数値を変更する。</li> <li>・ 設定範囲：1～1000 (工場出荷値：1)</li> </ul> <p>⑤ 元に戻す…設定値を確認し、<b>ENTER/HOLD</b> を押す。確定後、元の[測定画面]へ戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [メニュー画面]へ戻すときは、<b>MENU</b> または <b>CLEAR</b> を押す。</li> </ul>	 <p>[データナンバー設定画面]</p>

## (2) 手動キーによるメモリー実行

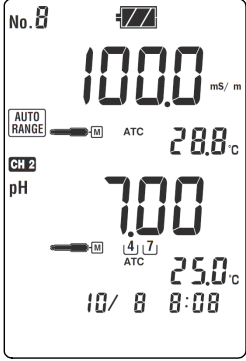
- (a) **←/DATA IN** を 1 回押すごとに、現在の測定値を保存することができます。
- (b) この操作では、あらかじめ有効チャンネルを選択する必要はありません。両チャンネルの測定値が同時に保存されます。

## 手動キーによるメモリー実行手順

操 作	画面例
<p>① 電極を準備…電極が正しく試料に浸された状態であることを確認する。</p> <p>② モードを設定…チャンネル1または2の各モードをいずれかに設定する(▷「6.1 モード切り替えの設定」)。</p>	

(続く)

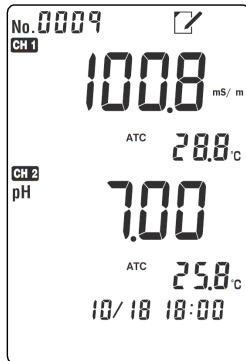
(続き)

操 作	画面例
<p>③ 「測定状態」に…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]であることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電源オフ(OFF)のときは、<b>POWER</b> キーを 2 秒以上押すと、[測定画面]が表示される。</li> </ul> <p>④ 測定値の安定を待つ…表示部の測定値が安定していることを確認する。</p> <p>⑤ データを保存… <b>←/DATA IN</b> を押す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在の測定値が保存され、データナンバーの表示が 1 つ増加する。</li> <li>保存処理後、測定状態は継続する。</li> </ul>	 <p>(pHモードのとき) [測定画面]</p>

### (3) メモリーデータの呼び出し

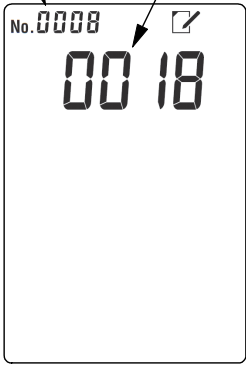
- データメモリー機能では、保存された測定値をデータナンバーごとに呼び出し、画面表示させることができます。
- 保存データを消去することもできます。
- この操作では、あらかじめ有効チャンネルを選択する必要はありません。

#### メモリーデータ呼び出しの手順

操 作	画面例
<p>① [メモリーデータ表示画面]へ…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で <b>DATA OUT/→</b> を押す。</p> <p>② データナンバーを呼び出す…データナンバーの 1 桁目の数値が点滅する。呼び出したいデータナンバーを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を押して、点滅桁を移動する。</li> <li><b>↑</b> <b>↓</b> を押して、点滅数値を変更する。</li> </ul> <p>③ メモリーデータを確認…「②」で呼び出したデータナンバーに応じた測定値、温度、月日及び時刻が表示される。</p>	 <p>[メモリーデータ表示画面]</p>

(続く)

(続き)

操 作	画 面 例
<p>④ <b>メモリーデータを消去する場合</b>…「③」で確認したメモリーデータを消去したいときは、この状態で <b>CLEAR</b> を 2 秒以上押す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表示しているデータが消去されると、現在のデータナンバー以外、すべての表示が消える。</li> <li>消去しない場合は、そのまま「⑥」へ進む。</li> </ul> <p>⑤ <b>任意のメモリーデータを削除する場合</b>…[メモリーデータ表示画面]で <b>ENTER/HOLD</b> を押して、[メモリーデータ削除画面]にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「②」を参照して、削除開始 No. と削除終了 No. を設定し、 <b>CLEAR</b> を 2 秒以上押す。</li> </ul> <p>⑥ <b>元に戻す</b>… <b>CLEAR</b> を押す。</p>	<div style="text-align: center;"> <p>印字開始No.      印字終了No.</p>  </div> <p>[メモリーデータ出力・削除画面]</p>

## 6.4 インターバル機能

(a) インターバル機能を有効に設定すると、「インターバル待機状態」になり、インターバルによるメモリーを実行させることができます。設定した時間ごとに自動的に測定値を保存します。

〔備考〕 ・ 「インターバル待機状態」( **INT.** マーク点滅)では、オートホールドによるメモリー実行、手動キーによるメモリー実行または pH 校正の操作を行うことはできません。

(b) この操作では、あらかじめ有効チャンネルを選択する必要はありません。両チャンネルの測定値が同時に保存されます。

### (1) インターバル機能と時間の設定

(a) インターバル機能には有効/無効があり、有効の場合は、設定時間の長さに応じてショートインターバル機能とロングインターバル機能の 2 種類があります。

- ・ ショートインターバル機能では、[測定画面] を表示しながら、リアルタイムで測定値を保存します(設定範囲：1 秒～99 分 59 秒)。なお、4 秒以下の設定ではブザーOFF になります。
- ・ ロングインターバル機能では、インターバル期間中は省電力化のため、データ保存後、約 2 秒後に自動消灯します。設定時間の 1 分前になると、画面が自動点灯(表示)し、リアルタイムで測定値を保存します(設定範囲：2 分～99 時 59 分)。

**〔重要〕** ・ ロングインターバル機能を有効にすると、上記の通り、画面が自動消灯しますが異常ではありません。  
 ・ 自動消灯中に **POWER** を 2 秒以上押すことで、画面を点灯(表示)させることができます。再度、**POWER** を 2 秒以上押すと画面が消灯しますが、インターバル動作は継続されます。

(b) この機能を有効にした場合は、インターバル時間を設定してください。

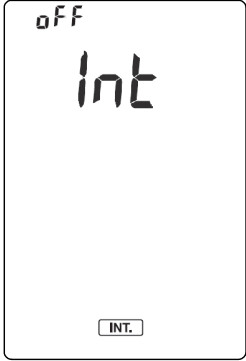
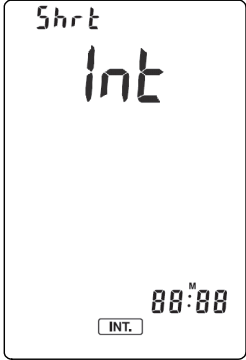

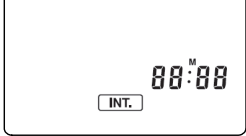
(c) この操作では、あらかじめ有効チャンネルを選択する必要はありません。

#### インターバル機能と時間の設定手順

操 作	画 面 例
① [メニュー画面]へ…「測定状態」( <b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で <b>MENU</b> を押す。	
② <b>INT.</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で <b>INT.</b> 以外のマークが点滅中のときは、 <b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を数回押して、 <b>INT.</b> を点滅させる。	

(続く)

(続き)

操 作	画 面 例
③ [インターバル設定画面]へ… [ENTER/HOLD] を押す。	 <p style="text-align: center;">OFF</p>
④ インターバル機能を選択… [↑] [↓] を押して、インターバル機能の有効/無効を選択する。 ・ 設定範囲：oFF (無効) (工場出荷値：OFF) Shrt (有効、ショートインターバル) Long (有効、ロングインターバル)	 <p style="text-align: center;">Shrt</p> <p style="text-align: center;">ショートインターバル</p>
⑤ インターバル時間を設定…「④」でインターバル機能を有効にしたときは、[DATA OUT/→]・[←/DATA IN] を押して、点滅個所の数字を変更し、インターバル時間を設定する。 ・ 設定範囲：ショートインターバル…1 秒～99 分 59 秒 (工場出荷値：5 秒) ロングインターバル…2 分～99 時 59 分 (工場出荷値：10 分)	 <p style="text-align: center;">Long</p> <p style="text-align: center;">ロングインターバル</p>
⑥ 元に戻す…設定値を確認し、[ENTER/HOLD] を押す。 確定後、「インターバル待機状態」([INT.] 点滅)での[測定画面]へ戻る。 ・ [メニュー画面]へ戻すときは、[MENU] または [CLEAR] を押す。	 <p style="text-align: center;">[インターバル設定画面]</p>

## (2) インターバルによるメモリー実行

- (a) インターバル機能を有効にすることで、設定したインターバル時間によって各測定が行われ、測定データが自動的に保存されます。
- (b) この操作では、あらかじめ有効チャンネルを選択する必要はありません。

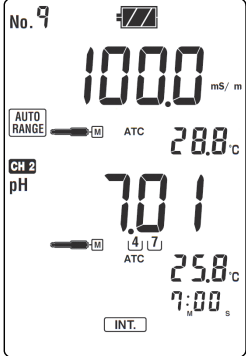
## (a) インターバルメモリの開始

## インターバルメモリの開始手順

操 作	画面例
<p>① 電極を準備…電極が正しく試料に浸された状態であることを確認する。</p> <p>② モードを設定…チャンネル1または2の各モードをいずれかに設定する(▷「6.1 モード切り替えの設定」)。</p> <p>③ 「インターバル待機状態」に…「6.4(1)インターバル機能と時間の設定」の「①～⑤」の操作を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「インターバル待機状態」(<b>INT.</b>点滅)での[測定画面]になることを確認する。</li> </ul>	 <p>[インターバル待機画面] (pHモードのとき)</p>
<p>④ [インターバル実行画面]へ… <b>ENTER/HOLD</b> を押す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>INT.</b> が点灯し、自動メモリまでの残時間が表示され、インターバル機能がスタートする。スタート時の測定値が保存される。</li> <li>・ <b>↑</b> <b>↓</b> を押すと、時間表示部に残時間と通常の時刻表示が切り替わる。</li> </ul> <p>⑤ インターバルでのメモリ実行…設定された時間間隔ごとに測定値が自動的に保存され、データナンバーが1つ増加する。</p> <p>⑥ 繰り返す…インターバルメモリの中止または解除を行わない限り、設定された時間間隔でメモリ実行を繰り返す。</p> <p>⑦ 中止または解除したいとき…「6.4(2)(b)インターバルメモリの中止」または「6.4(2)(c)インターバル機能の解除」の操作をする。</p>	 <p>[インターバル実行画面] (pHモードのとき)</p> <p>残り時間を表示</p>

## (b) インターバルメモリーの中止

## インターバルメモリーの中止手順

操 作	画面例
<p>① インターバル実行を中止…インターバルメモリー実行中に <b>CLEAR</b> を押す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「インターバル待機状態」(<b>INT.</b> 点滅)での[測定画面]に戻り、メモリー実行が中止される。</li> <li>・このとき、インターバル残時間はリセットされ、設定した時間に戻る。</li> </ul>	 <p>[インターバル実行画面]</p>

## (c) インターバル機能の解除

ショートインターバル機能は、次表の操作以外に、**POWER** を 2 秒以上押して電源をオフにすることも解除されます。

## インターバル機能の解除手順

操 作	画面例
<p>① [メニュー画面]へ…「インターバル待機状態」(<b>INT.</b> 点滅)での[測定画面]であることを確認し、<b>MENU</b> を押す。</p> <p>② <b>INT.</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で <b>INT.</b> 以外のマークが点滅中のときは、<b>DATA OUT/→</b>・<b>←/DATA IN</b> を数回押して、<b>INT.</b> を点滅させる。</p> <p>③ [インターバル設定画面]へ…<b>ENTER/HOLD</b> を押す。</p> <p>④ インターバル機能をオフに…<b>↑</b> <b>↓</b> を押して、インターバル機能を無効(oFF)に設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設定範囲 : oFF (無効) (工場出荷値 : oFF)</li> <li>Shrt (有効、ショートインターバル)</li> <li>Long (有効、ロングインターバル)</li> </ul> <p>⑤ 元に戻す…設定値を確認し、<b>ENTER/HOLD</b> を押す。確定後、「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]に戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [メニュー画面]へ戻すときは、<b>MENU</b> または <b>CLEAR</b> を押す。</li> </ul>	 <p>[インターバル設定画面]</p>



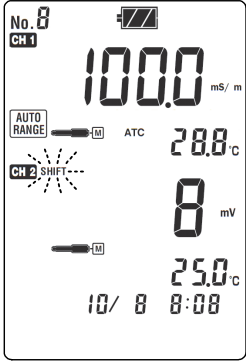
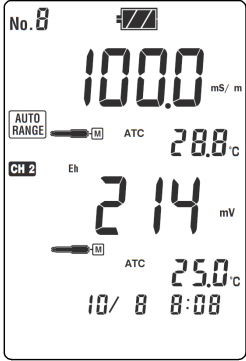
## 6.5 mV シフト機能

電極起電力を通常モードから Eh 換算モード及びゼロシフトモードへ変更することができます。

### (1) Eh 換算モードの実行

- (a) この計器によって厳密な意味での酸化還元電位(ORP)を求めたいときは、Eh 換算モードに切り替えて測定してください。
- (b) Eh 換算モードでは、電極起電力に対して各温度における水素電極に相対した塩化銀電極(3.3mol/L KCl 溶液)の電位(次表参照)を自動的に加算することができます。  
 [備考] ・内部液が 3.3mol/L の場合だけ使用できます。
- (c) この操作は、あらかじめチャンネル 2 を有効にしてください。

#### Eh 換算モードの実行手順

操 作	画面例
<p>① CH2 を有効に…「測定状態」(INT. 消灯)での[測定画面]で CH2 の点灯を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CH1 が点灯しているときは、↑ ↓ を押して、CH2 を点灯させる。</li> </ul>	 <p>[ゼロシフトモード画面]</p>
<p>② ORP モードに…ORP モードの「測定状態」(mV 点灯、INT. 消灯)での[測定画面]であることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ pH モードのときは、ORP モードへ切り替える。</li> <li>▷ 「6.1 モード切り替えの設定」</li> </ul>	
<p>③ [ゼロシフトモード画面]へ…mV シフト機能が[通常モード画面] (Eh 及び SHIFT 消灯)のときに、▼▲ を 1 回押す(2 秒未満)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SHIFT が点滅し、[ゼロシフトモード画面]になる。</li> </ul>	 <p>[Eh換算モード画面]</p>
<p>④ [Eh 換算モード画面]へ…▼▲ を 1 回押す(2 秒未満)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Eh が点灯し、[Eh 換算モード画面]になる。Eh 換算された測定値が表示される。</li> </ul>	
<p>⑤ 元に戻す…▼▲ を 1 回押す(2 秒未満)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Eh が消灯し、mV シフト機能が[通常モード画面]へ戻る。</li> </ul>	

## (2) ゼロシフトモードの実行

- ゼロシフトモードでは、現在の電極起電力を「0」（ゼロシフト）にすることができます。
- 基本試料からの電位の差や電位変化の傾向などを表示するときに使用してください。
- この操作は、あらかじめチャンネル2を有効にしてください。

### ゼロシフトモードの実行手順

操 作	画面例
<p>① CH2 を有効に…「測定状態」(INT. 消灯)での[測定画面]で CH2 の点灯を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CH1 が点灯しているときは、↑ ↓ を押して、CH2 を点灯させる。</li> </ul> <p>② ORP モードに…ORP モードの「測定状態」(mV 点灯、INT. 消灯)での[測定画面]であることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>pH モードのときは、ORP モードへ切り替える。</li> <li>▷ 「6.1 モード切り替えの設定」</li> </ul>	 <p>[ゼロシフトモード画面]</p>
<p>③ [メニュー画面]へ… MENU を押す。</p> <p>④ [ゼロシフトモード画面]へ…mV シフト機能が[通常モード画面] (Eh 及び SHIFT 消灯) のときに、↙ を1回押す(2秒未満)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SHIFT が点滅し、[ゼロシフトモード画面]になる。</li> </ul>	
<p>⑤ [ゼロシフト実行画面]へ… ↙ を2秒以上押す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SHIFT が点灯し、[ゼロシフト実行画面]になる。ゼロシフトされた測定値が表示される。</li> </ul>	 <p>[ゼロシフト実行画面]</p>
<p>⑥ 元に戻す… ↙ を2回押す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SHIFT が消灯し、mV シフト機能が[通常モード画面]へ戻る。</li> </ul>	

## 6.6 電気伝導率の温度補償・温度係数の設定

- (a) 恒温槽などを使用して試料温度を一定にして測定する場合や、温度センサーに異常が起きた際の応急処置的な測定の場合は、手動温度補償(MTC)に設定して実施してください。
- (b) 手動温度補償(MTC)の温度設定は、試料を温度計などで測定した温度を入力してください。
- (c) 温度補償(25°C換算)を行う場合は、自動温度補償(ATC)では温度係数を、また、手動温度補償(MTC)では温度と温度係数を同時に設定することができます。測定用途に応じて、次表の通り 3 種類の設定画面があります。

温度補償の種類と設定画面

測定用途	設定項目と内容	設定画面名	表示マーク(点灯)
通常測定用	・ 自動温度補償(ATC) ・ 温度係数	[自動温度補償設定画面]	ATC
	・ 手動温度補償(MTC) ・ 温度/温度係数	[手動温度補償設定画面]	MTC
厳密な測定用	・ 温度補償なし	[温度補償オフ設定画面]	ATC OFF

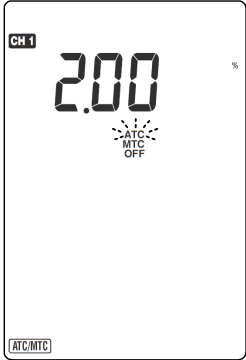

- (d) 複数の化合物が存在する試料では、厳密な測定を行うために、温度補償なしか温度係数を「0%/°C」に設定し、恒温槽などを使用して各温度の電気伝導率を測定し、試料の温度特性(温度係数)を求める必要があります。ただし、一般の測定では、「2%/°C」に設定してください(工場出荷値：2%/°C)。
- (e) この操作は、あらかじめチャンネル1を有効にしてください。

温度補償・温度係数の設定手順

操 作	画面例
<p>① CH1 を有効に…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で<b>CH1</b>の点灯を確認する。</p> <p>・ <b>CH2</b>が点灯しているときは、<b>↑</b> <b>↓</b> を押して、<b>CH1</b>を点灯させる。</p> <p>② [メニュー画面]へ… <b>MENU</b> を押す。</p>	

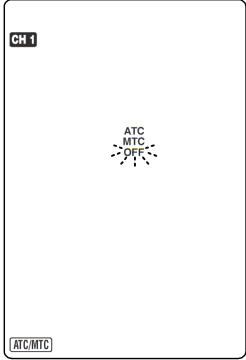
(続く)

(続き)

操 作	画面例
<p>③ <b>ATC/MTC</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で <b>ATC/MTC</b> 以外のマークが点滅中のときは、<b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を数回押して、<b>ATC/MTC</b> を点滅させる。</p>	
<p>④ [温度補償設定画面]へ…<b>ENTER/HOLD</b> を押す。</p>	
<p>⑤ 温度補償の設定内容を選択…<b>↑</b> <b>↓</b> を押して、測定用途に応じて、ATC、MTC、OFF の表示マークの点滅を切り替える(▷表「温度補償の種類と設定画面」)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設定範囲：ATC、MTC、OFF (工場出荷値：ATC)</li> <li>・ 設定値を確認し、<b>DATA OUT/→</b> を押す。選択した設定画面によって「⑥」～「⑧」のいずれかに進む。</li> </ul>	 <p>[温度補償設定画面]</p>
<p>⑥ [自動温度補償設定画面]を選択の場合…ATC が点灯する。主表示部の温度係数(点滅)を入力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を押して、点滅桁を移動する。</li> <li>・ <b>↑</b> <b>↓</b> を押して、点滅数値を変更する。</li> <li>・ 設定範囲：0.00～9.99%</li> <li>・ 設定後、「⑨」へ進む。</li> </ul>	
<p>⑦ [手動温度補償設定画面]を選択の場合…MTC が点灯する。主表示部の温度係数(点滅)を入力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を押して、点滅桁を移動する。</li> <li>・ <b>↑</b> <b>↓</b> を押して、点滅数値を変更する。</li> <li>・ 設定範囲：0.00～9.99%(工場出荷値：2.00%) 温度係数を設定後、<b>DATA OUT/→</b> を押して、温度表示部の温度(点滅)を上記同様に入力する。</li> <li>・ 設定範囲：0.0～100.0°C(工場出荷値：25°C)</li> <li>・ 設定後、「⑨」へ進む。</li> </ul>	 <p>[手動温度補償設定画面]</p>

(続く)

(続き)

操 作	画 面 例
<p>⑧ [温度補償オフ設定画面] を選択した場合へ…OFF が点滅する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設定後、「⑨」へ進む。</li> </ul> <p>⑨ 元に戻す…設定値を確認後、<b>ENTER/HOLD</b> を押す。</p> <p>確定後、元の[測定画面]へ戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [メニュー画面]へ戻るときは、<b>MENU</b> または <b>CLEAR</b> を押す。</li> </ul>	 <p>[温度補償オフ設定画面]</p>

## 6.7 pH の手動温度補償の設定

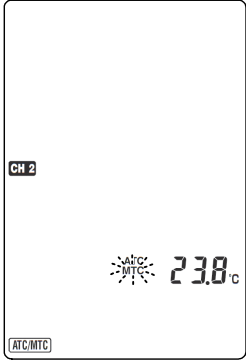
- 恒温槽などを使用して試料温度を一定にして pH 測定する場合や、温度センサーに異常が起きた際の応急処置的な pH 測定の場合は、手動温度補償(MTC)に設定して実施してください。
- Eh 換算モードに設定したときに、温度センサーが故障した際の応急処置的な ORP 測定の場合は、手動温度補償(MTC)に設定して実施してください。
- 手動温度補償(MTC)の温度設定は、試料を温度計などで測定した温度を入力してください。
- 通常の pH・ORP 測定または校正実行時には、自動温度補償(ATC)に設定してください。
- この操作は、あらかじめチャンネル2を有効にしてください。

### 手動温度補償の設定手順

操 作	画 面 例
<p>① CH2 を有効に…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で <b>CH2</b> の点灯を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>CH1</b> が点灯しているときは、<b>↑</b> <b>↓</b> を押して、<b>CH2</b> を点灯させる。</li> </ul>	


(続く)

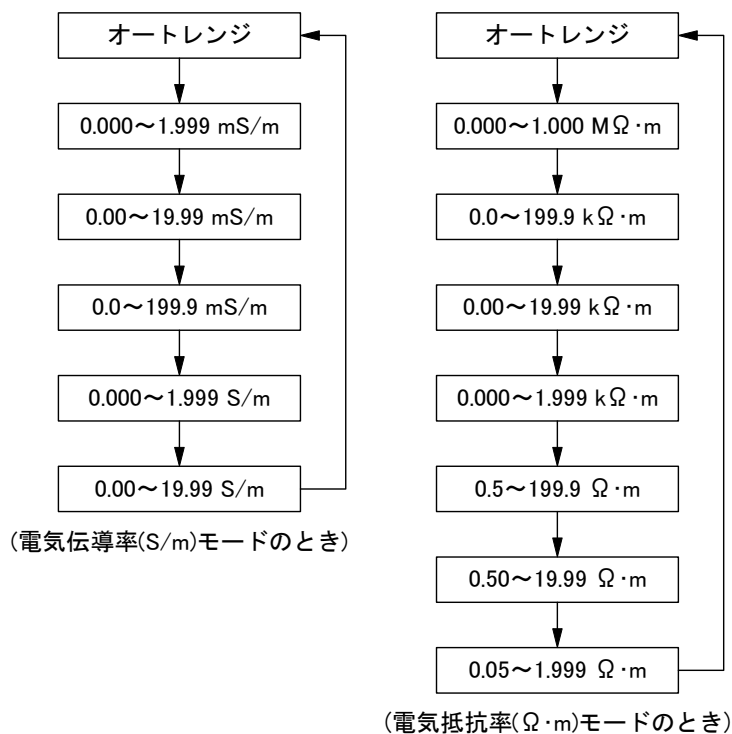
(続き)

操 作	画面例
② [メニュー画面]へ… <b>MENU</b> を押す。	
③ <b>ATC/MTC</b> を点滅表示に… [メニュー画面]で <b>ATC/MTC</b> 以外のマークが点滅中のときは、 <b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を数回押して、 <b>ATC/MTC</b> を点滅させる。	
④ [温度補償設定画面]へ… <b>ENTER/HOLD</b> を押す。	
⑤ 手動温度補償(MTC)に設定… <b>↑</b> <b>↓</b> を押して、「MTC」を選択する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設定範囲：ATC (自動温度補償) (工場出荷値：ATC) MTC (手動温度補償)</li> <li>・ 設定値を確認し、<b>DATA OUT/→</b> を押す。</li> </ul>	
⑥ 温度を入力…温度値が点滅していることを確認し、試料温度を入力する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を押して、点滅桁を移動する。</li> <li>・ <b>↑</b> <b>↓</b> を押して、点滅数値を変更する。</li> <li>・ 設定範囲：0.0～100.0°C (工場出荷値：25.0°C)</li> </ul>	
⑦ 元に戻す…設定値を確認後、 <b>ENTER/HOLD</b> を押す。 確定後、元の[測定画面]へ戻る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [メニュー画面]へ戻るときは、<b>MENU</b> または <b>CLEAR</b> を押す。</li> </ul>	




[温度補償設定画面]

## 6.8 電気伝導率のレンジ切り替えの設定

- (a) 測定レンジの切り替えは、オートレンジとマニュアルレンジの 2 つがあります。また、測定レンジは、電気伝導率(S/m)モードまたは電気抵抗率( $\Omega \cdot m$ )モードによって異なります。
- (b) オートレンジでは測定値が現在の測定レンジの上限値を超えると、1 つ高レンジへと自動的に切り替わります。逆に、測定レンジの下限値を下回ると、1 つ低レンジへと自動的に切り替わります。
- (c)  を押すたびに、次図の順序で測定レンジが切り替わります。



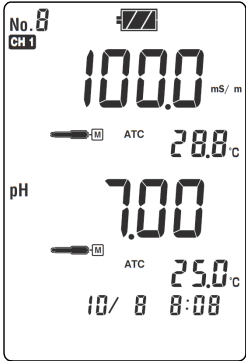
測定レンジ切り替え順序

- (d) オートレンジからマニュアルレンジへ切り替えるときは、 を押してください。
- (e) マニュアルレンジからオートレンジへ切り替えるときは、 を 2 秒以上押してください。なお、マニュアルレンジで  を数回押して、測定レンジ切り替えを一巡させると、オートレンジへ切り替わります。

**【重要】** ・ 塩分換算モードはレンジ切り替えがありません。電気伝導率モードまたは電気抵抗率モードであらかじめ測定レンジを設定してください。

- (f) この操作は、あらかじめチャンネル 1 を有効にしてください。

## 測定レンジの切り替え手順




操 作	画面例
<p>① CH1 を有効に…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で<b>CH 1</b>の点灯を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>CH 2</b> が点灯しているときは、<b>↑</b> <b>↓</b> を押して、<b>CH 1</b> を点灯させる。</li> </ul> <p>② モードを設定…電気伝導率(S/m)モード、電気抵抗率(<math>\Omega \cdot m</math>)モードのいずれかに設定する(▷「6.1 モード切り替えの設定」)。</p> <p>③ 測定レンジを確認…<b>AUTO RANGE</b>の点灯状態を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オートレンジ：<b>AUTO RANGE</b>点灯</li> <li>・ マニュアルレンジ：<b>AUTO RANGE</b>消灯</li> </ul> <p>④ オートレンジからマニュアルレンジへ切り替える場合…<b>▼▲</b>を押す。<b>AUTO RANGE</b>が消灯。</p> <p>⑤ マニュアルレンジからオートレンジへ切り替える場合…<b>▼▲</b>を2秒以上押す。<b>AUTO RANGE</b>が点灯。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ または、マニュアルレンジのレンジ切り替えが一巡するまで、<b>▼▲</b>を数回押す。</li> </ul> <p>⑥ マニュアルレンジの測定レンジを選択…主表示の小数点位置及び単位表示によって、現在のマニュアルレンジでの測定レンジを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>▼▲</b>を押して、適切な測定レンジを選択する。</li> </ul> <p>▷ 表「測定レンジ切り替え順序」</p>	 <p>(オートレンジのとき)</p>  <p>(マニュアルレンジのとき)</p> <p>[測定画面]</p>



## 6.9 電気伝導率のセル定数の設定

- (a) メモリー内蔵セルの場合は、工場出荷時にセル固有値であるセル定数を測定し、セル自体にその値を記憶させています。そのため、通常、測定時にセル定数を設定する必要はありません。
- (b) メモリー非内蔵セルの場合は、セル定数をセル自体に記憶させることができないため、次の手順に従って計器本体側でセル定数を設定してください。
- (c) この操作は、あらかじめチャンネル1を有効にしてください。

### セル定数の設定手順

操 作	画 面 例
<p>① CH1 を有効に…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で<b>CH1</b>の点灯を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>CH2</b>が点灯しているときは、<b>↑</b> <b>↓</b> を押して、<b>CH1</b>を点灯させる。</li> </ul> <p>② [メニュー画面]へ…<b>MENU</b> を押す。</p> <p>③ <b>C.</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で<b>C.</b>以外のマークが点滅中のときは、<b>DATA OUT/→</b>・<b>←/DATA IN</b> を数回押して、<b>C.</b> を点滅させる。</p> <p>④ [セル定数設定画面]へ…<b>ENTER/HOLD</b> を押す。</p> <p>⑤ 小数点位置を変更(キャルメモなしの場合)… を押して、小数点を移動させる。</p> <p>⑥ セル定数を設定…現在の設定値が表示される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>DATA OUT/→</b>・<b>←/DATA IN</b> を押して、点滅桁を移動する。</li> <li>・<b>↑</b> <b>↓</b> を押して、点滅数値を変更する。</li> <li>・設定範囲：0.500～5.000、5.00～50.00、50.0～500.0、500～5000</li> </ul>	 <p>[セル定数設定画面]</p>
<p>⑦ 工場出荷値に戻す場合…セル定数を工場出荷値に戻したいときは、[セル定数設定画面]で<b>CLEAR</b>を2秒以上押す(メモリー内蔵セル使用時のみ)。</p> <p>⑧ 元に戻す…設定値を確認後、を2秒以上押す。確定後、元の[測定画面]に戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・[メニュー画面]へ戻るときは、<b>MENU</b> を押す。</li> </ul>	

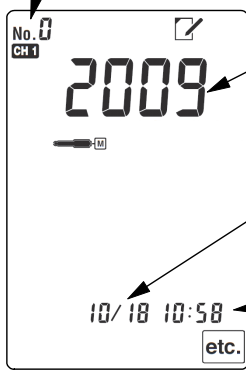
## 6.10 校正履歴機能

- (a) 校正履歴機能は、メモリー内蔵の電気伝導率セルまたは pH 複合電極(GST-2729 型など)を組み合わせただけ有効です。
- (b) 電気伝導率セルでは、セル定数校正を行うと最大 10 個の校正データが、電気伝導率セル自体に自動保存されます。
- (c) 校正データは履歴 No. 0 が最新のもので、履歴 No. 9 が一番古いものです。10 個を超えてセル定数校正を行った場合、その校正データは履歴 No. 0 に入ります。順次、校正履歴データが次の履歴 No. に繰り下がり、一番古い履歴 No. 9 の校正データは消去されます。
- (d) pH 複合電極では、最新の校正データを計器本体に 1 個、過去の 2 個の校正データを電極自体に保存させることができます。
- (e) この機能では、計器本体のキー操作によって、電極の校正履歴を確認することができ、計器を適正に管理する上で、有効な手段となります。
- (f) メモリー非内蔵の pH 複合電極の場合は、計器本体側で最新の校正データだけを保存します。

### (1) 電気伝導率(CH1)の校正履歴表示


この操作は、あらかじめチャンネル 1 を有効にしてください。

#### 電気伝導率(CH1)の校正履歴の表示手順

操 作	画 面 例
<p>① CH1 を有効に…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で<b>CH1</b>の点灯を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>CH2</b> が点灯しているときは、<b>↑</b> <b>↓</b> を押して、<b>CH1</b> を点灯させる。</li> </ul> <p>② [メニュー画面]へ… <b>MENU</b> を押す。</p> <p>③ <b>etc.</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で <b>etc.</b> 以外のマークが点滅中のときは、<b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を数回押して、<b>etc.</b> を点滅させる。</p> <p>④ [校正履歴表示画面]へ… <b>CLEAR</b> を 3 回押す。</p>	<p>校正履歴ナンバー No.0~9 : No.0が最新の校正データ。</p>  <p>校正年 (西暦4けた)</p> <p>校正月日</p> <p>校正時刻</p> <p>[校正履歴表示画面]</p>

(続く)

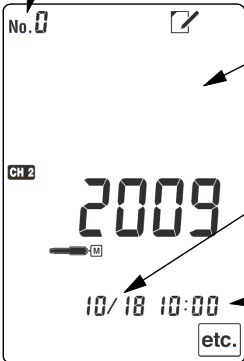
(続き)

操 作	画面例
<p>⑤ 最新の校正データを確認…最新の校正日時が表示される(最新の校正データ初期画面)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を押すごとに、「校正日時」→「セル定数」が表示される。</li> </ul> <p>⑥ 校正履歴データを確認するとき…<b>↑</b> <b>↓</b> を押して、過去9回の校正履歴ナンバーを切り替える。</p> <p>⑦ 元へ戻す…表示されたデータを確認後、<b>POWER</b> を押す(2秒未満)。元の[測定画面]へ戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [メニュー画面]へ戻るときは、<b>MENU</b> を押す。</li> </ul>	 <p>(セル定数) (例)</p>

## (2) pH (CH2)の校正履歴表示

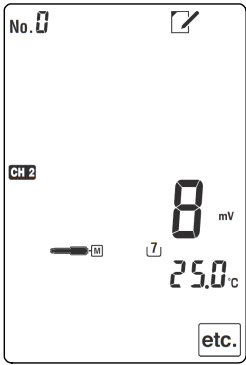
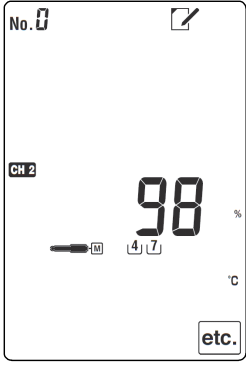
この操作は、あらかじめチャンネル2を有効にしてください。

### pH (CH2)の校正履歴の表示手順

操 作	画面例
<p>① CH2 を有効に…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で<b>CH 2</b>の点灯を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>CH 1</b> が点灯しているときは、<b>↑</b> <b>↓</b> を押して、<b>CH 2</b> を点灯させる。</li> </ul> <p>② [メニュー画面]へ…<b>MENU</b> を押す。</p> <p>③ <b>etc.</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で <b>etc.</b> 以外のマークが点滅中のときは、<b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を数回押して、<b>etc.</b> を点滅させる。</p>	<p>校正履歴ナンバー No.0～No.2 : 0が最新の校正データ。</p>  <p>校正年 (西暦4けた)</p> <p>校正月日</p> <p>校正時刻</p> <p>[校正履歴表示画面]</p>

(続く)

(続き)

操 作	画面例
④ [校正履歴表示画面]へ… [ENTER/HOLD] を 1 回押す	
<p>⑤ 最新の校正データを確認…最新の校正日時が表示される(最新の校正データ初期画面)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [DATA OUT/→] ・ [←/DATA IN] を押すごとに、「校正日時」→「標準液電位 1」→「標準液電位 2」→「スロープ 1(%)」が表示される。 (起電力、スロープ表示値がどの標準液のものかは、表示部の [標準液ボトル] マークの点滅によって判断できる)。</li> </ul>	
⑥ 校正履歴データを確認するとき… [↑] [↓] を押して、過去 2 回の校正履歴ナンバーを切り替える。	pH7標準液における起電力表示(例)
<p>⑦ 元へ戻す…表示されたデータを確認後、[POWER] を押す(2 秒未満)。元の[測定画面]へ戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [メニュー画面]へ戻るときは、[MENU] を押す。</li> </ul>	
	pH4、7標準液間のスロープ表示(例)

### (3) 最新の pH 校正データの履歴保存

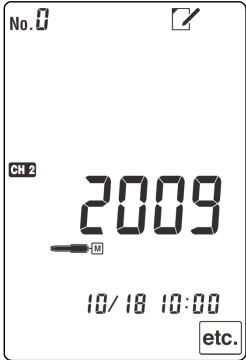
- (a) 最新の pH 校正データを校正履歴として保存することができます。この場合は、校正終了後、ただちに次の操作を実施してください。
- (b) この操作は、チャンネル 2 を有効にしてください。

#### 校正履歴の表示手順

操 作	画面例
① [メニュー画面]へ…「測定状態」([INT.] 消灯)での[測定画面]で [MENU] を押す。	

(続く)

(続き)

操 作	画面例
<p>② <b>etc.</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で <b>etc.</b> 以外のマークが点滅中のときは、<b>DATA OUT/→</b>・<b>←/DATA IN</b> を数回押して、<b>etc.</b> を点滅させる。</p> <p>③ [校正履歴表示画面]へ…<b>ENTER/HOLD</b> を 1 回押す。</p> <p>④ 校正履歴の保存…[校正履歴表示画面]で <b>←/DATA IN</b> を 2 秒以上押す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在の履歴ナンバー1の校正データが、履歴ナンバー2に移動し、履歴ナンバー1の場所に最新の校正データが保存される。</li> </ul> <p>⑤ 元へ戻す…表示されたデータを确认后、<b>POWER</b> を押す(2秒未満)。元の[測定画面]へ戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[メニュー画面]へ戻るときは、<b>MENU</b> を押す。</li> </ul>	 <p>[校正履歴表示画面]</p>

#### (4) 校正履歴の印字

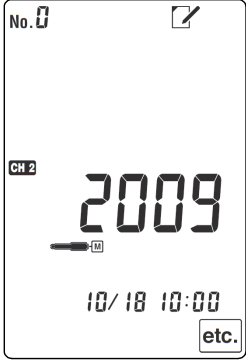
- (a) 印字内容については、「7.2(1) 校正值／校正履歴の印字」を参照してください。
- (b) この操作では、あらかじめ有効チャンネルを選択する必要はありません。

##### 校正履歴の印字手順

操 作	画面例
<p>① [メニュー画面]へ…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で <b>MENU</b> を押す。</p> <p>② <b>etc.</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で <b>etc.</b> 以外のマークが点滅中のときは、<b>DATA OUT/→</b>・<b>←/DATA IN</b> を数回押して、<b>etc.</b> を点滅させる。</p>	

(続く)

(続き)

操 作	画 面 例
<p>③ [校正履歴表示画面]へ…校正履歴画面が表示されるまで <b>ENTER/HOLD</b> を押す。</p> <p>④ 印字したい校正履歴データを選択… <b>↑</b> <b>↓</b> を押して校正履歴ナンバーを切り替え、印字したいデータを表示させる。</p> <p>⑤ 印字を実行… <b>PRINT</b> を押す。「④」で表示させたデータが外部プリンター(オプション)へ印字される。</p>	 <p>[校正履歴表示画面]</p>

## 6.11 温度校正機能

- (a) 厳密な測定を行う場合、電極の温度誤差を補正するために、他の基準温度計などで測定した温度に合わせ込むことによって、温度校正(一点校正)を行うことができます。
- (b) 通常の測定では、この機能を使用する必要はありません。

### (1) 温度校正の実行

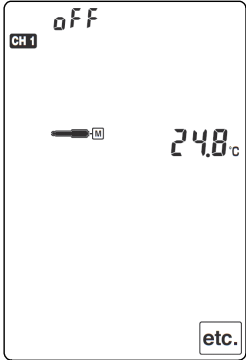

この操作では、あらかじめチャンネル1または2のいずれかを有効にしてください。

#### 温度校正の実行・解除手順

操 作	画 面 例
<p>① [メニュー画面]へ…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で <b>MENU</b> を押す。</p> <p>② <b>etc.</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で <b>etc.</b> 以外のマークが点滅中のときは、<b>DATA OUT/→</b>・<b>←/DATA IN</b> を数回押して、<b>etc.</b> を点滅させる。</p>	

(続く)

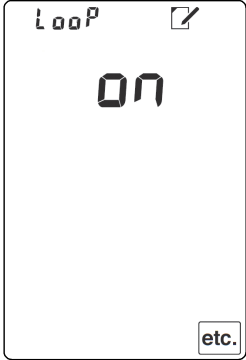
(続き)

操 作	画 面 例
<p>③ [温度校正画面]へ… <b>ENTER/HOLD</b> を1回または2回押す。</p>	 <p>The screen shows 'CH1' in the top left, 'OFF' in the top right, and '24.8c' in the center. A horizontal bar with a small square icon is visible on the left. An 'etc.' button is in the bottom right corner.</p> <p>(温度校正解除モード)</p>
<p>④ 温度校正のオンオフを選択… <b>↑</b> <b>↓</b> を押して、オン(ON)／オフ(OFF)を選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設定範囲：ON…温度校正実行モード (工場出荷値：OFF) OFF…温度校正解除モード</li> <li>・ 主表示部に現在の校正温度が表示される。</li> <li>・ オフ(OFF)選択時は、「⑥」へ進む。</li> </ul>	 <p>The screen shows 'CH1' in the top left, 'ON' in the top right, and '025.0' in the center. Below it, '24.8c' is displayed. A horizontal bar with a small square icon is visible on the left. An 'etc.' button is in the bottom right corner.</p> <p>(温度校正実行モード) [電気伝導率の温度校正画面]</p>
<p>⑤ 校正温度を設定…「④」でオン(ON)を選択したときは、校正温度(基準温度)を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を押して、点滅桁を移動する。</li> <li>・ <b>↑</b> <b>↓</b> を押して、点滅数値を変更する。</li> <li>・ 設定範囲：0.0～100.0℃(ただし、現在の温度±5.0℃以内)</li> </ul>	
<p>⑥ 温度校正を実行(または解除)… <b>↙</b> を押す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オン(ON)のときは、温度校正が実行される。</li> <li>・ オフ(OFF)のときは、温度校正が解除される。</li> </ul>	
<p>⑦ 元に戻す…温度校正終了後、<b>POWER</b> を押す(2秒未満)。元の[測定画面]へ戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温度表示部の温度値にアンダーラインが表示される。</li> <li>・ [メニュー画面]へ戻るときは、<b>MENU</b> を押す。</li> </ul>	

## 6.12 メモリー上書きオンオフの設定

- (a) 測定値のデータ No.が 1000 を超す場合、データ No.を 1 に戻し、上書きするかどうかの設定ができます。
- (b) 上書き(ON)に設定すると、古いデータは消去されます。逆に、上書きしない(OFF)に設定すると、データ No.が 1000 を超えて保存しようとした場合、「エラー02」が表示されます。
- (c) この操作では、あらかじめ有効チャンネルを選択する必要はありません。

### メモリー上書きオンオフの設定手順

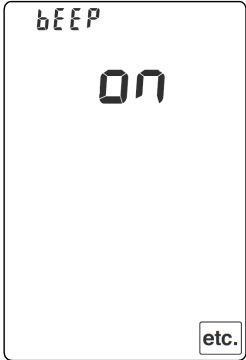
操 作	画 面 例
① [メニュー画面]へ…「測定状態」( <b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で <b>MENU</b> を押す。	
② <b>etc.</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で <b>etc.</b> 以外のマークが点滅中のときは、 <b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を数回押して、 <b>etc.</b> を点滅させる。	
③ [メモリー上書きオンオフ設定画面]へ…データナンバー表示部に「Loop」が表示するまで <b>ENTER/HOLD</b> を押す。	
④ メモリー上書きのオンオフを選択… <b>↑</b> <b>↓</b> を押して、オン(ON)/オフ(OFF)を選択する。 ・ 設定範囲：ON…上書きする(工場出荷値：ON) OFF…上書きしない	
⑤ 元に戻す…設定値を確認し、 <b>POWER</b> を押す。確定後、元の[測定画面]へ戻る。	
・ [メニュー画面]へ戻るときは、 <b>MENU</b> を押す。	



## 6.13 ブザーオンオフの設定

- (a) 操作音や、動作終了音などの音をオンオフ(ON/OFF)することができます。  
 (b) この操作では、あらかじめ有効チャンネルを選択する必要はありません。

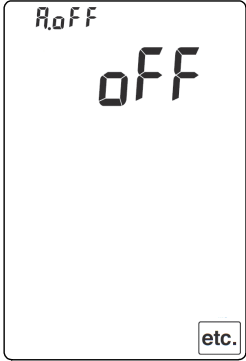
### ブザーオンオフの設定手順

操 作	画 面 例
<p>① [メニュー画面]へ…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で <b>MENU</b> を押す。</p> <p>② <b>etc.</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で <b>etc.</b> 以外のマークが点滅中のときは、<b>DATA OUT/→</b>・<b>←/DATA IN</b> を数回押して、<b>etc.</b> を点滅させる。</p> <p>③ [ブザーオンオフ設定画面]へ…データナンバー表示部に「bEEP」が表示するまで <b>ENTER/HOLD</b> を押す。</p> <p>④ ブザーのオンオフを選択…<b>↑</b> <b>↓</b> を押して、オン(ON) / オフ(OFF)を選択する。        ・ 設定範囲：ON…ブザー音あり(工場出荷値：ON)                  OFF…ブザー音なし</p> <p>⑤ 元に戻す…設定値を確認し、<b>POWER</b> を押す。確定後、元の[測定画面]へ戻る。        ・ [メニュー画面]へ戻るときは、<b>MENU</b> を押す。</p>	 <p>[ブザーオンオフ設定画面]</p>

## 6.14 オートパワーオフの設定

- (a) オートパワーオフ機能では、設定された時間(10/20/30/60分間内)にキー操作をしない場合、電源は自動的にオフ(OFF)になります。
- (b) [インターバル実行画面] でインターバルによるメモリー実行中には、この機能は無効になります。
- (c) この操作では、あらかじめ有効チャンネルを選択する必要はありません。
- (d) AC アダプター、RS-232C 接続ケーブル、アナログ出力ケーブル、外部プリンター用接続ケーブルのいずれかを接続した場合、この機能は無効となります。

### オートパワーオフの設定手順

操 作	画 面 例
<p>① [メニュー画面]へ…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で <b>MENU</b> を押す。</p>	
<p>② <b>etc.</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で <b>etc.</b> 以外のマークが点滅中のときは、<b>DATA OUT/→</b>・<b>←/DATA IN</b> を数回押して、<b>etc.</b> を点滅させる。</p>	
<p>③ [オートパワーオフ設定画面]へ…データナンバー表示部に「A.oFF」が表示するまで <b>ENTER/HOLD</b> を押す。</p>	
<p>④ オートパワーオフなどを選択…<b>↑</b> <b>↓</b> を押して、いずれかのオートパワーオフ状態を選択する。          ・ 設定範囲：OFF(無効)、10、20、30、60 分間          (工場出荷値：30 分間)</p>	
<p>⑤ 元に戻す…設定値を確認し、<b>POWER</b> を押す。確定後、元の[測定画面]へ戻る。          ・ [メニュー画面]へ戻るときは、<b>MENU</b> を押す。</p>	

[オートパワーオフ設定画面]

## 6.15 表示チャンネルの設定

- (a) 通常は、チャンネル 1 とチャンネル 2 の両方を使用し、同時に測定値を表示させますが、どちらか一方のチャンネルだけを使用したい場合は、表示させるチャンネルを設定することができます。
- (b) この操作では、あらかじめ有効チャンネルを選択する必要はありません。

### 表示チャンネルの設定手順

操 作	画 面 例
① [メニュー画面]へ…「測定状態」( <b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で <b>MENU</b> を押す。	
② <b>etc.</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で <b>etc.</b> 以外のマークが点滅中のときは、 <b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を数回押して、 <b>etc.</b> を点滅させる。	
③ [表示チャンネル設定画面]へ… <b>ENTER/HOLD</b> を 1 回押し、 <b>CLEAR</b> を 1 回押す。	
④ 表示させたいチャンネルを選択… <b>↑</b> <b>↓</b> を押して、いずれかの表示チャンネルを選択する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設定範囲：チャンネル 1、2 を表示：on、on            (工場出荷値：on、on)            チャンネル 1 を表示：on、oFF            チャンネル 2 を表示：oFF、on</li> </ul>	
	[表示チャンネル設定画面]
⑤ 元に戻す…設定値を確認し、 <b>POWER</b> を押す。確定後、元の[測定画面]へ戻る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [メニュー画面]へ戻るときは、<b>MENU</b> を押す。</li> </ul>	

## 6.16 セル定数の校正

- (a) 測定によってセル表面に汚れなどが付着し、セル定数が変化してくることがありますので、定期的にセル定数のチェック及びセル定数の校正を実施してください。
- (b) このセル定数の校正は、セル定数(工場出荷値)を記憶させたメモリー内蔵セルを接続した場合に使用できます。メモリー非内蔵セルでは使用できません。

---

**【重要】** ・ セル定数を校正するときは、恒温槽などを使用して、液温を必ず、25°Cにしてください。

---

### (1) 塩化カリウム校正液の調整

#### (a)校正液の種類

- (a) この製品に組み合わせる電気伝導率セルの型式(セル定数)によって、次表の通り、校正液の種類が異なります。対象となる校正液を調製し、セル定数の校正をしてください。

セル定数(電気伝導率セルの型式名)	校正液の種類
10000m <sup>-1</sup>	A (74.246g/L)
1000m <sup>-1</sup> (CT-27112B(標準)、CT-57101A)	B (7.437g/L)
100m <sup>-1</sup> (CT-57101B)	C (0.744g/L)
10m <sup>-1</sup> (CT-57101C)	D (標準溶液Cの10倍希釈溶液)

- (b) 弊社では、「電気伝導率セルチェック用 B 液」(0BI00002)を別売にてご用意しております。チェック液にセルを浸漬させて、電気伝導率セルが正常かどうかをチェックしてください。

---

**【重要】** ・ この「電気伝導率セルチェック用B液」は、あくまでもチェック用のものであり、セル定数の校正を行うためのものではありません。

---

#### (b) 校正液の調製方法

セル定数を校正する際は、塩化カリウム校正液を正確に調製する必要があります。各校正液の調製方法を次に示します。

- ① **試薬及び器具を準備する**……使用試薬及び器具として次のものを準備してください。

- ・ 水：JIS K 0557 に規定する化学分析用の水(A2、A3 または A4 のもの)。
- ・ 塩化カリウム：JIS K 8121 に規定する塩化カリウム(電気伝導率測定用)をめのう乳鉢で粉末にし、500°Cで4時間加熱し、デシケーター中で放冷したもの。
- ・ 全量フラスコ：JIS R 3505 に規定する全量フラスコ。
- ・ 全量ピペット：JIS R 3505 に規定する全量ピペット。

- ② **校正液を調製する**……校正液 A～D の調整方法は以下の通りです。また、調製後の校正液の電気伝導率値(理論値)は、次表を参照してください。

塩化カリウム校正液の理論電気伝導率

校正液	電気伝導率(mS/m) 25°C
A	11134
B	1286
C	140.9
D	14.69

- ・ 校正液 A：塩化カリウム 74.246g を量り取り、水(20°C)に溶かして全量フラスコ 1000mL に移し入れ、水を標線まで加えてください。
- ・ 校正液 B：塩化カリウム 7.437g を量り取り、水(20°C)に溶かして全量フラスコ 1000mL に移し入れ、水を標線まで加えてください。
- ・ 校正液 C：塩化カリウム 0.744g を量り取り、水(20°C)に溶かして全量フラスコ 1000mL に移し入れ、水を標線まで加えてください。
- ・ 校正液 D：全量ピペットで標準溶液 C 100mL を採り、全量フラスコ 1000mL に移し入れ、水(20°C)を標線まで加えてください。

- 【重要】** ・ 校正液 A、B、C は、ポリエチレン瓶または硬化ガラス瓶に密栓をして保存してください。ただし、いずれも長時間の保存は、電気伝導率が変化する可能性があるため避けてください。
- ・ 校正液 D は、短時間の保存でも電気伝導率が変化する可能性があるため、ご使用のたびに調製してください。

## (2) セル定数の校正手順

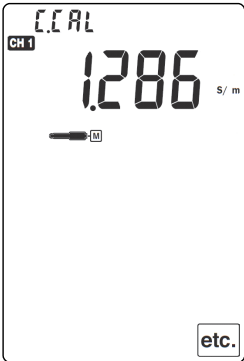

- (a) セル定数の校正が終了すると、メモリー内蔵セルではセル自体に記憶されたセル定数に校正値が上書きされます。以後、この上書きされたセル定数を読み込みます。
- (b) この操作は、あらかじめチャンネル 1 を有効にしてください。

### セル定数の校正手順

操 作	画面例
① <b>校正液の液温を調節</b> …水温を $25 \pm 0.1^\circ\text{C}$ に保つことができる恒温水槽に、塩化カリウム校正液が入ったビーカーを浸し、溶液の温度が恒温水槽の温度になるまで待つ。	

(続く)

(続き)

操 作	画面例
<p>② セルを校正液に浸す…電気伝導率セルを「①」の校正液に浸漬する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スターラーなどを使用して、校正液をかくはんしながら測定する。</li> </ul>	
<p>③ CH1 を有効に…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で<b>CH1</b>の点灯を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>CH2</b>が点灯しているときは、<b>↑</b> <b>↓</b>を押して、<b>CH1</b>を点灯させる。</li> </ul>	
<p>④ [メニュー画面]へ…<b>MENU</b>を押す。</p>	
<p>⑤ <b>etc.</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で <b>etc.</b> 以外のマークが点滅中のときは、<b>DATA OUT/→</b>・<b>←/DATA IN</b> を数回押して、<b>etc.</b> を点滅させる。</p>	 <p>[セル定数校正画面]</p>
<p>⑥ [セル定数校正画面]へ…<b>ENTER/HOLD</b> を5回押す。</p>	
<p>⑦ 測定値を確認…表示部にリアルタイムの電気伝導率測定値が表示される(この測定値は 25℃であることを前提とした温度補償なしのもの)。</p>	 <p>(校正液の電気伝導率値を設定)</p>
<p>⑧ 測定値をホールド…[セル定数校正画面]で測定値の安定を確認後、<b>←/DATA IN</b> を押す。</p>	
<p>⑨ 校正液の電気伝導率値を設定…「6.16(1)(b) 表「塩化カリウム校正液の理論電気伝導率」を参照して、使用した校正液に応じた電気伝導率値を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>DATA OUT/→</b>・<b>←/DATA IN</b> を押して、点滅桁を移動する。</li> <li><b>↑</b> <b>↓</b> を押して、点滅数値を変更する。</li> <li>設定範囲：0～2000、0.0～200.0、0.00～20.00、0.000～2.000 (工場出荷値：組み合わせる電気伝導率セルによる。)</li> </ul>	 <p>(セル定数校正終了)</p>
<p>⑩ 工場出荷値に戻す場合…セル定数を工場出荷値に戻したい場合は、<b>CLEAR</b> を2秒以上押す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>その必要がなければ、そのまま「⑪」へ進む。</li> </ul>	
<p>⑪ 確定…<b>▼▲</b> を押す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブザーが鳴り、校正後のセル定数が表示される。</li> </ul>	
<p>⑫ 元に戻す…セル定数を確認後、<b>POWER</b> を押す(2秒未満)。元の[測定画面]へ戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[メニュー画面]へ戻るときは、<b>MENU</b> を押す。</li> </ul>	

## 6.17 新旧単位の設定

- (a) 電気導電率の新単位(S/m)と旧単位(S/cm)の表示を切り替えることができます。  
 (b) この操作は、あらかじめチャンネル1を有効にしてください。

### 新旧単位の設定手順

操 作	画 面 例
<p>① CH1 を有効に…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で<b>CH1</b>の点灯を確認する。        ・ <b>CH2</b> が点灯しているときは、<b>↑</b> <b>↓</b> を押して、<b>CH1</b> を点灯させる。</p> <p>② [メニュー画面]へ… <b>MENU</b> を押す。</p> <p>③ <b>etc.</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で <b>etc.</b> 以外のマークが点滅中のときは、<b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を数回押して、<b>etc.</b> を点滅させる。</p> <p>④ [新旧単位設定画面]へ… <b>ENTER/HOLD</b> を1回押し、<b>CLEAR</b> を2回押す。(逆回り)</p> <p>⑤ 新旧単位を選択… <b>↑</b> <b>↓</b> を押して、新旧の単位を選択する。        ・ 設定範囲：S/m…新単位(工場出荷値：S/m)                          S/cm…旧単位</p> <p>⑥ 元に戻す…設定値を確認し、<b>POWER</b> を押す。確定後、元の[測定画面]へ戻る。        ・ [メニュー画面]へ戻るときは、<b>MENU</b> を押す。</p>	<div data-bbox="1090 965 1337 1326" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>Unit</p> <p style="text-align: right;">S/m</p> <p style="text-align: right;"><b>etc.</b></p> </div> <p style="text-align: center;">(S/mのとき)</p> <div data-bbox="1090 1391 1337 1751" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Unit</p> <p style="text-align: right;">S/cm</p> <p style="text-align: right;"><b>etc.</b></p> </div> <p style="text-align: center;">(S/cmのとき)</p> <p style="text-align: center;">[新旧単位設定画面]</p>

## 6.18 pH 標準液種類の設定

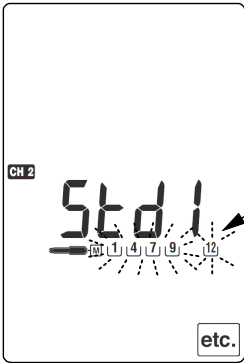
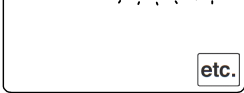
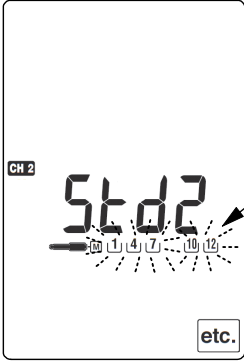
(a) この計器は pH 自動校正を実施していますが、pH9.18 と pH10.02 の標準液は自動的に判定することができません。そのため、pH10.02 の標準液を使用して校正をする場合は、この画面で標準液種類を設定してください。

(b) 国内では、JIS 規格の標準液を使用しますので問題はありませんが、海外では、US 規格の標準液を使用しますので、この画面では、JIS/US 規格の標準液の設定を切り替えて使用してください。標準液が US 規格に設定されている場合、[測定画面]において [US] が点灯します。

〔備考〕・US 規格の標準液では、pH6.86 標準液(25°C)の代わりに、pH7.00 標準液(25°C)を使用してください。

(c) この操作は、あらかじめチャンネル 2 を有効にしてください。

### pH 標準液種類の設定手順

操 作	画面例
<p>① CH2 を有効に…「測定状態」( [INT.] 消灯)での[測定画面]で [CH2] の点灯を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [CH1] が点灯しているときは、 [↑] [↓] を押して、 [CH2] を点灯させる。</li> </ul>	 <p>1, 4, 7, 9, 12の ボトルマーク 点滅。</p>
<p>② [メニュー画面]へ… [MENU] を押す。</p>	
<p>③ [etc.] を点滅表示に…[メニュー画面]で [etc.] 以外のマークが点滅中のときは、 [DATA OUT/→] ・ [←/DATA IN] を数回押して、 [etc.] を点滅させる。</p>	 <p>JIS規格画面 (pH9.18標準液有効)</p>
<p>④ [pH 標準液種類設定画面]へ… [ENTER/HOLD] を 3 回押す。</p>	
<p>⑤ 標準液種類を選択… [↑] [↓] を押して、主表示部の標準液種類を切り替える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設定範囲： [Std1] …JIS 規格(pH9.18 標準液有効)</li> <li>[Std2] …JIS 規格(pH10.02 標準液有効)</li> <li>[Std3] …US 規格(pH9.18 標準液有効)</li> <li>[Std4] …US 規格(pH10.02 標準液有効)</li> <li>(工場出荷値： [Std1] )</li> </ul>	 <p>1, 4, 7, 10, 12 ボトルマーク 点滅。</p> <p>JIS規格画面 (pH10.02標準液有効)</p> <p>[pH標準液種類設定画面]</p>


(続く)



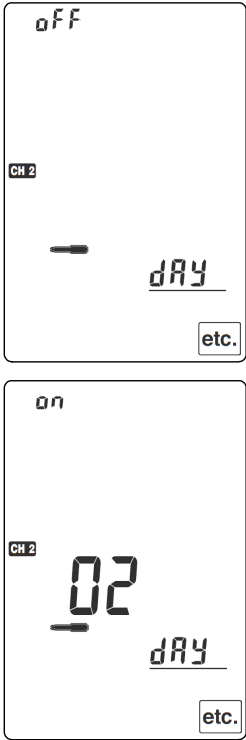
(続き)

操 作	画 面 例
<p>⑥ 元に戻す…設定値を確認し、<b>POWER</b> を押す。確定後、元の[測定画面]へ戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [メニュー画面]へ戻るときは、<b>MENU</b> を押す。</li> </ul>	<div data-bbox="997 295 1241 654"> </div> <p data-bbox="1257 331 1423 452">1、4、7、9、12の ボトルマーク、 USマークが 点滅。</p> <p data-bbox="1013 663 1225 721">US規格画面 (pH9.18標準液有効)</p> <div data-bbox="997 743 1241 1102"> </div> <p data-bbox="1257 779 1423 900">1、4、7、10、12の ボトルマーク、 USマークが 点滅。</p> <p data-bbox="1013 1111 1225 1169">US規格画面 (pH10.02標準液有効)</p> <p data-bbox="997 1191 1241 1223">pH標準液種類設定画面</p>

## 6.19 pH 校正間隔管理の設定

- (a) pH 校正間隔管理機能では、最後の校正終了後から設定期間(日数)が経過すると、[測定画面] に  を点滅表示させることができます。pH 校正の管理を行う上で、有効な手段となります。
- (b) この操作は、あらかじめチャンネル 2 を有効にしてください。

### pH 校正間隔管理機能の設定手順

操 作	画面例
<p>① CH2 を有効に…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で <b>CH2</b> の点灯を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>CH1</b> が点灯しているときは、<b>↑</b> <b>↓</b> を押して、<b>CH2</b> を点灯させる。</li> </ul>	 <p>The image shows two examples of the pH calibration interval management setting screen. The top example shows the 'OFF' mode, with 'OFF' at the top, 'CH2' on the left, a dash '-' in the center, and 'day' at the bottom right. The bottom example shows the 'ON' mode, with 'ON' at the top, 'CH2' on the left, '02' in the center, and 'day' at the bottom right. Both screens have an 'etc.' button at the bottom right.</p>
<p>② [メニュー画面]へ… <b>MENU</b> を押す。</p>	
<p>③ <b>etc.</b> を点滅表示に…[メニュー画面]で <b>etc.</b> 以外のマークが点滅中のときは、<b>DATA OUT/→</b>・<b>←/DATA IN</b> を数回押して、<b>etc.</b> を点滅させる。</p>	
<p>④ [pH 校正間隔管理設定画面]へ… <b>ENTER/HOLD</b> を 4 回押す。</p>	
<p>⑤ 校正間隔管理のオンオフを選択… <b>↑</b> <b>↓</b> を押して、オン(ON)/オフ(OFF)を選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 設定範囲：ON…校正間隔管理機能実行モード OFF…通常モード(工場出荷値：OFF)</li> </ul>	
<p>⑥ 管理日数を設定…「⑤」でオン(ON)に選択時は、pH 校正間隔管理のための日数を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>DATA OUT/→</b>・<b>←/DATA IN</b> を押して、点滅桁を移動する。</li> <li>• <b>↑</b> <b>↓</b> を押して、点滅数値を変更する。</li> <li>• 設定範囲：ON…1～99Day (工場出荷値：1Day)</li> <li>• オフ(OFF)を選択時は、そのまま「⑦」へ進む。</li> </ul>	
<p>⑦ 元に戻す…設定値を確認し、<b>POWER</b> を押す。確定後、元の[測定画面]へ戻る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [メニュー画面]へ戻るときは、<b>CLEAR</b> を 3 回押し、<b>MENU</b> を押す。</li> </ul>	

[pH校正間隔管理設定画面]

## 7. オプション機器接続による機能

### 7.1 オプション機器の接続

- (a) オプション機器として AC アダプター、外部プリンター、アナログ出力ケーブル及び RS-232C 接続ケーブルを接続することができます。
- (b) 本計器の RS-232C 及びアナログ出力は非絶縁タイプです。
- (c) これらの接続方法と機能について、以下を参照してください。

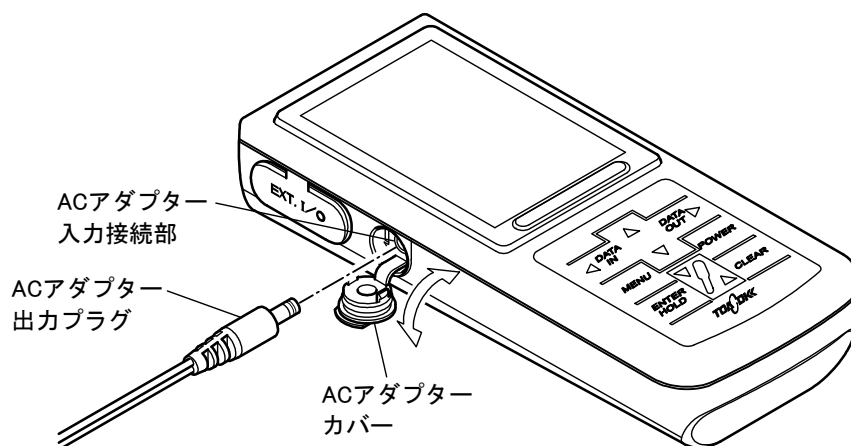
#### △注意 防水

- 製品は、pH 電極や電気伝導率セル、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを正しく取り付けられた状態ではじめて防水構造 (IP67) となります。
- pH 電極や電気伝導率セルを外したり、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを開けた状態で、濡れた手で触れたり、水で洗ったりしないでください。また、水や薬品などが入る恐れのある場所に、設置または保管しないでください。

#### (1) AC アダプターの接続

【重要】・ AC アダプターは、必ず、弊社のオプション部品を使用してください。弊社以外のものは、絶対に使用しないでください。

- ① 電源オフを確認する……計器本体の電源がオフであることを確認してください。
- ② 出力プラグを接続する……計器本体の AC アダプターカバーを外し、AC アダプター (オプション) の専用の出力プラグを AC アダプター入力接続部へ接続してください。
- ③ コンセントへ接続する……AC アダプター (オプション) の電源側プラグをコンセントに接続してください。
- ④ 電源スイッチをオンにする……計器本体の電源スイッチをオンにしてください。  
「測定状態」 (INT. 消灯) での [測定画面] が表示されます。

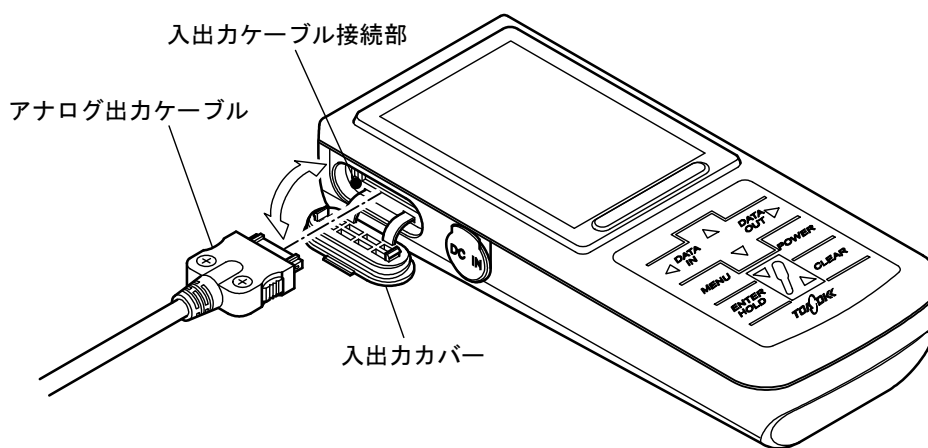


AC アダプターの接続

## (2) アナログ出力ケーブルの接続

**【重要】** ・ アナログ出力ケーブルは、必ず、弊社のオプション部品を使用してください。弊社以外のものは、絶対に使用しないでください。

- ① 電源オフを確認する……計器本体の電源がオフであることを確認してください。
- ② アナログ出力ケーブルを接続する……計器本体の入出力カバーを外し、アナログ出力ケーブル(オプション)のコネクター部を入出力ケーブル接続部へ接続してください。
- ③ 記録計などを接続する……アナログ出力ケーブル(オプション)の他端である矢形端子(9本)を記録計などのアナログ出力端子台へ接続してください。
- ④ 電源スイッチをオンにする……計器本体の電源スイッチをオンにしてください。  
「測定状態」(INT. 消灯)での「測定画面」が表示されます。



アナログ出力ケーブルの接続

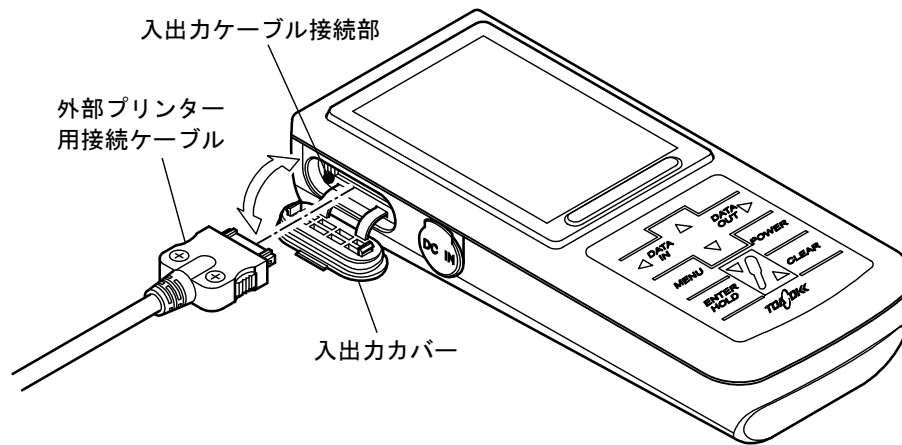
## (3) 外部プリンター用接続ケーブルの接続

計器本体に外部プリンター(オプション)を接続することで、測定結果や校正結果を普通紙に印字することができます。

**【重要】** ・ 外部プリンター用接続ケーブルは、必ず、弊社のオプション部品を使用してください。弊社以外のものは、絶対に使用しないでください。

- ① 電源オフを確認する……計器本体の電源がオフであることを確認してください。
- ② 外部プリンター用接続ケーブルを接続する……計器本体の入出力カバーを外し、外部プリンター用接続ケーブル(オプション)のコネクター部を入出力ケーブル接続部へ接続してください。
- ③ 外部プリンターへの接続と準備……添付の外部プリンターの取扱説明書を参照して、外部プリンター用接続ケーブル(オプション)の他端のコネクター(D-sub25ピン)をプリンターへ接続してください。また、プリンター用紙の装てん、または、動作スタートまでの準備をしてください。

- ④ **電源スイッチをオンにする**……計器本体の電源スイッチをオンにしてください。  
「測定状態」(INT. 消灯)での「測定画面」が表示されます。



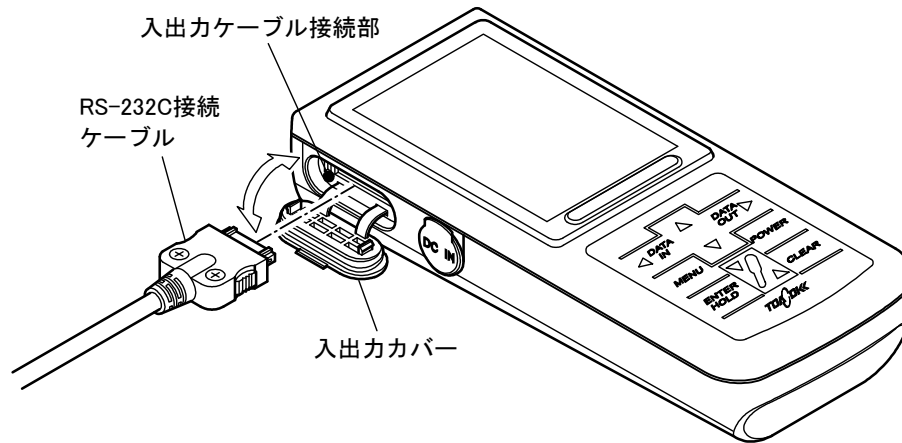
外部プリンター用接続ケーブルの接続

#### (4) RS-232C 接続ケーブルの接続

- (a) 計器本体に RS-232C 接続ケーブル(オプション)を接続することで、パソコンへ測定値や校正値のデータを取り込むことができます。
- (b) 弊社では、測定値データを CSV 形式にしてパソコンに取り込むためのソフトウェア「データ収録ソフト GP-LOG」(オプション)をご用意しています。本ソフトウェアによって保存されたデータを、市販の表計算ソフトなどを使用して表やグラフを作成することができます(詳細については、弊社までお問い合わせください)。

**【重要】**・RS-232C 接続ケーブルは、必ず、弊社のオプション部品を使用してください。  
弊社以外のものは、絶対に使用しないでください。

- ① **電源オフを確認する**……計器本体の電源がオフであることを確認してください。
- ② **RS-232C 接続ケーブルを接続する**……計器本体の入出力カバーを外し、RS-232C 接続ケーブル(オプション)のコネクター部を入出力ケーブル接続部へ接続してください。
- ③ **パソコンへ接続する**……RS-232C 接続ケーブル(オプション)の他端のコネクター(D-sub9 ピン)をパソコンへ接続してください。
- ④ **電源スイッチをオンにする**……計器本体の電源スイッチをオンにしてください。  
「測定状態」(INT. 消灯)での「測定画面」が表示されます



RS-232C 入出力ケーブルの接続

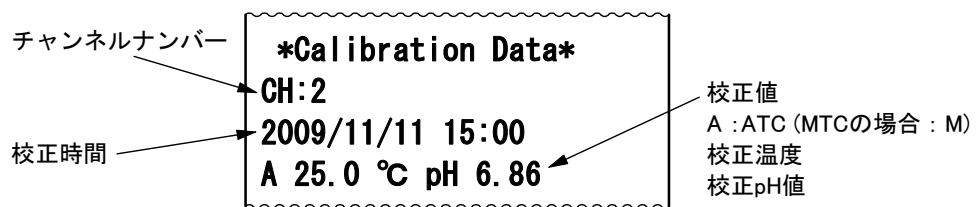
## 7.2 外部プリンターによる印字機能

外部プリンター(オプション)を接続した場合は、次の通り、校正値及び測定値のデータを印字させることができます。

### (1) 校正値／校正履歴の印字

#### (a) 校正値の印字

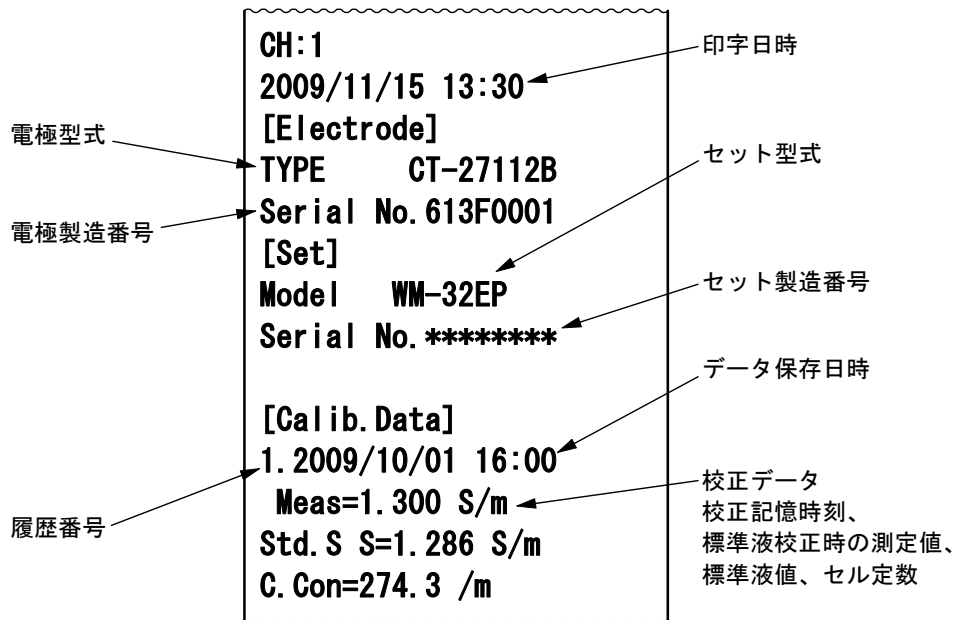
校正を終了すると、校正値データが自動的に印字されます。▷ 「5.5 pH 校正」



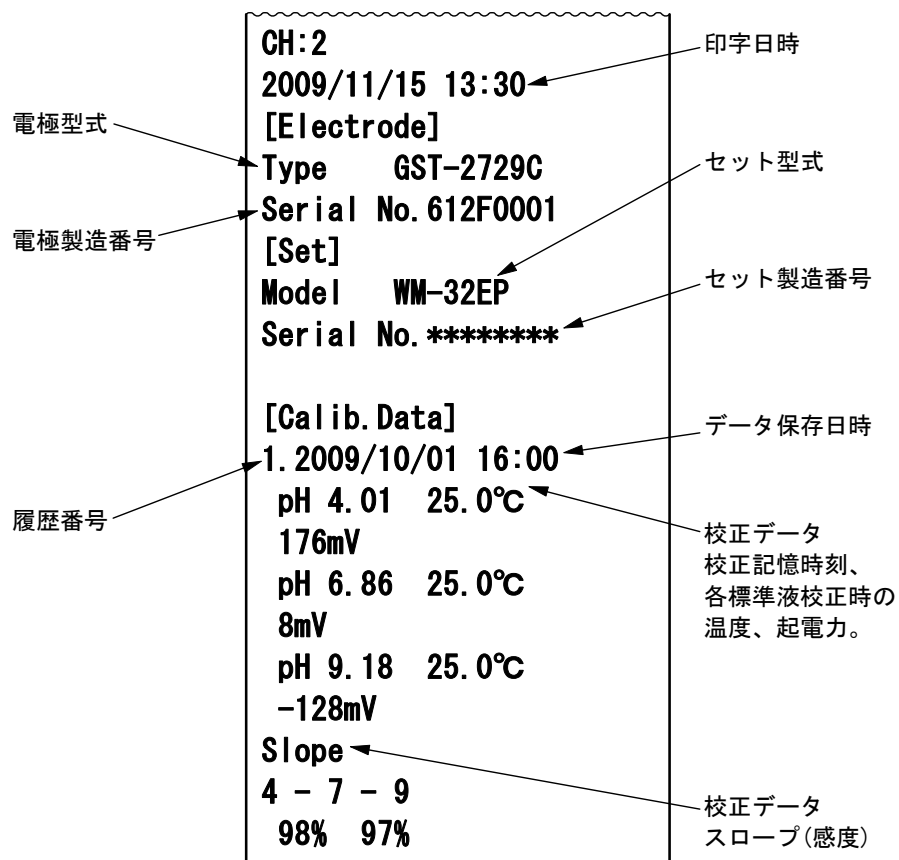
pH 校正データの印字例

## (b) 校正履歴の印字

校正履歴機能によって、校正履歴データを印字することができます。▷ 「6.10(4) 校正履歴の印字」



電気伝導率校正履歴データの印字



pH 校正履歴データの印字

## (2) 測定値の印字

### (a) オートホールド機能による印字

オートホールド機能によって測定を行った場合、ホールドと同時に、測定値が印字されます。

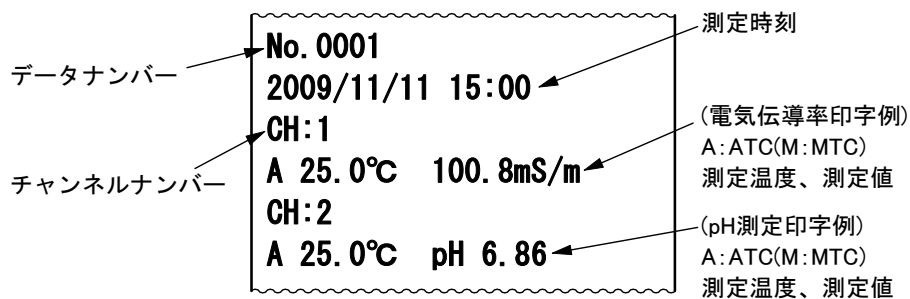
▷ 「6.2(1) オートホールドによるメモリー実行」

### (b) インターバル機能による印字

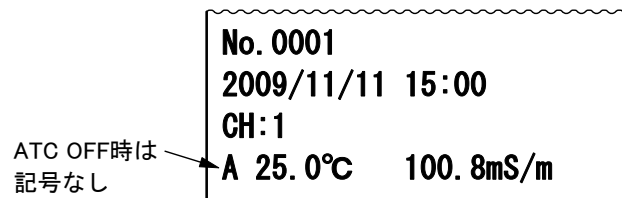
インターバル機能によって測定を行った場合、設定したインターバル時間ごとに測定値が自動的に印字されます。▷ 「6.4(2) インターバルによるメモリー実行」

### (c) データメモリー機能によるマニュアル印字

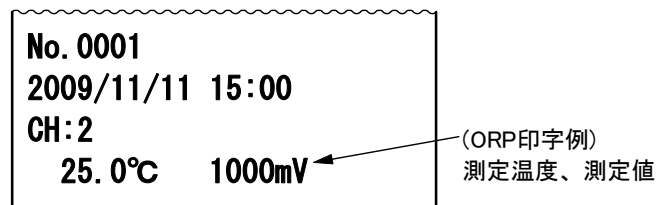
データメモリー機能によって、[測定画面]で **←/DATA IN** を押すことで、現在の測定値が印字されます。▷ 「6.3(2) 手動キーによるメモリー実行」



測定値の印字例(チャンネル 1、2 の場合)



測定値の印字例(チャンネル 1 の場合)



測定値の印字例(チャンネル 2 の場合)



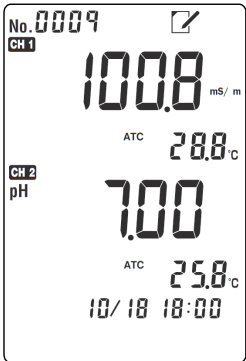
## (d) データメモリー機能によるメモリーデータの印字

現場で測定した測定値を、後から保存したデータとして印字することができます。

▶ 「6.3(3) メモリーデータの呼び出し」

## (i) 個別メモリーデータの印字

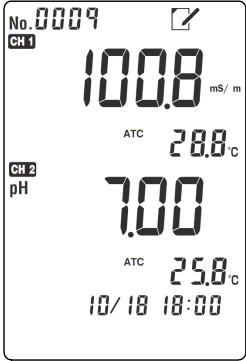

## 個別メモリーデータの印字手順

操 作	画 面 例
<p>① [メモリーデータ表示画面]へ…「測定状態」(<b>INT.</b> 消灯)での[測定画面]で <b>DATA OUT/→</b> を押す。</p> <p>② データナンバーを呼び出す…データナンバーの 1 桁目の数値が点滅する。呼び出したいデータナンバーを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>DATA OUT/→</b> ・ <b>←/DATA IN</b> を押して、点滅桁を移動する。</li> <li>・ <b>↑</b> <b>↓</b> を押して、点滅数値を変更する。</li> </ul> <p>③ メモリーデータを確認…「②」で呼び出したデータナンバーに応じた測定値、温度、月日及び時刻が表示される。</p> <p>④ メモリーデータを印字… <b>▶</b> を押す。画面表示されているメモリーデータが外部プリンター(オプション)へ印字される。</p> <p>⑤ 元に戻す… <b>CLEAR</b> を押す。元の[測定画面]へ戻る。</p>	 <p>The image shows a digital display screen with the following information: At the top, 'No. 0009' and a checkmark icon. Below that, 'CH1' and a large '100.8' with 'mS/m' to its right. Underneath is 'ATC 28.8' with 'C' to its right. Then 'CH2' and a large '7.00' with 'pH' to its right. Below that is 'ATC 25.8' with 'C' to its right. At the bottom, the date and time '10/18 18:00' are displayed.</p> <p>[メモリーデータ表示画面]</p>

## (ii) メモリーデータの連続印字

データナンバーを範囲指定することによって、メモリーデータの連続印字ができます。

## メモリーデータの連続印字手順

操 作	画 面 例
<p>① [メモリーデータ表示画面]へ…「測定状態」( [INT.] 消灯)での[測定画面]で [DATA OUT/→] を押す。</p>	
<p>② [メモリーデータ出力/削除画面]へ… [ENTER/HOLD] を押す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印字開始のデータナンバーの 1 桁目の数値が点滅する。</li> </ul> <p>③ データナンバーの印字範囲を設定…データナンバーの印字開始 No. と印字終了 No. を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [DATA OUT/→] ・ [←/DATA IN] を押して、点滅桁を移動する。</li> <li>・ [↑] [↓] を押して、点滅数値を変更する。</li> </ul>	<p>[メモリーデータ表示画面]</p>
<p>④ 連続印字スタート…「③」の印字範囲を確認後、 [ENTER/HOLD] を押す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設定した範囲のメモリーデータが、外部プリンター (オプション)へ印字される。</li> </ul>	
<p>⑤ 印字を中止したい場合…計器本体及び外部プリンター (オプション)の電源をオフにする。</p> <p>⑥ 元に戻す…印刷が終了したら、 [POWER] (2 秒未満) を押す。元の[測定画面]へ戻る。</p>	<p>[メモリーデータ出力/削除画面]</p>

## 7.3 RS-232C 通信機能

RS-232C 入出力ケーブルを接続している場合は、オートパワーオフ機能は無効となります。

〔備考〕・弊社の RC-232C 入出力ケーブルは、非絶縁タイプです。

### (1) RS-232C 通信フォーマット

#### 〔通信条件〕 固定

- ・ 伝送方式 : 半二重通信
- ・ 伝送速度 : 19200bps
- ・ キャラクター : 8 ビット
- ・ ストップ : 1 ビット
- ・ パリティ : なし
- ・ フロー制御 : なし

#### 〔通則〕

- ・ 終端文字は CRLF とする。
- ・ 区切り文字はカンマとする。
- ・ 数字に関してはすべて「0」埋めフォーマットとし、測定値オーバーのときは、すべてのフィールドを「-」で埋める。

#### 〔電文フォーマット〕

##### ■測定 of データ要求

- ・ パソコン → 計器

#### CHn, D CRLF

①②③

- ① : ヘッダーCH 固定 2byte
- ② : チャンネル番号 1byte 0 : 両チャンネル 1 : 1 チャンネル 2 : 2 チャンネル
- ③ : 要求コード D 固定 1byte

- ・ 計器 → パソコン

※データメモリ、オートホールド実行時にも自動で送信される。

\*CH1 の場合

#### CH1, D, 0, 4, 1.000, 1, 0025.0, 0 CRLF

① ②③④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

- ① : チャンネルコード 3byte
- ② : 要求コード D 固定 1byte
- ③ : 測定項目 1byte 0 : 電気伝導率 1 : 電気抵抗率 2 : 濃度
- ④ : 温度補償 1byte 0 : OFF 1 : MTC(直線) 4 : ATC(直線)
- ⑤ : 測定値 5byte 有効数字 4 桁

- ⑥：単位 1byte 0： $\mu\text{S}/(\text{c})\text{m}$  1： $\text{mS}/(\text{c})\text{m}$  2： $\text{S}/(\text{c})\text{m}$  3： $\Omega\cdot(\text{c})\text{m}$   
4： $\text{k}\Omega\cdot(\text{c})\text{m}$  5： $\text{M}\Omega\cdot(\text{c})\text{m}$  6：%
- ⑦：温度 6byte
- ⑧：新旧単位 1byte 0：SI 単位 1：旧単位

\*CH2 の場合

**CH2, D, A, 0025.0, 0014.00 CRLF**

① ②③ ④ ⑤

- ①：チャンネルコード 3byte
- ②：要求コード D 固定 1byte
- ③：測定項目 1byte A：pH(ATC) M：pH(MTC) O：mV (通常モード)  
P：mV (Eh 換算モード)
- ④：温度 6byte
- ⑤：測定値 7byte

\*CH1,2 チャンネルの場合

※データメモリ、オートホールド実行時にも自動で送信される。

**CH0, D, 0, 4, 1.000, 1, 0025.0, 0, A, 0025.0, 0007.00 CRLF**

① ②③④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧⑨ ⑩ ⑪

- ①：チャンネルコード 3byte
- ②：要求コード D 固定 1byte
- ③：測定項目 1byte 0：電気伝導率 1：電気抵抗率 2：濃度
- ④：温度補償 1byte 0：OFF 1：MTC(直線) 4：ATC(直線)
- ⑤：測定値 5byte 有効数字 4 桁
- ⑥：単位 1byte 0： $\mu\text{S}/(\text{c})\text{m}$  1： $\text{mS}/(\text{c})\text{m}$  2： $\text{S}/(\text{c})\text{m}$  3： $\Omega\cdot(\text{c})\text{m}$   
4： $\text{k}\Omega\cdot(\text{c})\text{m}$  5： $\text{M}\Omega\cdot(\text{c})\text{m}$  6：%
- ⑦：温度 6byte
- ⑧：新旧単位 1byte 0：SI 単位 1：旧単位
- ⑨：測定項目 1byte A：pH(ATC) M：pH(MTC) O：mV (通常モード)  
P：mV (Eh 換算モード)
- ⑩：温度 6byte
- ⑪：測定値 7byte

#### ■メモリデータ要求

- ・ パソコン → 計器

**CHn, DM, xxxx [,xxxx] CRLF**

①② ③ ④ ⑤省略可

- ①：ヘッダーCH 固定 2byte
- ②：チャンネル番号 1byte 0：両チャンネル 1：1 チャンネル  
2：2 チャンネル

- ③：要求コード DM 固定 2byte
- ④：開始データナンバー 4byte 1~1000
- ⑤：終了データナンバー 4byte 1~1000

・ 計器 → パソコン

\*CH1 の場合

**CH1, DM, xxxx, 00, A, 2009/03/20, 12 : 34, 0, 4, 1.000, 1, 0025.0, 0, CRLF**

- |               |        |                         |                         |           |                        |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------|--------|-------------------------|-------------------------|-----------|------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| ①             | ②      | ③                       | ④                       | ⑤         | ⑥                      | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ | ⑬ |
| ①：チャンネルコード    | 3byte  |                         |                         |           |                        |   |   |   |   |   |   |   |
| ②：要求コード DM 固定 | 2byte  |                         |                         |           |                        |   |   |   |   |   |   |   |
| ③：データナンバー     | 4byte  | 1~1000                  |                         |           |                        |   |   |   |   |   |   |   |
| ④：固定コード 00    | 2byte  |                         |                         |           |                        |   |   |   |   |   |   |   |
| ⑤：固定コード A     | 1byte  |                         |                         |           |                        |   |   |   |   |   |   |   |
| ⑥：測定年月日       | 10byte |                         |                         |           |                        |   |   |   |   |   |   |   |
| ⑦：測定時間        | 5byte  |                         |                         |           |                        |   |   |   |   |   |   |   |
| ⑧：測定項目        | 1byte  | 0：電気伝導率                 | 1：電気抵抗率                 | 2：濃度      |                        |   |   |   |   |   |   |   |
| ⑨：温度補償        | 1byte  | 0：OFF                   | 1：MTC(直線)               | 4：ATC(直線) |                        |   |   |   |   |   |   |   |
| ⑩：測定値         | 5byte  | 有効数字 4 桁                |                         |           |                        |   |   |   |   |   |   |   |
| ⑪：単位          | 1byte  | 0： $\mu$ S/(c)m         | 1：mS/(c)m               | 2：S/(c)m  | 3： $\Omega \cdot$ (c)m |   |   |   |   |   |   |   |
|               |        | 4：k $\Omega \cdot$ (c)m | 5：M $\Omega \cdot$ (c)m | 6：%       |                        |   |   |   |   |   |   |   |
| ⑫：温度          | 6byte  |                         |                         |           |                        |   |   |   |   |   |   |   |
| ⑬：新旧単位        | 1byte  | 0：SI 単位                 | 1：旧単位                   |           |                        |   |   |   |   |   |   |   |

\*CH2 の場合

**CH2, DM, xxxx, 00, 1, 2009/03/20, 12 : 34, A, 025.0, 0014.00 CRLF**

- |               |        |                |           |             |   |   |   |   |   |
|---------------|--------|----------------|-----------|-------------|---|---|---|---|---|
| ①             | ②      | ③              | ④         | ⑤           | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
| ①：チャンネルコード    | 3byte  |                |           |             |   |   |   |   |   |
| ②：要求コード DM 固定 | 2byte  |                |           |             |   |   |   |   |   |
| ③：データナンバー     | 4byte  | 1~1000         |           |             |   |   |   |   |   |
| ④：固定コード 00    | 2byte  |                |           |             |   |   |   |   |   |
| ⑤：固定コード A     | 1byte  |                |           |             |   |   |   |   |   |
| ⑥：測定年月日       | 10byte |                |           |             |   |   |   |   |   |
| ⑦：測定時間        | 5byte  |                |           |             |   |   |   |   |   |
| ⑧：測定項目        | 1byte  | A：pH(ATC)      | M：pH(MTC) | O：mV(通常モード) |   |   |   |   |   |
|               |        | P：mV(Eh 換算モード) |           |             |   |   |   |   |   |
| ⑨：温度          | 6byte  |                |           |             |   |   |   |   |   |
| ⑩：測定値         | 7byte  |                |           |             |   |   |   |   |   |

\*CH1、2 の場合

CH0, DM, xxxx, 00, A, 2009/03/20, 12 : 34, 0, 4, 1.000, 1, 0025.0, 0, A,  
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭  
0025.0, 0014.00  
 ⑮ ⑯

① : チャンネルコード	3byte
② : 要求コード DM 固定	2byte
③ : データナンバー	4byte 1~1000
④ : 固定コード 00	2byte
⑤ : 固定コード A	1byte
⑥ : 測定年月日	10byte
⑦ : 測定時間	5byte
⑧ : 測定項目	1byte 0 : 電気伝導率 1 : 電気抵抗率 2 : 濃度
⑨ : 温度補償	1byte 0 : OFF 1 : MTC(直線) 4 : ATC(直線)
⑩ : 測定値	5byte 有効数字 4 桁
⑪ : 単位	1byte 0 : $\mu$ S/(c)m 1 : mS/(c)m 2 : S/(c)m 3 : $\Omega \cdot (c)m$ 4 : k $\Omega \cdot (c)m$ 5 : M $\Omega \cdot (c)m$ 6 : %
⑫ : 温度	6byte
⑬ : 新旧単位	1byte 0 : SI 単位 1 : 旧単位
⑭ : 測定項目	1byte A : pH(ATC) M : pH(MTC) O : mV(通常モード) P : mV(Eh 換算モード)
⑮ : 温度	6byte
⑯ : 測定値	7byte

#### ■セル定数の要求

- ・ パソコン → 計器

CH1, QJ CRLF

① ②

① : チャンネルコード	3byte
② : 要求コード QJ	2byte

- ・ 計器 → パソコン

CH1, QJ, 250.1, CRLF

① ② ③

① : チャンネルコード	3byte
② : 要求コード QJ	2byte
③ : セル定数	5byte

## ■機器情報の要求

- ・ パソコン → 計器

**CHn, Qxx CRLF**

①② ③

- |             |       |  |
|-------------|-------|--|
| ①：ヘッダーCH 固定 | 2byte |  |
| ②：チャンネル番号   | 1byte | 0：両チャンネル(Q3x、Q4x は除く)<br>1：1チャンネル 2：2チャンネル   |
| ③：要求コード     | 3byte | Q05：データナンバー Q11：セット名<br>Q12：セット番号<br>Q21：電気伝導率セル名または電極名<br>Q22：電気伝導率セルまたは製造番号<br>Q3n：pH 校正データ n<br>(n は 0~2 の範囲で 0 が pH 値が低いデータ。)<br>Q4m：pH 校正履歴 m<br>(m は 0~1 の範囲で 0 が一番新しい履歴。) |

- ・ 計器 → パソコン

〔Q05 の返信〕

**CH0, Q05, xxxx CRLF**

① ② ③

- |                  |       |
|------------------|-------|
| ①：チャンネルコード固定 CH0 | 3byte |
| ②：要求コード          | 3byte |
| ③：データナンバー        | 4byte |

〔Q11 の返信〕

**CH0, Q11, WM-32EP CRLF**

① ② ③

- |                  |                          |
|------------------|--------------------------|
| ①：チャンネルコード固定 CH0 | 3byte                    |
| ②：要求コード          | 3byte                    |
| ③：セット名           | 10byte (左そろえて空いた所はスペース。) |

〔Q12 の返信〕

**CH0, Q12, 1234567890 CRLF**

① ② ③

- |                  |                          |
|------------------|--------------------------|
| ①：チャンネルコード固定 CH0 | 3byte                    |
| ②：要求コード          | 3byte                    |
| ③：セット番号          | 10byte (左そろえて空いた所はスペース。) |

## [Q21 の返信]

\*CH1 の場合

**CH1, Q21, CT-27112B CRLF**

①      ②      ③

- |            |                          |
|------------|--------------------------|
| ①：チャンネルコード | 3byte                    |
| ②：要求コード    | 3byte                    |
| ③：電気伝導率セル名 | 10byte (左そろえて空いた所はスペース。) |

\*CH2 の場合

**CH2, Q21, GST-2729C CRLF**

①      ②      ③

- |            |                          |
|------------|--------------------------|
| ①：チャンネルコード | 3byte                    |
| ②：要求コード    | 3byte                    |
| ③：電極名      | 10byte (左そろえて空いた所はスペース。) |

\*CH1、2 の場合

**CH0, Q21, CT-27112B, GST-2729C CRLF**

①      ②      ③      ④

- |            |                          |
|------------|--------------------------|
| ①：チャンネルコード | 3byte                    |
| ②：要求コード    | 3byte                    |
| ③：電極名 1    | 10byte (左そろえて空いた所はスペース。) |
| ④：電極名 2    | 10byte (左そろえて空いた所はスペース。) |

## [Q22 の返信]

\*CH1 の場合

**CH1, Q22, 1234567890 CRLF**

①      ②      ③

- |               |                          |
|---------------|--------------------------|
| ①：チャンネルコード    | 3byte                    |
| ②：要求コード       | 3byte                    |
| ③：電気伝導率セル製造番号 | 10byte (左そろえて空いた所はスペース。) |

\*CH2 の場合

**CH2, Q22, 1234567890 CRLF**

①      ②      ③

- |            |                          |
|------------|--------------------------|
| ①：チャンネルコード | 3byte                    |
| ②：要求コード    | 3byte                    |
| ③：電極製造番号   | 10byte (左そろえて空いた所はスペース。) |





### ■pH 校正データの自動送信

※pH 校正が終了すると出力する。

- ・ 計器 → パソコン

[校正が正常に終了した場合]

**CH2, C, A, 025.0, 006.86 CRLF**

① ② ③ ④ ⑤

① : チャンネルコード	3byte	
② : コード C 固定	1byte	
③ : 温度補償	1byte	A : pH(ATC) M : pH(MTC)
④ : 温度	6byte	
⑤ : 校正値	7byte	

[校正エラーの場合]

**CH2, E<sub>xx</sub> CRLF**

① ②

① : チャンネルコード	3byte	
② : エラーコード	3byte	E11 : スロープエラー E12 : 不斉電位エラー E13 : 電位安定しない E14 : スロープと不斉電位エラー E15 : 標準液判別エラー E16 : 校正点オーバーエラー

### ■データナンバーの設定

- ・ パソコン → 計器

**CH0, S, xxxx CRLF**

① ② ③

① : チャンネルコード	3byte	
② : 設定コード S	1byte	
③ : 設定値	4byte	1~1000

- ・ 計器 → パソコン

**CH0, S, xxxx CRLF**

① ② ③

① : チャンネルコード	3byte	
② : 設定コード S	1byte	
③ : 設定値	4byte	
④ : 返信ステータス	2byte	OK : 正常 NG : 設定できない

### ■日時の設定

- ・ パソコン → 計器

CH0, RT, 20090320, 1234 CRLF

①      ②      ③      ④

- ① : チャンネルコード      3byte
- ② : 設定コード RT          2byte
- ③ : 年月日                    8byte
- ④ : 時分                      4byte

- ・ 計器 → パソコン

CH0, RT, xxxxxxxx, xxxx, xx CRLF

①      ②      ③      ④      ⑤

- ① : チャンネルコード      3byte
- ② : 設定コード RT          2byte
- ③ : 年月日                    8byte
- ④ : 時分                      4byte
- ⑤ : 返信ステータス        2byte    OK : 正常    NG : 設定できない

### ■その他

電文にないコードが送信されてきたら、電文の後に「,ER」をつけて返信する。

## (2) データ収録ソフト

- (a) 弊社では、オプションとしてパソコンに接続した場合に、測定データを CSV 形式で取り込むためのソフトウェア「データ収録ソフト(GP-LOG)」をご用意しています。
- (b) 本ソフトウェアで保存されたデータを、市販の表計算ソフトを使用して、表やグラフの作成などができます。

---

**【重要】** ・ 「データ収録ソフト(G-LOG2)」は、本計器では使用できません。

---

- (c) 詳細な内容につきましては、弊社までお問い合わせください。

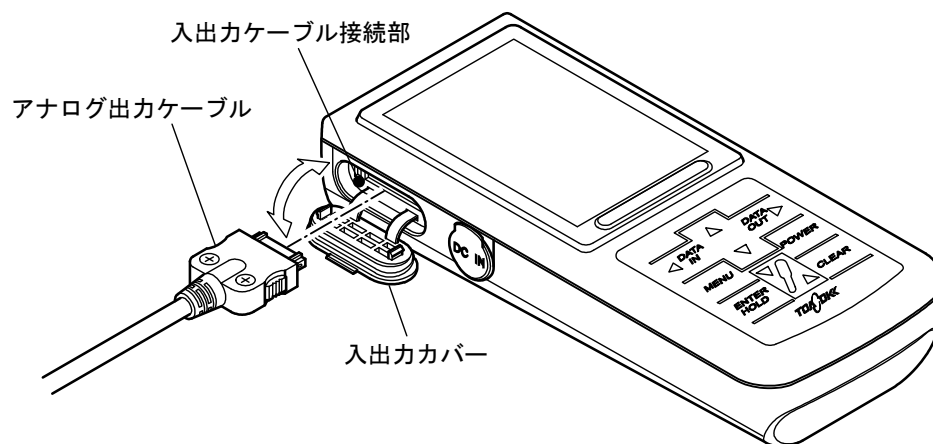
## 7.4 記録計との接続

- ⚠注意** 防水
- 製品は、pH 電極や電気伝導率セル、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを正しく取り付けた状態ではじめて防水構造 (IP67) となります。
  - pH 電極や電気伝導率セルを外したり、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを開けた状態で、濡れた手で触れたり、水で洗ったりしないでください。また、水や薬品などが入る恐れのある場所に、設置または保管しないでください。

**【重要】** ・アナログ出力ケーブルは、必ず、弊社のオプション部品を使用してください。弊社以外のものは、絶対に使用しないでください。

### (1) アナログ出力ケーブルの接続

- ① 電源オフを確認する……計器本体の電源がオフであることを確認してください。
- ② 出力プラグを接続する……計器本体の入出力カバーを外し、アナログ出力コネクターを入出力ケーブル接続部へ接続してください。



アナログ出力ケーブルの接続

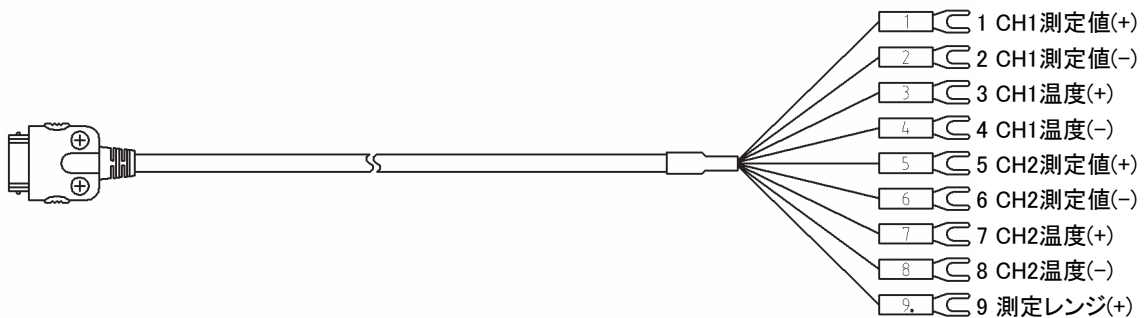
- ③ 記録計などを接続する……アナログ出力ケーブル(オプション)の他端である矢形端子(9本)を記録計などのアナログ出力端子台へ接続してください。
- ④ 電源スイッチをオンにする……計器本体の電源スイッチをオンにしてください。  
「測定状態」(INT. 消灯)での「測定画面」が表示されます。

## (2) アナログ出力の仕様

出力項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>測定値(電気伝導率/電気抵抗率/塩分換算値、pH/ORP(mV))</li> <li>温度</li> <li>測定レンジ</li> </ul>
出力 DC 電圧	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気伝導率/電気抵抗率/塩分換算値：フルスケール 1V</li> <li>pH 測定時：pH0~14→±700mV</li> <li>ORP 測定時：±2000mV→±1V</li> <li>温度：0~100°C→0~1V</li> <li>測定レンジ：100mV/レンジ</li> </ul>
接続ケーブル	弊社指定のアナログ出力ケーブル

※アナログ出力は、非絶縁です。

## (3) アナログ出力ケーブル端子結線



アナログ出力ケーブルのピン番号及び出力内容

ピン番号	出力内容
1	CH1 測定値(+)
2	CH1 測定値(-)
3	CH1 温度(+)
4	CH1 温度(-)
5	CH2 測定値(+)
6	CH2 測定値(-)
7	CH2 温度(+)
8	CH2 温度(-)
9	測定レンジ(+) <sup>※</sup>

※測定レンジ(-)は、いずれかの(-)を共用してご使用ください。

**【重要】** ・ 使用しないピンは他のピンとショートしないように、絶縁テープなどで絶縁してください。

## 8. 保守点検

### 8.1 本体のお手入れ

計器の汚れを取る場合には、乾いた布やティッシュペーパーなどの柔らかい材質のものでふいてください。また、汚れがひどい場合には、電気伝導率セル、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを正しく取り付けられた状態で、中性洗剤を薄めた液にガーゼなどを浸し、必ず、固く絞ってから計器本体をふいてください。

---

**⚠ 警告** 発火・感電 ●電極プラグ、AC アダプターカバー及び入出力カバーを脱着するときには、必ず、電源がオフであることを確認してから行ってください。製品内部に水や薬品が入ると、回路がショートし、感電や発火の恐れがあります。

---

**⚠ 注意** 防 水 ●製品は、pH 電極や電気伝導率セル、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを正しく取り付けられた状態ではじめて防水構造 (IP67) となります。

●pH 電極や電気伝導率セルを外したり、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを開けた状態で、濡れた手で触れたり、水で洗ったりしないでください。また、水や薬品などが入る恐れのある場所に、設置または保管しないでください。

---

- 【重要】**
- ・ 本器の汚れを取るときは、シンナーなどの有機溶媒は絶対に使用しないでください。ふいた部分に変色する場合があります。
  - ・ 電池カバーを取り付けるときは、パッキン及びリブ(パッキンをシールする部分)に傷などの劣化やゴミなどの付着がないことを確認してください。
    - ▷ 「4.2 電池の取り付け」
  - ・ もし、パッキンに傷や亀裂などの劣化がある場合は、必ず、新しいものと交換してください(▷ 「11. 部品／オプションリスト」)。また、パッキン及びリブにゴミが付着している場合は、きれいに取り除いてください。いずれの場合もそのまま使用すると、防水機能を保証できません。
  - ・ パッキンを交換する場合は、「4.2 電池の取り付け」の「③」を参照して正しく装着されていることを確認してください。もし、パッキンが電池カバーから外れている場合は、正しく装着し直してください。
  - ・ AC アダプターカバーまたは入出力カバーのOリングに傷や亀裂などの劣化がある場合は、必ず新しいものと交換してください(「11. 部品／オプションリスト」)。また、Oリングにゴミが付着している場合は、きれいに取り除いてください。いずれの場合もそのまま使用すると、防水機能を保証できません。
  - ・ Oリングを交換する場合は、ねじれないように正しく装着されていることを確認してください。
-

## 8.2 電気伝導率セルのお手入れ

- 
- ⚠注意** 防 水
- 製品は、pH 電極や電気伝導率セル、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを正しく取り付けた状態ではじめて防水構造 (IP67) となります。
  - pH 電極や電気伝導率セルを外したり、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを開けた状態で、濡れた手で触れたり、水で洗ったりしないでください。また、水や薬品などが入る恐れのある場所に、設置または保管しないでください。
- 

**【重要】** ・ 電気伝導率セルをクレンザーなどの研磨剤では絶対に洗浄しないでください。電気伝導率セル表面が傷つき、性能が低下します。

---

### (1) 通常のお手入れ

- ① 純水で洗浄する……電気伝導率セルの外筒を外し、極(金属部分)及び外筒を純水でよく洗浄してください。
- ② 水気をふき取る……洗浄後は、極(金属部分)及び外筒をティッシュペーパーなどで軽くふき取ってください。外筒を元のように装着してください。

### (2) 電気伝導率セルが汚れているときのお手入れ

電気伝導率セルが汚れると測定誤差が大きくなりますので、次の通り、セルを洗浄してください。

- ① 純水で洗浄する……電気伝導率セルの外筒を外し、極(金属部分)及び外筒を純水でよく洗浄してください。
- ② 中性洗剤でふき取る……中性洗剤をスポンジなどに付けて、セル先端をふき取ったのち、純水でよく洗浄してください。
- ③ 水気をふき取る……洗浄後は、極(金属部分)、外筒セル及び先端をティッシュペーパーなどで軽くふき取ってください。外筒を元のように装着してください。

## 8.3 pH 電極のお手入れ

**⚠ 警告** 危険有害物 ●電極の洗浄に使用する塩酸は有害物です。保護具を着けて取り扱ってください。なお、必ず、製品安全データシート(MSDS)を確認してください。

**⚠ 注意**

け が ●電極の一部はガラス製です。破損しないように気をつけて取り扱ってください。誤って破損した場合、ガラスの破片でけがをする可能性があります。

防 水 ●製品は、pH 電極や電気伝導率セル、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを正しく取り付けられた状態ではじめて防水構造(IP67)となります。

●pH 電極や電気伝導率セルを外したり、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを開けた状態で、濡れた手で触れたり、水で洗ったりしないでください。また、水や薬品などが入る恐れのある場所に、設置または保管しないでください。

**【重要】** ・電極をクレンザーなどの研磨剤では絶対に洗浄しないでください。電極表面が傷つき、性能が低下します。

### (1) 通常のお手入れ

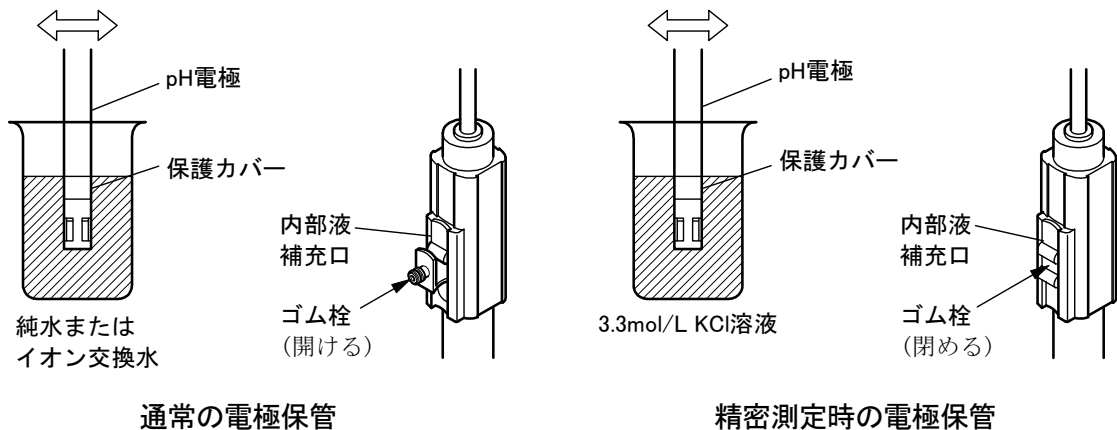
- ① **電極先端を洗浄する**……電極先端を純水で洗浄し、ティッシュペーパーなどで軽くふき取ってください。
- ・万一、乾燥状態のまま長期間放置した場合には、純水中に数時間以上浸すか、約 0.1mol/L 塩酸に約 30 分間浸したのち、純水で良く洗浄してください。

**【重要】** ・約 0.1mol/L 塩酸の場合は、30 分間以上浸すことは絶対に止めてください。性能が低下します。

- ② **内部液を入れ替える場合**……次の場合には、内部液補充口のゴム栓を外し、スポイトなどを差し込んで内部液を抜き取ったのち、電極に添付された「取扱説明書」を参照して、内部液を新しく補充してください。
- ・長期間使用しなかった場合
  - ・純水に長期間保存していた場合
  - ・塩酸で洗浄した場合
  - ・内部液が消耗している場合



- ③ **電極を一時保管する**……測定内容に応じて、以下の通り、電極をビーカーに入れて一時保管してください。
- (a) 通常は、ビーカーにイオン交換水または蒸留水などの純水を入れ、電極を浸してください。この場合は、電極の内部液補充口のゴム栓を開けたままにしてください。
- (b) 目安として 0.05pH 以下の再現性を必要とするような精密測定にご使用の場合は、ビーカーに 3.3mol/L 塩化カリウム溶液を入れ、電極を浸してください。この場合は、電極の内部液補充口のゴム栓を必ず閉めてください。



## (2) 電極が汚れているときのお手入れ

電極が汚れると応答が遅くなったり、感度が悪くなったりしますので、以下の通り、電極を洗浄してください。

### (a) 一般の汚れ

中性洗剤をガーゼなどにつけて電極の先端をふき取り、純水で洗浄してから、ティッシュペーパーなどで軽くふき取ってください。

また、汚れがひどい場合には、6mol/L 塩酸に約 10 分間浸し、純水で洗浄してから、2～3 時間、純水に浸してください。

---

**【重要】**・ 6mol/L 塩酸の場合は、10 分間以上浸すことは絶対に止めてください。性能が低下します。

---

### (b) 油の汚れ

エタノールなどの有機溶媒をガーゼなどにつけて電極の先端をふき取り、純水で洗浄してから、2～3 時間、純水に浸してください。

## 8.4 ORP 電極のお手入れ





<b>△注意</b>	け が	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電極の一部はガラス製です。破損しないように気をつけて取り扱ってください。誤って破損した場合、ガラスの破片でけがをする可能性があります。</li> </ul>
	防 水	<ul style="list-style-type: none"> <li>●製品は、pH 電極や電気伝導率セル、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを正しく取り付けた状態ではじめて防水構造 (IP67) となります。</li> <li>●pH 電極や電気伝導率セルを外したり、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを開けた状態で、濡れた手で触れたり、水で洗ったりしないでください。また、水や薬品などが入る恐れのある場所に、設置または保管しないでください。</li> </ul>

ORP 電極のお手入れについては、電極に添付された「取扱説明書」を参照してください。また、ORP 電極のチェック方法は、「5.10(3) ORP チェック液によるチェック」を参照してください。

## 8.5 電池の交換時期

- (a) 電池マークの表示が、次表の No. 4 のようになった場合は、電池を新しいものか、充電したものに交換してください。▷ 「4.2 電池の取り付け」
- (b) この残量表示は、単 3 形アルカリ乾電池と単 3 形充電式ニッケル水素電池とでは若干異なりますので、あくまでも目安程度としてください。
- (c) 電池交換時は時計が止まりますので、時刻合わせを行ってください。▷ 「5.3 時刻合わせ」

電池マークの表示と意味

No.	電池マークの表示状態	意 味
1.		・ 十分に使用できる状態。
2.		・ 若干の消費はあるものの十分に使用できる状態。
3.		・ かなり消費している。交換時期が近い。
4.		・ 交換が必要。

## 9. 故障かなと思ったときの処置

### 9.1 異常が発生したときの安全上の注意

万一、異常が発生したときには、電池を抜いてください。

また、AC アダプター (オプション) を使用している場合は、コンセントから抜いてください。



**警告**

発火・感電

●電極プラグ、AC アダプターカバー及び入出力カバーを脱着するときには、必ず、電源がオフであることを確認してから行ってください。製品内部に水や薬品が入ると、回路がショートし、感電や発火の恐れがあります。



**注意**

防 水

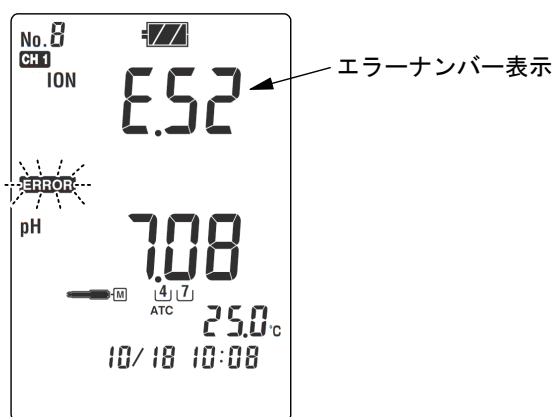
●製品は、pH 電極や電気伝導率セル、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを正しく取り付けられた状態ではじめて防水構造 (IP67) となります。

●pH 電極や電気伝導率セルを外したり、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを開けた状態で、濡れた手で触れたり、水で洗ったりしないでください。また、水や薬品などが入る恐れのある場所に、設置または保管しないでください。

### 9.2 エラー表示

(a) この計器は、操作ミスやトラブル発生を知らせるためのエラー表示機能があります。

エラーが発生すると、**ERROR** マークが点滅し、主表示部にエラーナンバーが表示され、[エラー表示画面]になります。



[エラー表示画面]

(b) 主表示部にエラーナンバーが表示されたら、次表の「エラー表示一覧表」を参照のうえ、適切な処置を行ってください。

(c) エラーナンバー表示を解除したいときは、[エラー表示画面] で任意のキーを押してください。[測定画面]に戻ります。

エラー表示一覧表

エラー ナンバー	内 容	原 因	対 策
01	電極種類エラー	・電極接続用コネクタの CH1 に電気伝導率セル以外を、また、CH2 に不適合な電極を接続した。	・電極接続用コネクタの CH1、2 に適合した電極を接続する。
02	メモリーFULL アラーム	・「メモリー上書きオンオフ設定」がオフ(OFF)の状態 でデータを保存させよう とした。	・[メモリー上書きオンオフ設定画面]でオン(ON)に設定する。▷「6.12 メモリー 上書きオンオフの設定」
09	温度校正エラー	・温度設定値に対し、±5°C 以上である。	・温度設定値を確認する。
38	セル定数校正 エラー	・セルが校正液に正しく漬 かっている。	・セルを校正液に正しく挿入する。 ▷「5.6 電気伝導率の測定」、「5.7 電気 抵抗率の測定」、「5.8 塩分換算値の測定」
		・セル外筒内部に気泡が入 っている。	・セルを上下に2、3回揺り動かし、気泡を 抜き取る。
		・校正液が劣化または間違 っている。	・校正液を交換する。
		・セルが汚れている。	・セルを洗浄する。▷「8.2 電気伝導率セ ルのお手入れ」
		・セルが劣化または破損し ている。	・セルを交換する。▷「4.3 pH 電極及び 電気伝導率セルの接続」、「4.4 電気伝導 率セルの確認」
11	校正時のスロープ (感度)エラー	・校正値を消去していない。	・校正値を消去し、校正をやり直す。 ▷「5.5 pH 校正」
		・電極が標準液に正しく漬 かっている。	・電極を標準液に正しく挿入する。 ▷「5.5 pH 校正」
		・比較内部液の不足または 濃度変化。	・内部液を補充または入れ替える。 ▷「8.3 pH 電極のお手入れ」
		・電極が汚れている。	・電極を洗浄する。▷「8.3 pH 電極のお 手入れ」
		・標準液が劣化または濃度 が間違っている。	・標準液を交換する。
		・電極の劣化または破損。	・電極を交換する。▷「4.3 pH 電極及び 電気伝導率セルの接続」

(続く)

(続き)

エラー ナンバー	内 容	原 因	対 策
12	pH7 標準液校正時の不斉電位エラー	・ 電極が標準液に正しく漬かっている。	・ 電極を標準液に正しく挿入する。 ▷ 「5.5 pH 校正」
		・ 比較内部液の不足または濃度変化。	・ 内部液を補充または入れ替える。 ▷ 「8.3 pH 電極のお手入れ」
		・ 電極が汚れている。	・ 電極を洗浄する。▷ 「8.3 pH 電極のお手入れ」
		・ 標準液が劣化または濃度が間違っている。	・ 標準液を交換する。
		・ 電極の劣化または破損。	・ 電極を交換する。▷ 「4.3 pH 電極及び電気伝導率セルの接続」
13	電位安定エラー	・ 電極が標準液に正しく漬かっている。	・ 電極を標準液に正しく挿入する。 ▷ 「5.5 pH 校正」
		・ 比較内部液が不足。	・ 内部液を補充する。
		・ 電極が汚れている。	・ 電極を洗浄する。▷ 「8.3 pH 電極のお手入れ」
		・ 標準液が間違っている。	・ 標準液を交換する。
		・ 電極の劣化または破損。	・ 電極を交換する。「4.3 pH 電極及び電気伝導率セルの接続」
14	不斉電位・スロープエラー	・ 電極が標準液に正しく漬かっている。	・ 電極を標準液に正しく挿入する。 ▷ 「5.5 pH 校正」
		・ 比較内部液の不足または濃度変化。	・ 内部液を補充または入れ替える。 ▷ 「8.3 pH 電極のお手入れ」
		・ 電極が汚れている。	・ 電極を洗浄する。▷ 「8.3 pH 電極のお手入れ」
		・ 標準液が劣化または濃度が間違っている。	・ 標準液を交換する。
		・ 電極の劣化または破損。	・ 電極を交換する。▷ 「4.3 pH 電極及び電気伝導率セルの接続」
15	標準液が判別できない(pH 校正時)。	・ 電極の保護キャップ(ゴム製)を付けたまま測定。	・ ゴムキャップを外す。
		・ 標準液が劣化または濃度が間違っている。	・ 標準液を交換する。
		・ 電極が標準液に正しく漬かっている。	・ 電極を標準液に正しく挿入する。 ▷ 「5.5 pH 校正」
		・ 比較内部液の不足または濃度変化。	・ 内部液を補充または入れ替える。 ▷ 「8.3 pH 電極のお手入れ」

(続く)

(続き)

エラー ナンバー	内 容	原 因	対 策
	標準液が判別できない(pH 校正時)。	・ 電極が汚れている。	・ 電極を洗浄する。▷ 「8.3 pH 電極のお手入れ」
		・ 電極の劣化または破損。	・ 電極を交換する。▷ 「4.3 pH 電極及び電気伝導率セルの接続」
16	校正点オーバー	・ 4 点以上で校正。	・ 三点校正までしかできない。▷ 「5.5(2) 校正の実行(一点校正、三点校正)」

## 9.3 その他のトラブルと対策

- (a) エラーナンバー表示以外のトラブル内容、原因及び対策は、次表の「その他のトラブルと対策」を参照してください。
- (b) これらの対策をしても回復しない場合、これ以外のトラブルが発生した場合または修理を依頼される場合には、セット/電気伝導率セル名、型名と計器本体背面の製造番号を確認し、販売店または弊社まで連絡してください。

### その他のトラブルと対策

トラブル内容	原 因	対 策
電源を入れても何も表示しない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電池が入っていない。</li> <li>・ 電池が消耗している。</li> <li>・ AC アダプター(オプション)が接続されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電池を交換する。▷ 「4.2 電池の取り付け」、「8.5 電池の交換時期」</li> <li>・ AC アダプター(オプション)を正しく接続する。</li> </ul>


(続く)

(続き)

トラブル内容	原因	対策
表示が変化しない。	・ ホールド状態になっている。	・ ホールドを解除する。
	・ セルまたは電極の接続が不完全。	・ セルまたは電極を正しく接続する。 ▷ 「4.3 pH 電極及び電気伝導率セルの接続」、「4.4 電気伝導率セルの確認」、「4.5 pH 電極の準備」
	・ セルまたは電極が劣化または破損している。	・ セルまたは電極を交換する。▷ 「4.3 pH 電極及び電気伝導率セルの接続」、「4.4 電気伝導率セルの確認」
指示がふらつく、 応答が遅い。	・ 極(金属部分)に気泡が入っている。	・ セルを上下に 2,3 回揺り動かし、気泡を抜き取る。
	・ セルまたは電極が汚れている。	・ セルまたは電極を洗浄する。▷ 「8.2 電気伝導率セルのお手入れ」、「8.3 pH 電極のお手入れ」、「8.4 ORP 電極のお手入れ」
	・ セルまたは電極が劣化または破損している。	・ セルまたは電極を交換する。▷ 「4.3 pH 電極及び電気伝導率セルの接続」、「4.4 電気伝導率セルの確認」、「4.5 pH 電極の準備」
	・ セルが校正液または試料に、正常に浸っていない。 ・ 電極の液絡部が、標準液または試料に浸っていない。	・ セルを校正液に正しく挿入する。 ▷ 「5.6 電気伝導率の測定」、「5.7 電気抵抗率の測定」、「5.8 塩分換算値の測定」 ・ 電極の液絡部が、標準液または試料に浸るようにする。▷ 「5.9 pH 測定」、「5.10 酸化還元電位(ORP)の測定」
	・ 試料に沈殿物などの SS 分が含まれている。	・ 電気伝導率測定するときには、このような試料の場合、値がふらついたり、応答が遅くなる場合がある。
	・ 比較電極内部液が不足している。 ・ 比較電極内部液濃度が変化している。	・ 比較電極内部液を補充または交換する。
	・ 試料の電気伝導率が低い。	・ pH 測定するときには、このような試料の場合、値がふらついたり、応答が遅くなる場合がある。

(続く)


(続き)

トラブル内容	原因	対策
測定値が点滅する。	・ 試料が測定範囲外の値。	・ 測定範囲外の試料は測定不可。
	・ セルまたは電極が劣化または破損している。	・ セルまたは電極を交換する。▷ 「4.3 pH 電極及び電気伝導率セルの接続」、「4.4 電気伝導率セルの確認」、「4.5 pH 電極の準備」
	・ セルが校正液または試料に、正常に浸っていない。 ・ 電極の液絡部が、標準液または試料に浸っていない。	・ セルを校正液に正しく挿入する。 ▷ 「5.6 電気伝導率の測定」、「5.7 電気抵抗率の測定」、「5.8 塩分換算値の測定」 ・ 電極の液絡部が、標準液または試料に浸るようにする。▷ 「5.9 pH 測定」、「5.10 酸化還元電位(ORP)の測定」
主表示部が「—」で点滅する。	・ セルまたは電極が劣化または破損している。	・ セルまたは電極を交換する。▷ 「4.3 pH 電極及び電気伝導率セルの接続」、「4.4 電気伝導率セルの確認」、「4.5 pH 電極の準備」
 が点滅する。	・ pH の校正間隔が過ぎています。	・ pH 校正を実行してください。▷ 「5.5 pH 校正」

## 9.4 システムリセットの方法

- (a) この計器がまったく動作しなくなったり、表示に異常が生じた場合は、システムリセットを行うことで正常に戻る場合があります。
- (b) システムリセットの方法は、以下の 2 通りがあります。いずれもリセットする前に、**POWER** を押して、計器の電源をあらかじめオフ(OFF)にしてください。

### (1) 全データ、パラメーターを工場出荷値に戻す場合

計器の電源がオフ(OFF)であることを確認後、**CLEAR** +  を押しながら、**POWER** を押してください。

### (2) 時計データと測定データ以外を工場出荷値に戻す場合

計器の電源がオフ(OFF)であることを確認後、**ENTER/HOLD** を押しながら、**POWER** を押してください。



## 10. 移送、保管、廃棄

### 10.1 移 送

- 【重要】
- ・ 必ず、納入時の梱包箱で梱包してください。また、箱を落としたり、転倒したり、箱の上に重量物を重ねて置いたりしないでください。計器の故障の原因になります。
  - ・ 輸送時には、必ず、指定の梱包資材を使用してください。指定外の梱包資材で輸送した場合の破損、故障については、保証の対象となりませんので、注意してください。
  - ・ 計器を移動する場合には、必ず、電源を切ってください。AC アダプター(オプション)をご使用のときは、コンセントから AC アダプターを抜いてください。

#### ⚠注意 防 水

- 製品は、pH 電極や電気伝導率セル、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを正しく取り付けられた状態ではじめて防水構造 (IP67)となります。
- pH 電極や電気伝導率セルを外したり、電池カバー、AC アダプターカバー及び入出力カバーを開けた状態で、濡れた手で触れたり、水で洗ったりしないでください。また、水や薬品などが入る恐れのある場所に、設置または保管しないでください。

## 10.2 保 管

### ⚠ 警告

- 
- |                  |  |
|------------------|--|
| 爆発・発火・<br>感電・液漏れ | ●爆発性ガス、可燃性ガスなどがある所では使用しないでください。<br>●製品を火の中に入れてたり、燃焼させたりしないでください。製品内部で爆発や発火の恐れがあります。<br>●電極プラグ、AC アダプターカバー及び入出力カバーを脱着するときには、必ず、電源がオフであることを確認してから行ってください。製品内部に水や薬品が入ると、回路がショートし、感電や発火の恐れがあります。<br>●長期間ご使用にならない場合、必ず、単3形アルカリ乾電池または単3形充電式ニッケル水素電池を製品から取り外してください。まれに電池より液漏れする場合があります。 |
|------------------|--|
- 

設置または保管場所の条件は、次のとおりです。

- ・ 温度(0～45℃)、湿度(20～90%)の範囲の所(ただし結露しないこと)。
- ・ 腐食性のガスが発生しない所。
- ・ 結露しない所。
- ・ 直射日光が当たらない所。
- ・ 振動がない所。
- ・ ほこり、ゴミの少ない所。
- ・ 空調器具からの風が、直接、当たらない所。
- ・ ストーブなどの暖房器具から離れている所。
- ・ 安定感があり、安全な所。

## 10.3 廃 棄

計器または試薬を廃棄する際は、地方自治体の条例に基づいて処理してください。詳しくは各地方自治体へお問い合わせください。

### ⚠ 注意

- 
- |     |  |
|-----|--|
| 廃 棄 | ●この製品やその一部である部品を廃棄するときは、産業廃棄物として法令に基づいて処置してください。 |
|-----|--|
-

# 11. 部品／オプションリスト

各種部品、オプション品などを購入される場合には、この製品を購入した販売店に注文してください。その際には、品名、型名、数量をお知らせください。

## 部品リスト(標準付属品)

品名	型名	販売単位	備考
ハンドストラップ	0TZ00006	1	
電池	当社では扱っておりません。		市販の単3形アルカリ乾電池、または単3形充電式ニッケル水素電池を購入してください。
コネクタ保護キャップ	0TD00001	1	
取扱説明書	WM-32EP	1	

## 電極／標準液類リスト

品名	型名	販売単位	備考
P シリーズ用電気伝導率セル	CT-27112B	1	一般／投げ込み測定用(リード長 1m) 防水
P シリーズ用電気伝導率セル	CT-27112B(5)	1	一般／投げ込み測定用(リード長 5m) 防水
P シリーズ用電気伝導率セル	CT-27112B(11)	1	一般／投げ込み測定用(リード長 11m) 防水
一般用電気伝導率セル	CT-57101B	1	浸漬型測定用(リード長 1m)
低電気伝導率用電気伝導率セル	CT-57101C	1	浸漬型測定用(リード長 1m)
高電気伝導率用電気伝導率セル	CT-57101A	1	浸漬型測定用(リード長 1m)
P シリーズ用 pH 複合電極	GST-2739C	1	一般／投げ込み測定用(リード長 1m) 防水
P シリーズ用 pH 複合電極	GST-2739C(5)	1	一般／投げ込み測定用(リード長 5m) 防水
P シリーズ用 pH 複合電極	GST-2739C(11)	1	一般／投げ込み測定用(リード長 11m) 防水
P シリーズ用 pH 複合電極	GST-2729C	1	一般／投げ込み測定用(リード長 1m) 防水、メモリー内蔵タイプ
P シリーズ用 pH 複合電極	GST-2729C(5)	1	一般／投げ込み測定用(リード長 5m) 防水、メモリー内蔵タイプ

(続く)

(続き)

品 名	型 名	販売単位	備 考
P シリーズ用 pH 複合電極	GST-2729C(11)	1	一般／投げ込み測定用(リード長 11m) 防水、メモリー内蔵タイプ
pH 複合電極	GST-5721C	1	精密測定用、ガラスボディー 非防水、メモリー内蔵タイプ
P シリーズ用 ORP 複合電極	PST-2739C	1	一般／投げ込み測定用(リード長 1m) 防水
P シリーズ用 ORP 複合電極	PST-2739C(5)	1	一般／投げ込み測定用(リード長 5m) 防水
P シリーズ用 ORP 複合電極	PST-2739C(11)	1	一般／投げ込み測定用(リード長 11m) 防水
P シリーズ用 ORP 複合電極	PST-2729C	1	一般／投げ込み測定用(リード長 1m) 防水、メモリー内蔵タイプ
P シリーズ用 ORP 複合電極	PST-2729C (5)	1	一般／投げ込み測定用(リード長 5m) 防水、メモリー内蔵タイプ
P シリーズ用 ORP 複合電極	PST-2729C (11)	1	一般／投げ込み測定用(リード長 11m) 防水、メモリー内蔵タイプ
電気伝導率セルチェック用 B 液	OBI00002	1	250mL×2 本入
調製 pH 標準液 pH 1.68	143F194	1	500mL
調製 pH 標準液 pH 4.01	143F191	1	500mL
調製 pH 標準液 pH 6.86	143F192	1	500mL
調製 pH 標準液 pH 9.18	143F193	1	500mL
調製 pH 標準液 pH 10.02	143F195	1	500mL
比較電極内部液 RE-4	0BG00011	1	50mL×3 本
ORP チェック液 キンヒドロン溶液	143F196	1	ORP 電極チェック用
ORP 電極研磨剤	A0-001	1	

## オプションリスト

品 名	型 名	販売単位	備 考
ACアダプター	7269270K	1	AC100V 50/60Hz
電極スタンド	6948810K	1 式	実験室などでご使用の場合。 スタンド、ストッパー、支柱付
電極ホルダー	0IB00001	1	
電極アタッチメント(DP)	0IB00007	1	
アンカー	0IC00001	1	電極を浸漬して測定する際、電極が浮いてしまうのを防止するための保持器。 電極リード線は、5m 以上のものをご使用ください。
φ1 SUS ロープ	0IZ00002	1	アンカーご使用の場合の補助ロープ。 12m
ステッキホルダー	0IB00009	1	測定ポイントに近づけない場合、高低差 が大きい場合など、楽な姿勢で安全な測 定が可能。
ツインステッキホルダー	0IB00010	1	電極 2 本を装着可能。
電気伝導率チェックプラグ	EC-1G	1	本体点検用のチェッカー。
pH チェッカー	PC-1G	1	本体点検用のチェッカー。
温度チェッカープラグ	TC-1G	1	本体点検用のチェッカー。
スターラー	ST-7	1	実験室などでご使用の場合。
外部プリンター	EPS-P30	1	接続ケーブル付き
外部プリンター用紙	P000119	1 パック (20 巻入)	非感熱紙
外部プリンター用インク リボン	ORD00001	1	1 個売り
外部プリンター用接続 ケーブル	118N061	1	※既に外部プリンター(EPS-G/EPS-R) をお持ちの場合、本ケーブルのみをご 用意いただくことで、プリンターのご 使用が可能です。
RS-232C 接続ケーブル	118N062	1	パソコン接続用、ケーブル長 2m
アナログ出力ケーブル	118N063	1	ケーブル長 1.5m
データ収録ソフト	GP-LOG	1	パソコンにデータを CSV 形式にて取り 込む。
ソフトケース	SC-10P	1	
収納ケース	0DA00001	1	
電池蓋パッキン	71535500	1	電池蓋用パッキン
O リング S10	115A867	1	AC アダプターカバー用
O リング S20	115A868	1	入出力カバー用

## (社内用記載事項)

取説 No. WM3-LB15500	2009. 9.25 (NC)	新版 (DSL 里(哲)、SD 中村(浩))
LB15501	2009.11. 6 (NC)	(画面例の差し替え、工場出荷値の追記、校正履歴機能の変更ほか) (DSL 里(哲)、SD 中村(浩))
LB15502	2009.12. 4 (NC)	(△警告(「爆発・発火・感電」、「発火・感電」と△注意(「防水」)のPL表記、電文フォーマットの変更ほか) (DSL 里(哲)、SD 中村(浩))
LB15503	2010. 4.30 (NC)	(PL 警告文追加ほか)／安全のために(2)△警告文タイトル「液漏れ」と7項目め以降追加／1. 表タイトル、表中9項目め／2. (1)表中追加／3. (2)図、表中④図／4.3(b)②図タイトル／5.1(2)図タイトル／5.2 画面追加／6.6(b)／6.9(c)表⑦ 3行め追加／6.16(2)表中⑨ 9行め／6.9(c)表⑦ 3行め追加／7.2(1)(b)上図、(2)(c)中央図／7.4(3)表タイトル、表中2列め削除／9.2 表タイトル、表中14、19、24、29、35 項目め／9.3 表中7項目め／10.2△警告文タイトル「液漏れ」と7項目め以降追加 (DSL 里、DEC 中村(浩))
LB15504	2011. 2.14 (NC)	(RS-232C、アナログ出力の非絶縁表記ほか)／2. (1)表中17、18項目2列め、(2)表中12、13項目2列め／7.1 新(b)追加、旧(b) → (c)へ (DSL 里、DEC 中村(浩))
LB15505	2013. 1.15 (DEC)	(比較電極内部液の名称、ACアダプター型名ほか)／安全のために【重要】、△注意「廃棄」削除／1.表中5項目2列め／3.(4)表中①項目3列め／4.2①図(差し替え)、④1つめの図(差し替え)／10. 2つめ表中21～26項目1、4列め、27項目1、2、4列め、3つめ表中1項目2列め、7項目1、4列め、裏表紙 (RSL 根岸(英)、DEC 中村(浩))
LB15506	2015. 6.23 (DEC)	(測定範囲の分解能記載)／2(1)表 6 項(電気伝導率と電気抵抗率の)分解能 (RSL 根岸(英)、DEC 栗林)

・印刷サイズ：B5 (版下サイズ：A4)、表紙はA判 86.5 kg相当、本文用紙は 44.5 kg相当、無線とじ。 RSL

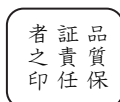




**製品合格証**  
**TEST CERTIFICATE**

**この製品が当社の厳密な検査に合格し、  
製品仕様を満足していることを証明します。**

We certify that product has tested  
in the company's standard and passed



**東亜ディーケーケー株式会社**  
**DKK-TOA CORPORATION**







## 東亜ディーケーケー株式会社

本 社 〒169-8648 東京都新宿区高田馬場 1-29-10  
Tel. 03-3202-0219 Fax. 03-3202-5127 (営業企画部)

## DKK-TOA CORPORATION

Head Office Address: 29-10, 1-Chome, Takadanobaba, Shinjuku-Ku, Tokyo, 169-8648 Japan  
Telephone: +81-3-3202-0225 Facsimile: +81-3-3202-5685  
URL <http://www.toadkk.co.jp/>

### お問い合わせ

#### ■ 製品情報

コールセンター (東京)  0120-590-219 FAX:03-3202-5127  
受付時間 9:00~12:00、13:00~17:00 (当社営業日) E-mail: [eigyo@toadkk.co.jp](mailto:eigyo@toadkk.co.jp)

#### ■ 保守・サービス

##### 東亜 DKK サービス株式会社

● 科学機器の保守  
RC サービス課 TEL: 042-563-5971 FAX: 042-563-5972  
受付時間 8:30~17:15 (当社営業日)

● 環境・プロセス分析機器の保守  
サービスコールセンター  0120-423-243  
東京技術サービスセンター TEL: 042-563-5705 FAX: 042-563-5604  
受付時間 8:30~17:15 (当社営業日) 緊急時は左記以外の時間でも受け付けます。